

2011年度 授業要覧

経営学部 履修ガイド



青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとり仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

総目次

I. 学事暦等	2
(2011年度年間スケジュール／キリスト教学事暦／教会暦・行事／キリスト教活動プログラム／個人情報の取扱いについて)	
II. 大学での学習活動について	7
1 大学での学習とは (カリキュラム／履修)	
2 単位 (単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定)	
3 授業科目の種類と配置 (授業科目の種類／履修年次／履修順序)	
III. 履修について	10
1 履修計画 (履修計画の立案／履修計画上の注意)	
2 履修登録 (履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修登録について／履修取消制度について／履修取消申請方法)	
IV. 学部履修要項	15
V. 授業について	115
1 授業 (授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について)	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	118
1 試験の種類 (定期試験／平常試験／レポート／追試験)	
2 定期試験の受験 (定期試験時間／受験上の注意／不正行為)	
3 追試験 (申請資格／申請方法／追試験時間・採点)	
VII. 成績評価について (成績評価／G.P.A.／成績通知／成績調査)	122
VIII. 進級および卒業について (進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度)	124
IX. 学籍について	125
(修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転部・転学部・転学科)	
X. 教職課程 (教員免許状・各種資格) について	127
XI. 大学院について	144
XII. 大学組織概要	155
1 大学役職員	
2 教育・研究組織	
3 教員組織	

I. 学事暦等

2011年度 年間スケジュール

		前 期						
月	日	月	火	水	木	金	土	
	4	3	4	5	6	7	8	
5	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
6	5	6	7	8	9	10	11	6月18日(土)アドバイザー・グループ・デー
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
				1	2	3	4	
7	3	4	5	6	7	8	9	7月22日(金)・23日(土)補講日(第一、二部とも) 7月25日(月)～28日(木)補講日(第二部のみ) 7月25日(月)～8月6日(土)前期定期試験期間
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
					1	2	3	
8	4	5	6	7	8	9	10	8月8日(月)～9月20日(火)夏期休業期間
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
				1	2	3		
9	4	5	6	7	8	9	10	9月21日(水)後期授業開始 9月24日(土)9月学部・大学院学位授与式
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		

○囲み表示日は休日授業実施日
□囲み表示日は学事上の休講日
ゴシック表示日は休・祝日
補講日（通常授業は休講）◇第一部・第二部とも
△第二部のみ

		後 期							
	日	月	火	水	木	金	土		
	10 月							1	
2		3	4	5	6	7	8	10月8日(土)～9日(日)相模原祭期間 (8日(土)は相模原キャンパスのみ休講)	
9		⑩	11	12	13	14	15	10月10日(月)体育の日は授業実施日	
16		17	18	19	20	21	22		
23		24	25	26	27	28	29	10月28日(金)～10月30日(日)青山祭期間	
30		31							
11 月				1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	⑩	17	18	19	11月16日(水)創立記念日は授業実施日	
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30					
12 月					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24	12月24日(土)～1月5日(木)冬期休業期間	
	25	26	27	28	29	30	31		
1 月	1	2	3	4	5	6	7	1月6日(金)後期授業再開	
	8	9	10	11	12	13	14	1月13日(金)センター試験準備日(実施キャンパスのみ休講)	
	15	16	◇	◇	◇	◇	◇	1月14日(土)・15日(日)センター試験(14日は実施キャンパスのみ休講)	
	22	△	△	△	26	27	28	1月17日(火)～19日(木)補講日(第一、二部とも)	
	29	30	31					1月21日(土)～25日(水)補講日(第二部のみ)	
								1月21日(土)～2月3日(金)後期定期試験期間	
2 月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29					
3 月					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24	3月24日(土)学部・大学院学位授与式	
	25	26	27	28	29	30	31		

キリスト教学事暦

新入生歓迎礼拝（相模原）	4月11日（月）～16日（土）
イースター礼拝（相模原・青山）	4月25日（月）
イースター礼拝（第二部）	4月26日（火）
チャペル・ウィーク（前期）	5月23日（月）～28日（土）
ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝（相模原・青山）	5月24日（火）
ペンテコステ礼拝（相模原・青山）	6月13日（月）
ペンテコステ礼拝（第二部）	6月14日（火）
清里サマー・カレッジ	8月8日（月）～10日（水）
チャペル・ウィーク（後期）	10月17日（月）～22日（土）
創立記念礼拝（第二部）	11月15日（火）
創立記念礼拝（相模原・青山）	11月16日（水）
クリスマス・ツリー点火祭	11月25日（金）
クリスマス礼拝（青山・第二部）	12月13日（火）
クリスマス礼拝（相模原）	12月15日（木）
卒業礼拝	3月24日（土）

教会暦・行事

棕櫚の主日（Palm Sunday）	4月17日（日）
受難週	4月17日（日）～4月23日（土）
聖（洗足）木曜日（Maundy Thursday）	4月21日（木）
受難日（Good Friday）	4月22日（金）
復活日（Easter）	4月24日（日）
母の日	5月8日（日）
ジョン・ウェスレー回心記念日	5月24日（火）
聖霊降臨日（Pentecost）	6月12日（日）
子どもの日（花の日）	6月12日（日）
平和聖日	8月7日（日）
世界聖餐日、世界宣教の日	10月2日（日）
伝道献身者奨励日	10月9日（日）
宗教改革記念日	10月31日（月）
収穫感謝日、謝恩日	11月20日（日）
待降節（Advent）	11月27日（日）～12月24日（土）
降誕日（Christmas）	12月25日（日）
降誕節	12月25日（日）～2012年1月5日（木）
主顯現節（Epiphany）	1月6日（金）～2月21日（火）
信教の自由を守る日	2月11日（土）
灰の水曜日（Ash Wednesday）	2月22日（水）
四旬節（Lent）	2月22日（水）～4月7日（土）

キリスト教活動プログラム

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院大学は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な大学です。したがって、本学では、キリスト教活動プログラムを非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育目的を達成するために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

(1) 大学礼拝

大学では、キリスト教活動の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 19時30分～20時、相模原・月～土 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

(2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。

(3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟(チャペル)1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために聖書研究会、フォーカス・グループ、青山キリスト教学生会(A.C.F.)、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、キリスト教図書の閲覧などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには専任の宗教主任がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。

学校法人青山学院の園児・児童・生徒・学生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

1. 学校法人青山学院（以下「本法人」といいます。）の園児・児童・生徒・学生等（以下「生徒等」といいます。）の主な個人情報は、次のとおりです。

- ① 生徒等本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
- ② 保護者または保証人（以下「保護者等」といいます。）の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・職業・本人との続柄・学費振替口座等
- ③ 生徒等の学籍・成績・健康診断・在学中の活動履歴情報等

2. 上記1. の情報は、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」に基づき、本法人が設置する学校（以下「設置学校」といいます。）及び設置学校の部局等において、生徒等の在籍管理、教育、生徒指導・支援等の業務ならびに当該業務に付随する生徒等・保護者等への連絡・通知など、教育に必要な範囲でのみ利用いたします。なお、利用する具体的な業務は次のとおりです。

- ① 入学時の学籍作成
- ② 学籍および教務管理
- ③ 課外活動、福利厚生、経済援助等、学生生活全般の支援
- ④ 進路・就職活動の支援
- ⑤ 学費の収納管理
- ⑥ 学内施設設備利用管理
- ⑦ 寄付金等の募集案内
- ⑧ 生徒等および保護者等への事務連絡通知
- ⑨ その他各設置学校独自の利用目的

なお、本法人が入手した個人情報の一部は、各設置学校の後援会と共同で利用いたします。詳細については、別途お知らせいたします。

3. 上記2. の業務を行う際には、本法人が入手した個人情報の漏洩、流出、不正使用等が生じないように必要な措置を講じます。また、個人情報を取り扱う業務を学外に委託するときは、委託先業者との間で契約を交わし、委託先に必要かつ適切な管理を義務付けます。

4. 各設置学校卒業者の個人情報は、青山学院校友会に対し、当該組織の活動に必要な範囲で提供します。また、青山学院が100%出資しております株式会社アイビー・シー・エス（株式会社青学サービスより名称変更）に、各種ご案内発送等のため必要な情報を提供することがあります。

5. 本法人は、上記2～4のほかには、特にご承諾いただいた場合を除いて個人情報を利用または第三者に提供しません。ただし、「個人情報の保護に関する法律」により第三者提供が認められている場合は、この限りではありません。

6. 青山学院大学および青山学院女子短期大学は学生への教育・指導をより適切に行うために、保証人の皆様にご理解とご協力をお願いしております。したがって、教育的配慮の必要性から保証人に対して学業成績等の開示や修業、履修状況等について相談を行っています。特別な事情により保証人に学業成績等の開示等を行うことに不都合がある場合は、大学青山キャンパス学務部教務課または相模原キャンパス学務グループ、女子短期大学事務部教務課にご連絡ください。

※青山学院における個人情報保護への取り組みについては青山学院ホームページ

http://www.aoyamagakuin.jp/info_protection/index.html を参照ください。

Ⅱ．大学での学習活動について

1．大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

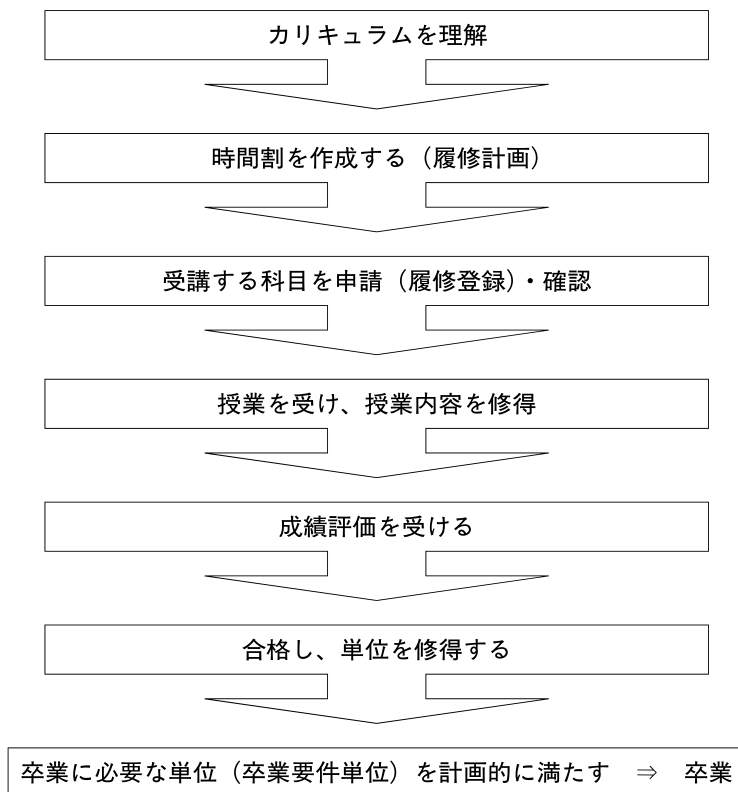
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下ようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2. 単 位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限＝“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間＝30時間分＝2単位

となります。

実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間(入学式翌日～前期授業開始日)に書類を相模原キャンパス学務グループに提出し申請してください。30単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って単位が認定されます(大学学則第42条参照)。この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転部または転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間(入学手続時配付書類に記載)に書類を青山キャンパス学務部教務課に提出し申請してください。

協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が30単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って認定されます。

3. 授業科目の種類と配置

授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしてゆく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。ただし『講義内容』に記載されている場合もありますので注意してください。

Ⅲ. 履修について

1. 履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(4)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「IV. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

冊子『講義内容』（学部によっては授業要覧巻末の「講義内容」）およびWeb版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「IV. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。また、『講義内容』の「履修年次」は履修可能な年次を表示しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「IV. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「IV. 学部履修要項」、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。
教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。
- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時

間の実施されている授業科目の履修はできません。

- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。
- (6) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。また、第二部の学生が第一部開講科目を履修することはできません。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

2. 履修登録

履修登録の方法

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。)

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」(パソコンまたは学内情報端末を使用)で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。それぞれについてよく読み、理解しておいてください。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。 注) 青山スタンダード教養コア科目(人間理解関連科目、社会理解関連科目、自然理解関連科目、歴史理解関連科目)は、学生ポータルに登録・申請メニューにある「青山スタンダード教養コア科目応募登録」から応募してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所(オリエンテーション期間中や初回授業等)で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

履修登録の確認と修正

【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の手続きは重要なものであり、一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。

履修が確定したら、**各自履修登録リストを印刷し、誤りがないか必ず確認してください。**
印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

なお、履修登録の期間は年度初頭のみに限られていますが、後期に履修変更期間を設けています。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して、各自で履修の変更を行ってください。

履修登録、後期履修変更に関する詳細は、次項「履修登録について」を参照してください。

履修登録について

1. 履修登録

履修登録期間

所 属	受 付 期 間
青山キャンパス：第一部	4月2日(土)9:30～4月18日(月)16:00
相模原キャンパス：第一部	4月2日(土)9:30～4月19日(火)16:00

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。

後期開講の制限科目も年度初頭に応募・登録を行います。登録した履修内容は必ず「学生ポータル」で確認してください。

履修登録・修正時の注意点（後期履修変更時と同様）

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切な対処をおこなってください。自分で解決できない場合は、各キャンパス窓口で相談してください。

登録や修正をおこなった後は、必ず「履修登録画面」で履修登録リストを印刷して確認してください。

2. 後期履修変更

後期に下記のとおり履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。

後期履修変更期間

9月29日(木)9:30～10月3日(月)16:00

後期の履修変更の際は、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目（抽選・制限カード・受講許可等）に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)～(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更を行った学生は、前期の履修登録と同様、変更の操作を行ったあと、履修変更期間内に履修登録リストを印刷し、修正に誤りがないか各自で確認してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。（第一部学生のみ）

$$\text{後期履修変更期間に追加できる単位数} = \text{当該年度の最高履修制限単位} - \left[\begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right] \quad (\text{後期科目のみ})$$

履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

- 1) 対象者：全学部生
 - 2) 対象科目：下記①、②を除く全科目
 - ① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
 - ② 制限科目
- ※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
- 3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
 - 4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
 - 5) 履修取消科目の成績評価の表示：
 - ① 成績通知書：「W」
 - ② 成績証明書：記載しない。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、以下の期間内に所属キャンパスの学務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。

	履修取消申請受付期間
前期科目および通年科目	5月10日(火)～16日(月)
後期科目	10月21日(金)～27日(木)

IV. 経営学部履修要項

A. 2011年度入学者

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について	16
【2】 青山スタンダード科目	18
【3】 外国語科目	28
【4】 専門科目	29
【5】 自由選択科目	35

B. 2009・2010年度入学者

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について	36
【2】 青山スタンダード科目	38
【3】 外国語科目	48
【4】 専門科目	49
【5】 自由選択科目	55

C. 2006～2008年度入学者

【1】 経営学部の履修について	56
【2】 経営学基礎科目	58
【3】 経営学専門科目	60
【4】 青山スタンダード科目	66
【5】 自由選択科目	76

D. 2003～2005年度入学者

【1】 経営学部の履修について	77
【2】 経営学基礎科目	80
【3】 経営学専門科目	83
【4】 青山スタンダード科目	90
【5】 自由選択科目	100

E. 他学部科目一覧表	101
-------------------	-----

A. 経営学部履修要項（2011年度入学者）

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について

1. 卒業要件

(1)卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業要件単位表（経営学科・マーケティング学科共通）

科目の種類		必選の別	必要単位	
青山スタンダード科目		必修	12	26
		選択必修	8	
		選択	6	
外国語科目	第一外国語科目	必修	12	
専門科目	A群：専門基礎科目	必修	12	62
	B群：基幹科目	選択必修	50	
	C群：経営学科専門科目			
	D群：マーケティング学科専門科目			
	E群：経営学関連科目			
自由選択科目		選択	28	
総計			128	

(2)学位について

経営学部に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした学生には、学位記を与え、学士（経営学）の学位を授与します。

2. 最高履修制限単位

各年次で履修できる単位の限度は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	44	46	50	184

3. 進級条件

2年次終了時に40単位（卒業要件単位）以上を修得しなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の1年間（休学期間を除きます）で修得単位が28単位に満たない学生には、修学の意味を確認するとともに嚴重注意を行います。更に入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、どちらにも該当することのないよう注意してください。

5. 編入学者について

編入学者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(例) 2011年度2年次編入学者……………2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

2011年度3年次編入学者……………2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

- 注1) 編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、授業科目の履修順序を適用しません。
- 注2) 2年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が34単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。
- 3年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が68単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。

6. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国人留学生の外国語科目は、以下のとおり履修してください。

A. 第一外国語科目の履修方法 (28ページ参照)

第一外国語科目の必要単位

必修 (12単位)

日本語初級 A (2単位)、日本語初級 B (2単位)、日本語初級 C (2単位)

日本語中級 A (2単位)、日本語中級 B (2単位)

日本語上級 (2単位)

B. 言葉の技能〔領域 F〕(第二外国語科目)の履修方法 (18~19ページ参照)

言葉の技能〔領域 F〕(第二外国語科目)の必要単位

必修 (4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。ただし、母語(第一言語)は第二外国語として履修できません。

- 注1) 入学手続時申請以外の第一外国語を履修することはできません。ただし、「メディア・イングリッシュ」「スピーチ・クリニック」を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。
- 注2) 申請した第二外国語以外の言葉の技能〔領域 F〕科目の単位は、自由選択科目に算入されます。ただし、母語(第一言語)は履修できません。
- 注3) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外などで既に学習したことのある学生が、その学力を「I修了者に準ずる」と認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、学生ポータル「学年初頭行事」を参照してください。

【2】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 (2011年度入学者)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必修の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修 ※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。 (「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
フレッシュヤーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)~(5)で修得した科目は除く)			選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルI-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・「(第二外国語) I (A)」「(第二外国語) I (B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話(I)」は、「(第二外国語) I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) III」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語) II」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) 会話(II)」は、「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話(I)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます (国際政治経済学部除く)。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

- 配置年次が1年次の科目の開講キャンパスは、2011年度に開講するキャンパスを表示しています。
- テーマ別科目の開講キャンパスは、2012年度に開講されるキャンパス(予定)を表示しています。

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	開 講 キャンパス	備 考
		フレッシュャーズ・セミナー	2	1	相	1年生のみ
		ウェルカム・レクチャー	2	1	相	1年生のみ
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	相	2011年度入学者1年生のみ
教 養 コア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	相	
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当
		自己理解 (個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当
		現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当
		科学・技術の視点(個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当
		歴史と人間 (個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当
		技 能 コア 科 目	英日語本語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1
英 語 ス キ ル I - 2	1			1	相	1年生のみ
第二外国語	(第二外国語) I (A)-1		1	1	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語) I (A)-2		1	1	相	
	(第二外国語) I (B)-1		1	1	相	
	(第二外国語) I (B)-2		1	1	相	
	英 語 I - 1		1	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
	英 語 I - 2		1	1	相	
	英 語 (I A) - 1		1	1	相	外国人留学生のみ
	英 語 (I A) - 2		1	1	相	外国人留学生のみ
	英 語 (I B) - 1		1	1	相	外国人留学生のみ
	英 語 (I B) - 2		1	1	相	外国人留学生のみ
日 本 語 I (A)	2		1	相	外国人留学生のみ	
日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ		
身体 の 技能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	相	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修	
情報 の 技能	情 報 ス キ ル I	2	1	相		
テ ー マ 別 科 目 (領域A)	キリスト教理解関連科目	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	相・青	理工学部・社会情報学部は2年次他は3年次配置
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	青	
		新 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	青	
		キリスト教生命倫理	2	2・3・4	青	
		キリスト教政治倫理	2	2・3・4	青	
		キリスト教と自然科学	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講
キリスト教環境倫理	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講		

キリスト教理解関連科目 (領域A)	キリスト教音楽	2	2・3・4	青		
	キリスト教美術	2	2・3・4	青		
	メソジスト教会史	2	2・3・4	青		
	世界の諸宗教	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講	
	聖書の中の女性たち(旧約)	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講	
	聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講	
	サービス・ラーニング I	2	2・3・4	青		
	サービス・ラーニング II	2	2・3・4	青		
	テ ー マ 別 科 目 人間理解関連科目 (領域B)	哲学 A	2	2・3・4	相・青	
		哲学 B	2	2・3・4	相・青	
		哲学の諸問題 A	2	2・3・4	青	
		哲学の諸問題 B	2	2・3・4	青	
		哲学の諸問題 C	2	2・3・4	青	
		哲学の諸問題 D	2	2・3・4	青	
		論理学 A	2	2・3・4	相	
		論理学 B	2	2・3・4	相	
		論理学の諸問題 A	2	2・3・4	青	
		論理学の諸問題 B	2	2・3・4	青	
		倫理学 A	2	2・3・4	相・青	
		倫理学 B	2	2・3・4	相	
		倫理学の諸問題 A	2	2・3・4	青	
		倫理学の諸問題 B	2	2・3・4	青	
		西洋倫理思想史 A	2	2・3・4	青	
		西洋倫理思想史 B	2	2・3・4	青	
		言語学 A	2	2・3・4	青	
		言語学 B	2	2・3・4	青	
		日本語学 A	2	2・3・4	青	
		日本語学 B	2	2・3・4	青	
文学 A		2	2・3・4	相・青		
文学 B		2	2・3・4	相・青		
文学史 A		2	2・3・4	青		
文学史 B		2	2・3・4	青		
美術 A		2	2・3・4	相・青		
美術 B		2	2・3・4	青		
美術史 A		2	2・3・4	青		
美術史 B		2	2・3・4	青		
音楽 A		2	2・3・4	相・青		
音楽 B		2	2・3・4	青		
音楽史 A		2	2・3・4	青		
音楽史 B		2	2・3・4	青		
文化人類学 A	2	2・3・4	相・青			
文化人類学 B	2	2・3・4	相・青			

人間理解関連科目 (領域B)	比較文化 A	2	2・3・4	青		
	比較文化 B	2	2・3・4	青		
	比較文化の諸問題 A	2	2・3・4	青		
	比較文化の諸問題 B	2	2・3・4	青		
	心理学 A	2	2・3・4	相・青	心理学科除く	
	心理学 B	2	2・3・4	相・青	心理学科除く	
	教育学 A	2	2・3・4	相		
	教育学 B	2	2・3・4	青		
	平和を考える A	2	2・3・4	青		
	平和を考える B	2	2・3・4	青		
	人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	青		
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	青		
	文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	青	国際政治経済学部除く	
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	青	国際政治経済学部除く	
	テーマ別科目 社会理解関連科目 (領域C)	法学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	相・青	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日本の法と社会 A	2	2・3・4	青	
日本の法と社会 B		2	2・3・4	青		
国際政治経済学 A		2	2・3・4	青		
国際政治経済学 B		2	2・3・4	青		
国際関係概論 A		2	2・3・4	青		
国際関係概論 B		2	2・3・4	青		
社会学 A		2	2・3・4	相・青		
社会学 B		2	2・3・4	相・青		
現代社会と教育人間学A		2	2・3・4	青		
現代社会と教育人間学B		2	2・3・4	青		
経済学 A		2	2・3・4	相・青	経済学部除く	
経済学 B		2	2・3・4	相・青	経済学部除く	
情報社会科学 A		2	2・3・4	相・青		
情報社会科学 B		2	2・3・4	相・青		
情報社会論		2	2・3・4	青		
社会情報論		2	2・3・4	青		
人口問題 A		2	2・3・4	青		
人口問題 B		2	2・3・4	青		
フェミニズム A		2	2・3・4	青		
フェミニズム B		2	2・3・4	青		
民族問題 A		2	2・3・4	青		
民族問題 B		2	2・3・4	青		
マスメディアと社会		2	2・3・4	青		
データサイエンス	2	2・3・4	青			
福祉と人間 A	2	2・3・4	青			
福祉と人間 B	2	2・3・4	青			

科目 社会理解関連 (領域C)	グローバリゼーションとWTO	2	2・3・4	青	
	日本農業とWTO	2	2・3・4	青	
	環境問題と社会	2	2・3・4	青	NPO 環境平和持続の会寄附講座
科目 自然理解関連 科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4	相・青	
	技術史 B	2	2・3・4	相・青	
	日常生活の数理	2	2・3・4	相・青	
	数理科学入門 I	2	2・3・4	青	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
	数理科学入門 II	2	2・3・4	青	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
	数理科学の視点	2	2・3・4	相・青	
	数理モデル	2	2・3・4	相	本年度休講
	自然科学概論 A	2	2・3・4	相	本年度休講
	自然科学概論 B	2	2・3・4	相	本年度休講
	文化としての科学・技術A	2	2・3・4	青	
	文化としての科学・技術B	2	2・3・4	青	
	現代物理	2	2・3・4	青	
	ライフサイエンス	2	2・3・4	相	
	ゲノム	2	2・3・4	青	
	生物と地球環境	2	2・3・4	青	
	地球環境保全	2	2・3・4	青	
	バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4	青	
	地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	相	本年度休講
	生命と地球の歴史	2	2・3・4	相	本年度休講
	宇宙科学	2	2・3・4	相・青	
	野鳥の生態	2	2・3・4	相	
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4	青	
	植物生態学	2	2・3・4	相	2012年度休講予定
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4	相	
	環境科学 A	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講
	環境科学 B	2	2・3・4	相・青	両キャンパス隔年開講
	自然地理学 A	2	2・3・4	相	本年度休講
	自然地理学 B	2	2・3・4	相	本年度休講
	科学史	2	2・3・4	相・青	
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	青	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	青	
	かたちの科学	2	2・3・4	青	
自然史	2	2・3・4	青		
自然観の変遷	2	2・3・4	青		
科目 歴史理解関連 科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	相・青	
	日本社会史 A	2	2・3・4	相	
	日本社会史 B	2	2・3・4	青	
	日本社会史 C	2	2・3・4	青	

歴史理解関連科目 (領域E)	中国史 A	2	2・3・4	相	
	中国史 B	2	2・3・4	青	
	ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	相	
	ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	青	
	ヨーロッパ史 C	2	2・3・4	青	
	現代史 A	2	2・3・4	相・青	
	現代史 B	2	2・3・4	青	
	現代史 C	2	2・3・4	青	
	現代史 D	2	2・3・4	青	
	考古学 A	2	2・3・4	青	
	考古学 B	2	2・3・4	青	
	科学思想史 A	2	2・3・4	相・青	
	テーマ別科目	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	青
インテンシブ・(第二外国語)(B)		2	2・3・4	青	
インテンシブ・(第二外国語)(C)		2	2・3・4	青	
インテンシブ・(第二外国語)(D)		2	2・3・4	青	
(第二外国語) II (A)		2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
(第二外国語) II (B)		2	2・3・4	相・青	
(第二外国語) II (C)		2	2・3・4	相・青	
(第二外国語) II (D)		2	2・3・4	相・青	
(第二外国語) II (E)		2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
中国語 II (F)		2	2・3・4	相・青	
(第二外国語) II		2	2・3・4	青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
英語 II		2	2・3・4	青	フランス文学科のみ
英語 (II A)		2	2・3・4	相・青	外国人留学生のみ
英語 (II B)		2	2・3・4	相・青	外国人留学生のみ、旧称「英語II」
日本語 II		2	2・3・4	相・青	外国人留学生のみ
(第二外国語) III		2	3・4	青	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
フランス語 III (A)		2	3・4	青	フランス文学科除く
フランス語 III (B)	2	3・4	青	フランス文学科除く	
英語 III	2	3・4	青	フランス文学科のみ	
英語 (III)	2	3・4	相・青	外国人留学生のみ	
日本語 III	2	3・4	青	外国人留学生のみ	
言葉の技能 (領域F)					

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語 (フランス文学科のみ) を指します。
		(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		日本語 (I) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (VI) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (VI) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (VI) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (VI) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (I)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (II)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (III)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (IV)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (V)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (VI)	2	3	青	交換留学生のみ
アメリカ合衆国の社会と文化 A	2	2・3・4	相			
アメリカ合衆国の社会と文化 B	2	2・3・4	青			
英語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	青	国際政治経済学部除く		
英語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青			
フランス語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相			

言葉の技能 (領域F)	フランス語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	フランス語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	青	
	ドイツ語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	ドイツ語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	ドイツ語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	青	
	スペイン語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	スペイン語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	スペイン語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	青	
	中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	中国語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	青	
	ロシア語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	ロシア語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	韓国・朝鮮の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	韓国・朝鮮の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	イスラム圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
	イスラム圏の社会と文化 B	2	2・3・4	青	
	日 本 学 A	2	2・3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
	日 本 学 B	2	2・3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
	English Studies A	2	2・3・4	相・青	
	English Studies B	2	2・3・4	相・青	
	English Studies C	2	2・3・4	青	
	English Studies D	2	2・3・4	青	本年度休講
	English Studies E	2	2・3・4	青	本年度休講
	ことばの研究 A	2	2・3・4	相	
	ことばの研究 B	2	2・3・4	青	
	少数民族の社会と文化 A	2	2・3・4	青	本年度休講
	少数民族の社会と文化 B	2	2・3・4	青	本年度休講
	民族文化論 A	2	2・3・4	青	
	民族文化論 B	2	2・3・4	青	
	健康医学	2	2・3・4	相・青	
	身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	青	
	身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	青	
スポーツ生理学	2	2・3・4	相		
スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	相・青		
スポーツ心理学	2	2・3・4	青		
動きの人間学	2	2・3・4	青		
医療社会学	2	2・3・4	青		
スポーツ運動実習	1	2・3・4	相・青	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	相		
身体の技能 (領域G)					

テ ー マ 別 科 目	情報 の 技 能 (領 域 H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4	相・青	
		プログラミング基礎 II	2	2・3・4	相・青	
		情報スキル II	2	2・3・4	相	本年度休講
		eラーニング入門	2	2・3・4	相・青	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	相・青	
		教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	相・青	両キャンパス相互に隔年開講
		eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	相・青	
	キャリア の 技 能 (領 域 I)	キャリアデザイン基礎	2	2・3・4	相・青	
		キャリアデザイン応用	2	3・4	青	
		仕事力基礎論	2	3・4	青	
		日本語文章作成演習	2	2・3・4	相・青	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	相・青	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	青	
		感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	青	
		感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2・3・4	青	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	2・3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	2・3・4	青	
		現代金融の諸問題	2	2・3・4	青	金融青山会寄附講座
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	相・青	(株)近代セールス社寄附講座

【3】 外国語科目

1. 第一外国語科目履修方法および配置表

(1)第一外国語科目の必要単位 [] 内は単位数

必修 (12単位)

ジェネラル・リーディング [2]、ジェネラル・ライティング [2]

オーラル・コミュニケーション [2]

アカデミック・リーディング (A) [2]、アカデミック・リーディング (B) [2]

アドバンスト・イングリッシュ [2]

(2)第一外国語科目は、下表のように履修順序がありますので、計画的に履修するよう注意してください。

順序	履修年次	リーディング科目	ライティング科目	コミュニケーション科目
1	1年次	ジェネラル・リーディング	ジェネラル・ライティング	オーラル・コミュニケーション
2	2年次	アカデミック・リーディング(A) アカデミック・リーディング(B)	アカデミック・ライティング	ビジネス・コミュニケーション
3	3年次	アドバンスト・イングリッシュ		

(3)第一外国語科目 (選択科目) を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(4)再履修者のためのクラスが開講される場合は、再履修者は必ずそのクラスで受講しなければなりません。

(5)他学部の第一外国語科目は履修できません。

(6)外国人留学生の履修方法は、17ページ「6. 外国人留学生の外国語科目の履修について」を参照してください。

(3)第一外国語科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
① ジェネラル・リーディング	2	1	
② ジェネラル・ライティング	2	1	
③ オーラル・コミュニケーション	2	1	
④ アカデミック・リーディング(A)	2	2	①修得者のみ履修可能
⑤ アカデミック・リーディング(B)	2	2	
アカデミック・ライティング	2	2	②修得者のみ履修可能
ビジネス・コミュニケーション	2	2	
⑥ アドバンスト・イングリッシュ	2	3	①④⑤修得者のみ履修可能
メディア・イングリッシュ	2	3・4	
スピーチ・クリニック	4	3・4	
<外国人留学生用>			
日本語初級A	2	1	
日本語初級B	2	1	
日本語初級C	2	1	
日本語中級A	2	2	
日本語中級B	2	2	
日本語上級	2	3	

【4】 専門科目

1. 専門科目履修方法および配置表

< 2011年度入学者 >

(1) 専門基礎科目必要単位 () 内は単位数

・ 必修 (12単位) … 「専門基礎科目」

経営学基礎論Ⅰ (2)、商学基礎論Ⅰ (2)、会計学基礎論Ⅰ (2)

経営学基礎論Ⅱ (2)、商学基礎論Ⅱ (2)、会計学基礎論Ⅱ (2)

・ 選択必修 (50単位)

「基幹科目」「経営学科専門科目」「マーケティング学科専門科目」「経営学関連科目」より任意に50単位選択します。選択の必要単位を超えて修得した単位数は「自由選択科目」に算入されます。

(2) 専門科目配置表

(太字は必修科目)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
専 門 基 礎 科 目 (A群)	経営学基礎論Ⅰ	2	1	
	経営学基礎論Ⅱ	2	1	
	商学基礎論Ⅰ	2	1	
	商学基礎論Ⅱ	2	1	
	会計学基礎論Ⅰ	2	1	
	会計学基礎論Ⅱ	2	1	
	基 幹 科 目 (B群)	マネジメント論Ⅰ	2	2
マネジメント論Ⅱ		2	2	
事業戦略論Ⅰ		2	2	
事業戦略論Ⅱ		2	2	
マーケティング論Ⅰ		2	2	
マーケティング論Ⅱ		2	2	
流通論Ⅰ		2	2	
流通論Ⅱ		2	2	
財務会計論Ⅰ		2	2	
財務会計論Ⅱ		2	2	
管理会計論Ⅰ		2	2	
管理会計論Ⅱ		2	2	
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ		2	1・2	
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ		2	1・2	
経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ		2	1・2	本年度休講
経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ		2	1・2	本年度休講
情報ネットワークリテラシ		2	1・2	
経営情報Ⅰ		2	2	本年度休講
経営情報Ⅱ		2	2	本年度休講
ミクロ経済学基礎		4	1・2	
ファイナンス基礎Ⅰ		2	1・2	
ファイナンス基礎Ⅱ		2	1・2	
ファイナンスⅠ		2	2	
ファイナンスⅡ		2	2	
国際文化理解Ⅰ		2	2	
国際文化理解Ⅱ		2	2	
国際コミュニケーション特講		2	1~4	集中(認定用)
キャリア開発Ⅰ		2	1のみ	
キャリア開発Ⅱ		2	2のみ	本年度休講
キャリア開発Ⅲ		2	3のみ	
	経営史Ⅰ	2	2	
	経営史Ⅱ	2	2	

経営学科専門科目(C群)	企業法務Ⅰ	2	3・4	
	企業法務Ⅱ	2	3・4	
	経営戦略論Ⅰ	2	3・4	
	経営戦略論Ⅱ	2	3・4	
	経営組織論Ⅰ	2	2	
	経営組織論Ⅱ	2	2	
	組織心理学Ⅰ	2	3・4	
	組織心理学Ⅱ	2	3・4	
	人材育成論Ⅰ	2	3・4	
	人材育成論Ⅱ	2	3・4	
	人的資源管理論Ⅰ	2	3・4	
	人的資源管理論Ⅱ	2	3・4	
	サプライチェーン・マネジメントⅠ	2	3・4	
	サプライチェーン・マネジメントⅡ	2	3・4	
	事業創造戦略Ⅰ	2	3・4	
	事業創造戦略Ⅱ	2	3・4	
	経営データ分析基礎Ⅰ	2	1・2	
	経営データ分析基礎Ⅱ	2	1・2	
	経営データ分析応用Ⅰ	2	3・4	
	経営データ分析応用Ⅱ	2	3・4	
	経営情報システム論Ⅰ	2	3・4	
	経営情報システム論Ⅱ	2	3・4	
	サイバービジネス実習Ⅰ	2	2	
	サイバービジネス実習Ⅱ	2	2	
	マネジメントサイエンスⅠ	2	3・4	
	マネジメントサイエンスⅡ	2	3・4	
	産業労働衛生論	2	3・4	
	医療経営論	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論Ⅰ	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論Ⅱ	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論Ⅲ	2	3・4	本年度休講
	戦略・マネジメント特論Ⅳ	2	3・4	本年度休講
	競争戦略論Ⅰ	2	3・4	
	競争戦略論Ⅱ	2	3・4	
	組織行動論Ⅰ	2	3・4	
	組織行動論Ⅱ	2	3・4	
	中級簿記Ⅰ	2	2	
	中級簿記Ⅱ	2	2	
	企業評価論Ⅰ	2	3・4	
	企業評価論Ⅱ	2	3・4	
	実証会計論Ⅰ	2	3・4	
	実証会計論Ⅱ	2	3・4	本年度休講
	会計情報論Ⅰ	2	3・4	
会計情報論Ⅱ	2	3・4		
財務分析論Ⅰ	2	3・4		
財務分析論Ⅱ	2	3・4		
制度会計論Ⅰ	2	2		
制度会計論Ⅱ	2	2		
国際会計論Ⅰ	2	2		
国際会計論Ⅱ	2	2		
税務会計論Ⅰ	2	3・4		
税務会計論Ⅱ	2	3・4		
監査論Ⅰ	2	3・4		
監査論Ⅱ	2	3・4		
原価計算論	2	2		
コストマネジメント	2	3・4		

経営学科専門科目(C群)	意思決定会計論	2	2	
	予算管理論	2	2	
	戦略管理会計 I	2	2	本年度休講
	戦略管理会計 II	2	2	本年度休講
	財務管理論 I	2	2	
	財務管理論 II	2	2	
	証券投資論 I	2	2	
	証券投資論 II	2	2	(マーケティング学科 異名称同一科目)
	金融リスク・マネジメント論 I	2	3・4	リスク・マネジメント論 I
	金融リスク・マネジメント論 II	2	3・4	リスク・マネジメント論 II
	コーポレート・ファイナンス I	2	3・4	金融市場論 I
	コーポレート・ファイナンス II	2	3・4	金融市場論 II
	会計・ファイナンス特論 I	2	3・4	本年度休講
	会計・ファイナンス特論 II	2	3・4	本年度休講
	会計・ファイナンス特論 III	2	3・4	本年度休講
	会計・ファイナンス特論 IV	2	3・4	本年度休講
	経営演習 I	8	3のみ	
	経営演習 II	8	4のみ	
	マーケティング学科専門科目(D群)	統合マーケティングコミュニケーション	2	3・4
広告論 I		2	2	
広告論 II		2	2	
メディア論 I		2	3・4	
メディア論 II		2	3・4	
関係性マーケティング		2	3・4	
ソーシャルマーケティング		2	3・4	
文化創造マーケティング I		2	2	本年度休講
文化創造マーケティング II		2	2	
消費者行動論		2	3・4	
ブランド戦略論		2	3・4	
サービスマーケティング		2	3・4	
国際マーケティング		2	3・4	
スポーツマネジメント I		2	1・2	
スポーツマネジメント II		2	1・2	
統合マーケティング特論 I		2	3・4	
統合マーケティング特論 II		2	3・4	
統合マーケティング特論 III		2	3・4	
統合マーケティング特論 IV		2	3・4	
商業英語		4	3・4	
商業英語論		4	3・4	
貿易商務論		4	3・4	
損害保険論		4	3・4	
国際貿易論 I		2	2	
国際貿易論 II		2	2	
交通論 I		2	3・4	
交通論 II		2	3・4	
市場システム論 I		2	2	
市場システム論 II		2	2	(経営学科 異名称同一科目)
リスク・マネジメント論 I		2	3・4	金融リスク・マネジメント論 I
リスク・マネジメント論 II		2	3・4	金融リスク・マネジメント論 II
金融市場論 I		2	3・4	コーポレート・ファイナンス I
金融市場論 II		2	3・4	コーポレート・ファイナンス II
現代日本産業史	4	3・4	本年度休講	
社会情報ネットワーク論 I	2	3・4		
社会情報ネットワーク論 II	2	3・4		
流通情報システム論 I	2	2		
流通情報システム論 II	2	2		

マーケティング学科専門科目(D群)	流通政策Ⅰ	2	3・4	本年度休講	
	流通政策Ⅱ	2	3・4		
	国際経営論Ⅰ	2	3・4		
	国際経営論Ⅱ	2	3・4		
	市場システム特論Ⅰ	2	3・4		
	市場システム特論Ⅱ	2	3・4		
	市場システム特論Ⅲ	2	3・4		
	市場システム特論Ⅳ	2	3・4		
	イギリス文化論Ⅰ	2	3・4		本年度休講
	イギリス文化論Ⅱ	2	3・4		
	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3・4		本年度休講
	英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3・4		
	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3・4		本年度休講
	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3・4		
	韓国の経営文化Ⅰ	2	3・4	本年度休講	
	韓国の経営文化Ⅱ	2	3・4		
	アメリカ文化論Ⅰ	2	3・4	本年度休講	
	アメリカ文化論Ⅱ	2	3・4		
	世界の言語文化Ⅰ	2	3・4	本年度休講	
	世界の言語文化Ⅱ	2	3・4		
	国際ビジネス英語Ⅰ	2	1・2	本年度休講	
	国際ビジネス英語Ⅱ	2	1・2		
	経営演習Ⅰ	8	3のみ	本年度休講	
経営演習Ⅱ	8	4のみ			
経営学関連科目(E群)	経済原論	4	2		
	経済政策論Ⅰ	2	2		
	経済政策論Ⅱ	2	2		
	財政学Ⅰ	2	2		
	財政学Ⅱ	2	2		
	経済史概論Ⅰ	2	2		
	経済史概論Ⅱ	2	2		
	日本経済論Ⅰ	2	3・4		
	日本経済論Ⅱ	2	3・4		
	国際経済学Ⅰ	2	2		
	国際経済学Ⅱ	2	2		
	国際開発経済論Ⅰ	2	3・4		
	国際開発経済論Ⅱ	2	3・4		
	地域経済学Ⅰ	2	3・4		
	地域経済学Ⅱ	2	3・4		
	産業組織論Ⅰ	2	3・4		
	産業組織論Ⅱ	2	3・4		
	金融論Ⅰ	2	2		
	金融論Ⅱ	2	2		
	金融組織論	4	3・4		
	民法Ⅰ	4	3・4		
	民法Ⅱ	4	3・4		
	商法Ⅰ	4	3・4		
	商法Ⅱ	4	3・4		
	経済法	4	3・4		
	労働法	4	3・4		
	国際法	4	3・4		
	比較文化論Ⅰ	2	3・4		
比較文化論Ⅱ	2	3・4			

(3)経営演習の履修について

① 経営演習Ⅰの選考および履修について

- i 2年次後期に募集・選考を実施します。募集に関する詳細は『AGU SEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は現2年次生に限ります。
- ii 学生受入人数については、各担当者12名程度と規定されています。
- iii 選考結果により履修できないこともあります。
- iv 選考の合格者は3年次において履修しなければなりません。
- v 選考に合格した場合は、3年次の学年初頭に「経営演習Ⅰ」が事前登録されます。
- vi 担当者ごとに選考の基準が異なります。また、担当者によっては選考の際に所属学科の学生を優先することがあります。

② 経営演習Ⅱの履修について

- i 経営演習Ⅱは経営演習Ⅰの単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、4年次の学年初頭に事前登録されます。
- ii 履修を希望しない場合は必ず教務課に申し出てください。
- iii 履修した場合は必ず卒業論文を提出しなければなりません。
- iv 履修することによりこの科目は必修の扱いとなります。したがって、単位の修得ができない場合、他の選択科目で卒業要件を満たすことはできません。

③ 演習募集スケジュールについて

	2年次生	3・4年次生
4月		履修登録 (事前登録)
5月		
6月		
7月	(上旬) 募集告知	
8月		
9月	(下旬) 『AGU SEMINAR GUIDE』 配布 オリエンテーション、個別ガイダンス	
10月	(上旬) 第一次選考申込み (下旬) 第一次選考開始	
11月	(上旬) 第二次募集日程告知 (中旬) 第二次選考申込み (下旬) 第二次選考開始	
12月	(上旬) 第三次募集日程告知～申込み (中旬) 第三次選考開始	
1月		
2月		
3月		

(4)他学部学生の経営学専門科目の履修について

専門科目のうち、下記授業科目は、他学部学生は履修できません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
経営学基礎論Ⅰ	2	国際コミュニケーション特講	2	国際ビジネス英語Ⅰ	2
経営学基礎論Ⅱ	2	キャリア開発Ⅰ	2	国際ビジネス英語Ⅱ	2
商学基礎論Ⅰ	2	キャリア開発Ⅱ	2	経営演習Ⅰ	8
商学基礎論Ⅱ	2	キャリア開発Ⅲ	2	経営演習Ⅱ	8
会計学基礎論Ⅰ	2	サイバービジネス実習Ⅰ	2	経済政策論Ⅰ	2
会計学基礎論Ⅱ	2	サイバービジネス実習Ⅱ	2	経済政策論Ⅱ	2
マネジメント論Ⅰ	2	金融リスク・マネジメント論Ⅰ ※1	2	財政学Ⅰ	2
マネジメント論Ⅱ	2	金融リスク・マネジメント論Ⅱ ※2	2	財政学Ⅱ	2
流通論Ⅰ	2	コーポレート・ファイナンスⅠ ※3	2	日本経済論Ⅰ	2
流通論Ⅱ	2	コーポレート・ファイナンスⅡ ※4	2	日本経済論Ⅱ	2
管理会計論Ⅰ	2	メディア論Ⅰ	2	国際経済学Ⅰ	2
管理会計論Ⅱ	2	メディア論Ⅱ	2	国際経済学Ⅱ	2
情報ネットワークリテラシ	2	関係性マーケティング	2	地域経済学Ⅰ	2
経営情報Ⅰ	2	ソーシャルマーケティング	2	地域経済学Ⅱ	2
経営情報Ⅱ	2	スポーツマネジメントⅠ	2	産業組織論Ⅰ	2
ミクロ経済学基礎	4	スポーツマネジメントⅡ	2	産業組織論Ⅱ	2
ファイナンス基礎Ⅰ	2	統合マーケティング特論Ⅰ	2	金融論Ⅰ	2
ファイナンス基礎Ⅱ	2	統合マーケティング特論Ⅱ	2	金融論Ⅱ	2
国際文化理解Ⅰ	2	統合マーケティング特論Ⅲ	2		
国際文化理解Ⅱ	2	統合マーケティング特論Ⅳ	2		

※1・2 マーケティング学科の異名称同一科目「リスク・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」は、履修可能です。

※3・4 マーケティング学科の異名称同一科目「金融市場論Ⅰ／Ⅱ」は、履修可能です。

【5】 自由選択科目

自由選択科目の履修方法

選 択 (28単位)

① 専門科目 (専門基礎科目以外。基幹科目・経営学科専門科目・マーケティング学科専門科目・経営学関連科目)、青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。

② 他学部専門科目 (他学部科目一覧表参照)

注1) 他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。

注2) 本学部に同一名称科目がある場合は、履修できません。

③ 「社会調査士」の資格取得について (2008年度以降入学者対象)

経営学部生は、総合文化政策学部の所定科目 (下表及び「他学部科目一覧表」参照) の単位を修得し、資格認定を申請することで、大学卒業時に「社会調査士」の資格取得が可能です。

社会調査協会によると「社会調査士」は「調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を体験することにより、調査方法や分析方法に関する基本的能力を有する者」とされており、このような能力は、今後、行政・企業・NGO・NPO・研究機関などさまざまな社会的分野で高く評価されるようになると考えられています。この資格の取得を希望する学生は、下表の総合文化政策学部の所定の専門科目 6 科目の単位を修得してください。

なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

社会調査士資格取得のためのカリキュラム

標準カリキュラム		本学の対応授業科目	
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論 I	
B	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論 II	
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会調査法 I	
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学	
※	E	量的データ解析の方法に関する科目	社会統計学
※	F	質的な分析の方法に関する科目	社会調査法 II
	G	社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習

※EとFはどちらかひとつを選択してください。

B. 経営学部履修要項（2009・2010年度入学者）

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について

1. 卒業要件

(1)卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業要件単位表（経営学科・マーケティング学科共通）

科目の種類		必選の別	必要単位	
青山スタンダード科目		必修	12	26
		選択必修	8	
		選択	6	
外国語科目	第一外国語科目	必修	12	
専門科目	A群：専門基礎科目	必修	12	62
	B群：基幹科目	選択必修	50	
	C群：経営学科専門科目			
	D群：マーケティング学科専門科目			
	E群：経営学関連科目			
自由選択科目		選択	28	
総計			128	

(2)学位について

経営学部にて4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした学生には、学位記を与え、学士（経営学）の学位を授与します。

2. 最高履修制限単位

各年次で履修できる単位の限度は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	44	46	50	184

注) 教育職員免許状および各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）取得希望の申請をしている学生で、教職課程科目（教職課程科目配置表参照）を履修する場合は、上記制限単位を超えて履修できます。なお、教育職員免許状および司書教諭資格の取得希望の申請は、2009年度入学の経営学科所属学生のみ可能です。2010年度以降入学者は、教育職員免許状および司書教諭資格の取得希望の申請はできません。

3. 進級条件

2年次終了時に40単位（卒業要件単位）以上を修得しなければ3年次に進級できません。なお、この修得単位には教職課程科目（2009年度入学の経営学科所属学生のみ履修可能）の単位は含みません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の1年間（休学期間を除きます）で修得単位が28単位に満たない学生には、修学の意思を確認するとともに嚴重注意を行います。更に入学後の2年間（休学期間を除きます）

で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、どちらにも該当することのないよう注意してください。

5. 編入学者について

編入学者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(例) 2011年度2年次編入学者……………2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

2011年度3年次編入学者……………2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、授業科目の履修順序を適用しません。

注2) 2年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が34単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。

3年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が68単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。

6. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国人留学生の外国語科目は、以下のとおり履修してください。

A. 第一外国語科目の履修方法 (48ページ参照)

第一外国語科目の必要単位

必修 (12単位)

日本語初級 A (2単位)、日本語初級 B (2単位)、日本語初級 C (2単位)

日本語中級 A (2単位)、日本語中級 B (2単位)

日本語上級 (2単位)

B. 言葉の技能〔領域 F〕(第二外国語科目)の履修方法 (38~39ページ参照)

言葉の技能〔領域 F〕(第二外国語科目)の必要単位

必修 (4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。ただし、母語(第一言語)は第二外国語として履修できません。

注1) 入学手続時申請以外の第一外国語を履修することはできません。ただし、「メディア・イングリッシュ」「スピーチ・クリニック」を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

注2) 申請した第二外国語以外の言葉の技能〔領域 F〕科目の単位は、自由選択科目に算入されます。ただし、母語(第一言語)は履修できません。

注3) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外などで既に学習したことのある学生が、その学力を「I修了者に準ずる」と認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、学生ポータル「学年初頭行事」を参照してください。

【2】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 (2009・2010年度入学者)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必修の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修 ※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。 (「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
	フレッシュヤーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く)		選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルI-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・「(第二外国語) I (A)」「(第二外国語) I (B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話(I)」は、「(第二外国語) I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) III」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語) II」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) 会話(II)」は、「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話(I)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます（国際政治経済学部除く）。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。
- 総合文化政策学部生は、履修年次が3年次以上の青山キャンパス開講科目を2年次に履修できる場合があります。詳細は時間割表等で確認してください。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	開 講 キャンパス	備 考	
		フレッシュャーズ・セミナー	2	1	相	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	相	1年生のみ	
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	相		
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当	
		自己理解 (個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当	
		現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当	
	科学・技術の視点(個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当		
	(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目)	2	1	相	(総合科目): 複数の教員による担当		
	歴史と人間 (個別科目)	2	1	相	(個別科目): 一人の教員による担当		
技 能 コ ア 科 目	英日 語本 ・語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
		英 語 ス キ ル I - 2	1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
	言 葉 の 技 能	第 二 外 国 語	(第二外国語) I (A)-1	1	1	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	相	
			英 語 I - 1	1	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 I - 2	1	1	相	
			英 語 (I A) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
日 本 語 I (A)	2	1	相	外国人留学生のみ			
日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ			
身 体 的 技 能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	相	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修		
情 報 的 技 能	情 報 ス キ ル I	2	1	相			
テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (領域A)	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	相・青	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	相		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4	青		
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	3・4	青		
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	3・4	青		
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4	相		
		キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4	相		
		キ リ ス ト 教 音 楽	2	3・4	青		

テーマ別科目	キリスト教理解関連科目(領域A)	キリスト教美術	2	3・4	青	
		メソジスト教会史	2	3・4	青	
		キリスト教教育	2	3・4		閉講
		世界の諸宗教	2	2・3・4	相	旧称「比較宗教学」
		現代神学	2	3・4	青	
		キリスト教と社会福祉	2	3・4		閉講
		聖書の中の女性たち(旧約)	2	3・4	青	
		聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	相	旧称「聖書の中の女性たち」
		サービス・ラーニング I	2	2・3・4	相	
		サービス・ラーニング II	2	2・3・4	相	
	人間理解関連科目(領域B)	哲学 A	2	2・3・4	相	
		哲学 B	2	2・3・4	相	
		哲学の諸問題 A	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 B	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 C	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 D	2	3・4	青	
		論理学 A	2	2・3・4	相	
		論理学 B	2	2・3・4	相	
		論理学の諸問題 A	2	3・4	青	
		論理学の諸問題 B	2	3・4	青	
		倫理学 A	2	2・3・4	相	
		倫理学 B	2	2・3・4	相	
		倫理学の諸問題 A	2	3・4	青	
		倫理学の諸問題 B	2	3・4	青	
		西洋倫理思想史 A	2	3・4	青	
		西洋倫理思想史 B	2	3・4	青	
		言語学 A	2	2・3・4	相	
言語学 B		2	2・3・4	相		
日本語学 A		2	2・3・4	相		
日本語学 B		2	2・3・4	相		
文学 A	2	2・3・4	相			
文学 B	2	2・3・4	相			
文学史 A	2	3・4	青			
文学史 B	2	3・4	青			
美術 A	2	2・3・4	相			
美術 B	2	2・3・4	相			
美術史 A	2	3・4	青			
美術史 B	2	3・4	青			
音楽 A	2	2・3・4	相			
音楽 B	2	2・3・4	相			
音楽史 A	2	3・4	青			
音楽史 B	2	3・4	青			

人間理解関連科目 (領域B)	文化人類学 A	2	2・3・4	相・青		
	文化人類学 B	2	2・3・4	相・青		
	比較文化 A	2	2・3・4	相		
	比較文化 B	2	2・3・4	相		
	比較文化の諸問題 A	2	3・4	青		
	比較文化の諸問題 B	2	3・4	青		
	心理学 A	2	2・3・4	相	心理学科除く	
	心理学 B	2	2・3・4	相	心理学科除く	
	教育学 A	2	2・3・4	相		
	教育学 B	2	2・3・4	相		
	平和を考える A	2	3・4	青		
	平和を考える B	2	3・4	青		
	人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	相		
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	相		
	文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	テーマ別科目	法学（日本国憲法を含む）	4	2・3・4	相・青	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日本の法と社会 A	2	3・4	青	
日本の法と社会 B		2	3・4	青		
国際政治経済学 A		2	2・3・4	相		
国際政治経済学 B		2	2・3・4	相		
国際関係概論 A		2	2・3・4	相		
国際関係概論 B		2	2・3・4	相		
社会学 A		2	2・3・4	相・青		
社会学 B		2	2・3・4	相・青		
現代社会と教育人間学 A		2	2・3・4	相		
現代社会と教育人間学 B		2	2・3・4	相		
経済学 A		2	2・3・4	相	経済学部除く	
経済学 B		2	2・3・4	相	経済学部除く	
情報社会科学 A		2	2・3・4	相・青		
情報社会科学 B		2	2・3・4	相・青		
情報社会論		2	3・4	青		
社会情報論		2	3・4	青		
人口問題 A		2	2・3・4	相		
人口問題 B		2	2・3・4	相		
フェミニズム A		2	3・4	青		
フェミニズム B		2	3・4	青		
民族問題 A		2	3・4	青		
民族問題 B		2	3・4	青		
マスメディアと社会	2	2・3・4	相			
データサイエンス	2	2・3・4	相			
社会理解関連科目 (領域C)						

テ マ 別 科 目	社 会 理 解 関 連 科 目 (領 域 C)	福 祉 と 人 間 A	2	3・4	青	
		福 祉 と 人 間 B	2	3・4	青	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 A	2	2・3・4	相	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 B	2	2・3・4	相	
		感 性 ビ ジ ネ ス A ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	相・青	
		感 性 ビ ジ ネ ス B ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	相・青	
		感 性 ビ ジ ネ ス C ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感 性 ビ ジ ネ ス D ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	3・4	青	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	相	
		国際ビジネスと海外事情A	2	3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情B	2	3・4	青	
		グローバリゼーションとWTO	2	3・4	青	
		日 本 農 業 と W T O	2	3・4	青	
		環 境 問 題 と 社 会	2	3・4	青	NPO 環境平和持続の会寄附講座
		現 代 金 融 の 諸 問 題	2	3・4	青	金融青山会寄附講座
		経 済 ・ 金 融 と ファイナンス	2	3・4	青	閉講
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	相・青	(株)近代セールス社寄附講座
	自 然 理 解 関 連 科 目 (領 域 D)	技 術 史 A	2	2・3・4	相	
		技 術 史 B	2	2・3・4	相	
		日 常 生 活 の 数 理	2	2・3・4	相	
		数 理 科 学 入 門 I	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数 理 科 学 入 門 II	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数 理 科 学 の 視 点	2	2・3・4	相	
		数 理 モ デ ル	2	2・3・4	相	本年度休講
		自 然 科 学 概 論 A	2	2・3・4	相	本年度休講
		自 然 科 学 概 論 B	2	2・3・4	相	本年度休講
		文化としての科学・技術A	2	3・4	相・青	
		文化としての科学・技術B	2	3・4	相・青	
		現 代 物 理	2	2・3・4	相	
		ラ イ フ サ イ エ ン ス	2	2・3・4	相	
		ゲ ノ ム	2	2・3・4	相	
		生 物 と 地 球 環 境	2	3・4	青	
		地 球 環 境 保 全	2	3・4	青	
バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	青			
地球観 (自然と人の倫理)	2	2・3・4	相	本年度休講		
生 命 と 地 球 の 歴 史	2	2・3・4	相	本年度休講		
宇 宙 科 学	2	2・3・4	相			

自然理解関連科目 (領域D)	野鳥の生態	2	2・3・4	相		
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4	相		
	植物生態学	2	2・3・4	相		
	メカワールド	2	2・3・4	相	理工学部除く	
	経営管理の技術	2	2・3・4	相	理工学部除く	
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4	相		
	環境科学 A	2	2・3・4	相		
	環境科学 B	2	2・3・4	相		
	自然地理学 A	2	2・3・4	相	本年度休講	
	自然地理学 B	2	2・3・4	相	本年度休講	
	科学史	2	2・3・4	相		
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	相		
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	相		
	かたちの科学	2	2・3・4	相		
	自然史	2	2・3・4	相		
	自然観の変遷	2	2・3・4	相		
	テーマ別科目 歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	相・青	
		日本社会史 A	2	2・3・4	相	
日本社会史 B		2	2・3・4	相		
日本社会史 C		2	3・4	青		
中国史 A		2	2・3・4	相		
中国史 B		2	2・3・4	相		
中国史 C		2	3・4	青		
ヨーロッパ史 A		2	2・3・4	相		
ヨーロッパ史 B		2	2・3・4	相		
ヨーロッパ史 C		2	3・4	青		
現代史 A		2	2・3・4	相		
現代史 B		2	2・3・4	相		
現代史 C		2	2・3・4	相		
現代史 D		2	2・3・4	相		
考古学 A		2	2・3・4	相		
考古学 B		2	2・3・4	相		
科学思想史 A		2	2・3・4	相		
科学思想史 B		2	2・3・4	相		
言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	相	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)	2	2・3・4	相		
	インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4	相		
	インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4	相		
	(第二外国語)II(A)	2	2・3・4	相	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。	
	(第二外国語)II(B)	2	2・3・4	相		
	(第二外国語)II(C)	2	2・3・4	相		
(第二外国語)II(D)	2	2・3・4	相			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	(第二外国語) II (E)	2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
		中国語 II (F)	2	2・3・4	相	
		(第二外国語) II	2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		英語 II	2	2・3・4	相	フランス文学科のみ
		英語 (II A)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
		英語 (II B)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ、旧称「英語II」
		日本語 II	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
		(第二外国語) III	2	3・4	青	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		フランス語 III (A)	2	3・4	青	フランス文学科除く
		フランス語 III (B)	2	3・4	青	フランス文学科除く
		英語 III	2	3・4	青	フランス文学科のみ
		英語 (III)	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		日本語 III	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語 (フランス文学科のみ) を指します。
		(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		日本語 (I) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (I) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (II) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (III) D	1	3	青	交換留学生のみ
日本語 (IV) A	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語 (IV) B	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語 (IV) C	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語 (IV) D	1	3	青	交換留学生のみ		
日本語 (V) A	1	3	青	交換留学生のみ		

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域 F)	日本語 (V) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (I)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (II)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (III)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (IV)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (V)	2	3	青	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		アメリカ合衆国の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		英語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		ドイツ語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		スペイン語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		ロシア語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		ロシア語圏の社会と文化 B	2	3・4	青	
		韓国・朝鮮の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		韓国・朝鮮の社会と文化 B	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化 A	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化 B	2	3・4	青	
		日 本 学 A	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	相	
		English Studies B	2	2・3・4	相	
		English Studies C	2	3・4	青	
		English Studies D	2	3・4	青	本年度休講
English Studies E	2	3・4	青	本年度休講		
ことばの研究 A	2	2・3・4	相・青			
ことばの研究 B	2	3・4	青			
少数民族の社会と文化 A	2	3・4	青	本年度休講		
少数民族の社会と文化 B	2	3・4	青	本年度休講		
民族文化論 A	2	2・3・4	相			

テ ー マ 別 科 目		民 族 文 化 論 B	2	2・3・4	相	
	身 体 の 技 能 (領 域 G)	健 康 医 学	2	2・3・4	相・青	
		身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	相	
		身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	相	
		ス ポ ー ツ 生 理 学	2	2・3・4	相	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	相	
		ス ポ ー ツ 心 理 学	2	2・3・4	相	
		動 き の 人 間 学	2	2・3・4	相	
		医 療 社 会 学	2	2・3・4	相	
		ス ポ ー ツ 運 動 実 習	1	2・3・4	相・青	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次 から履修できます。
		アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	相	
	情 報 の 技 能 (領 域 H)	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 I	2	2・3・4	相・青	
		プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 II	2	2・3・4	相・青	
		情 報 ス キ ル II	2	2・3・4	相	本年度休講
		e ラ ー ニ ン グ 入 門	2	2・3・4	相	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	相	
		教育システムのための IT 入門	2	2・3・4	相	
		e ラ ー ニ ン グ の 法 的 課 題 入 門	2	2・3・4	相	

【3】 外国語科目

1. 第一外国語科目履修方法および配置表

(1)第一外国語科目の必要単位 [] 内は単位数

必修 (12単位)

ジェネラル・リーディング [2]、ジェネラル・ライティング [2]

オーラル・コミュニケーション [2]

アカデミック・リーディング (A) [2]、アカデミック・リーディング (B) [2]

アドバンスト・イングリッシュ [2]

(2)第一外国語科目は、下表のように履修順序がありますので、計画的に履修するよう注意してください。

順序	履修年次	リーディング科目	ライティング科目	コミュニケーション科目
1	1年次	ジェネラル・リーディング	ジェネラル・ライティング	オーラル・コミュニケーション
2	2年次	アカデミック・リーディング(A) アカデミック・リーディング(B)	アカデミック・ライティング	ビジネス・コミュニケーション
3	3年次	アドバンスト・イングリッシュ		

(3)第一外国語科目 (選択科目) を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(4)再履修者のためのクラスが開講される場合は、再履修者は必ずそのクラスで受講しなければなりません。

(5)他学部の第一外国語科目は履修できません。

(6)外国人留学生の履修方法は、37ページ「6. 外国人留学生の外国語科目の履修について」を参照してください。

(3)第一外国語科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
① ジェネラル・リーディング	2	1	
② ジェネラル・ライティング	2	1	
③ オーラル・コミュニケーション	2	1	
④ アカデミック・リーディング(A)	2	2	①修得者のみ履修可能
⑤ アカデミック・リーディング(B)	2	2	
アカデミック・ライティング	2	2	②修得者のみ履修可能
ビジネス・コミュニケーション	2	2	
⑥ アドバンスト・イングリッシュ	2	3	①④⑤修得者のみ履修可能
メディア・イングリッシュ	2	3・4	
スピーチ・クリニック	4	3・4	
<外国人留学生用>			
日本語初級A	2	1	
日本語初級B	2	1	
日本語初級C	2	1	
日本語中級A	2	2	
日本語中級B	2	2	
日本語上級	2	3	

【4】 専門科目

1. 専門科目履修方法および配置表

<2009・2010年度入学者>

(1)専門基礎科目必要単位 () 内は単位数

・必修 (12単位) …「専門基礎科目」

経営学基礎論 (4)、商学基礎論 (4)、会計学基礎論 (4)

・選択必修 (50単位)

「基幹科目」「経営学科専門科目」「マーケティング学科専門科目」「経営学関連科目」より任意に50単位選択します。選択の必要単位を超えて修得した単位数は「自由選択科目」に算入されます。

(2)専門科目配置表

(太字は必修科目)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
専 門 基 礎 群 (A)	経営学基礎論	4	1	
	商学基礎論	4	1	
	会計学基礎論	4	1	
基 幹 科 目 (B)	マネジメント論Ⅰ	2	2	
	マネジメント論Ⅱ	2	2	
	事業戦略論Ⅰ	2	2	
	事業戦略論Ⅱ	2	2	
	マーケティング論	4	2	
	流通論	4	2	
	財務会計論	4	2	
	管理会計論	4	2	
	経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ	2	1・2	
	経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ	2	1・2	
	経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ	2	1・2	本年度休講
	経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ	2	1・2	本年度休講
	情報ネットワークリテラシー	2	1・2	
	経営情報Ⅰ	2	2	本年度休講
	経営情報Ⅱ	2	2	本年度休講
	ミクロ経済学基礎	4	1・2	
	ファイナンス基礎Ⅰ	2	1・2	
	ファイナンス基礎Ⅱ	2	1・2	
	ファイナンスⅠ	2	2	
	ファイナンスⅡ	2	2	
	国際文化理解Ⅰ	2	2	
	国際文化理解Ⅱ	2	2	
	国際コミュニケーション特講	2	1~4	集中(認定用)
キャリア開発Ⅰ	2	1のみ		
キャリア開発Ⅱ	2	2のみ	本年度休講	
キャリア開発Ⅲ	2	3のみ		
経 営 学 科 専 門 科 目 (C)	経営史Ⅰ	2	3・4	
	経営史Ⅱ	2	3・4	
	企業法務Ⅰ	2	3・4	
	企業法務Ⅱ	2	3・4	
	経営戦略論Ⅰ	2	3・4	
	経営戦略論Ⅱ	2	3・4	
	経営組織論Ⅰ	2	3・4	
	経営組織論Ⅱ	2	3・4	
	組織心理学Ⅰ	2	3・4	
	組織心理学Ⅱ	2	3・4	

経営学科専門科目(C群)	人材育成論 I	2	3・4	
	人材育成論 II	2	3・4	
	人的資源管理論 I	2	3・4	
	人的資源管理論 II	2	3・4	
	サプライチェーン・マネジメント I	2	3・4	
	サプライチェーン・マネジメント II	2	3・4	
	事業創造戦略 I	2	3・4	
	事業創造戦略 II	2	3・4	
	経営データ分析基礎 I	2	1・2	
	経営データ分析基礎 II	2	1・2	
	経営データ分析応用 I	2	3・4	
	経営データ分析応用 II	2	3・4	
	経営情報システム論 I	2	3・4	
	経営情報システム論 II	2	3・4	
	サイバービジネス実習 I	2	2	
	サイバービジネス実習 II	2	2	
	マネジメントサイエンス I	2	3・4	
	マネジメントサイエンス II	2	3・4	
	産業労働衛生論	2	3・4	
	医療経営論	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論 I	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論 II	2	3・4	
	戦略・マネジメント特論 III	2	3・4	本年度休講
	戦略・マネジメント特論 IV	2	3・4	本年度休講
	競争戦略論 I	2	3・4	
	競争戦略論 II	2	3・4	
	組織行動論 I	2	3・4	
	組織行動論 II	2	3・4	
	簿記論 I	4	1・2	教職課程を履修する2009年度入学経営学科所属学生のみ
	簿記論 II	4	3・4	
	企業評価論 I	2	3・4	
	企業評価論 II	2	3・4	
	実証会計論 I	2	3・4	
	実証会計論 II	2	3・4	本年度休講
	会計情報論 I	2	3・4	
	会計情報論 II	2	3・4	
	財務分析論 I	2	3・4	
	財務分析論 II	2	3・4	
	制度会計論 I	2	3・4	
	制度会計論 II	2	3・4	
	国際会計論 I	2	3・4	
国際会計論 II	2	3・4		
税務会計論 I	2	3・4		
税務会計論 II	2	3・4		
監査論 I	2	3・4		
監査論 II	2	3・4		
原価計算論	2	3・4		
コストマネジメント	2	3・4		
意思決定会計論	2	3・4		
予算管理論	2	3・4		
戦略管理会計 I	2	3・4	本年度休講	
戦略管理会計 II	2	3・4	本年度休講	
財務管理論 I	2	3・4		
財務管理論 II	2	3・4		
証券投資論 I	2	3・4		

経営学科専門科目(C群)	証券投資論Ⅱ	2	3・4	(マーケティング学科 異名称同一科目)	
	金融リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3・4	リスク・マネジメント論Ⅰ	
	金融リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3・4	リスク・マネジメント論Ⅱ	
	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3・4	金融市場論Ⅰ	
	コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3・4	金融市場論Ⅱ	
	会計・ファイナンス特論Ⅰ	2	3・4	本年度休講	
	会計・ファイナンス特論Ⅱ	2	3・4	本年度休講	
	会計・ファイナンス特論Ⅲ	2	3・4	本年度休講	
	会計・ファイナンス特論Ⅳ	2	3・4	本年度休講	
	経営演習Ⅰ	8	3のみ		
	経営演習Ⅱ	8	4のみ		
	マーケティング学科専門科目(D群)	統合マーケティングコミュニケーション	2	3・4	
		広告論	4	3・4	
メディア論		4	3・4		
関係性マーケティング		2	3・4		
ソーシャルマーケティング		2	3・4		
文化創造マーケティングⅠ		2	3・4	本年度休講	
文化創造マーケティングⅡ		2	3・4		
消費者行動論		2	3・4		
ブランド戦略論		2	3・4		
マーケティングチャネル		2	3・4		
サービスマーケティング		2	3・4		
国際マーケティング		2	3・4		
スポーツマネジメントⅠ		2	1・2		
スポーツマネジメントⅡ		2	1・2		
統合マーケティング特論Ⅰ		2	3・4		
統合マーケティング特論Ⅱ		2	3・4		
統合マーケティング特論Ⅲ		2	3・4		
統合マーケティング特論Ⅳ		2	3・4		
商業英語		4	3・4		
商業英語論		4	3・4		
貿易商務論		4	3・4		
損害保険論		4	3・4		
国際貿易論Ⅰ		2	3・4		
国際貿易論Ⅱ		2	3・4		
交通論		4	3・4		
市場システム論Ⅰ		2	3・4		
市場システム論Ⅱ		2	3・4	(経営学科 異名称同一科目)	
リスク・マネジメント論Ⅰ		2	3・4	金融リスク・マネジメント論Ⅰ	
リスク・マネジメント論Ⅱ		2	3・4	金融リスク・マネジメント論Ⅱ	
金融市場論Ⅰ		2	3・4	コーポレート・ファイナンスⅠ	
金融市場論Ⅱ		2	3・4	コーポレート・ファイナンスⅡ	
現代日本産業史		4	3・4	本年度休講	
社会情報ネットワーク論Ⅰ		2	3・4		
社会情報ネットワーク論Ⅱ		2	3・4		
流通情報システム論Ⅰ		2	3・4		
流通情報システム論Ⅱ		2	3・4		
流通政策Ⅰ		2	3・4		
流通政策Ⅱ		2	3・4	本年度休講	
国際経営論Ⅰ		2	3・4		
国際経営論Ⅱ		2	3・4		
市場システム特論Ⅰ		2	3・4		
市場システム特論Ⅱ	2	3・4			
市場システム特論Ⅲ	2	3・4			
市場システム特論Ⅳ	2	3・4			
イギリス文化論Ⅰ	2	3・4	本年度休講		

経営学部 (2009・2010年度入学者)

マーケティング学科専門科目(D群)	イギリス文化論Ⅱ	2	3・4	本年度休講 本年度休講
	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3・4	
	英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3・4	本年度休講 本年度休講
	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3・4	
	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3・4	
	韓国の経営文化Ⅰ	2	3・4	
	韓国の経営文化Ⅱ	2	3・4	
	アメリカ文化論Ⅰ	2	3・4	
	アメリカ文化論Ⅱ	2	3・4	
	世界の言語文化Ⅰ	2	3・4	
	世界の言語文化Ⅱ	2	3・4	
	国際ビジネス英語Ⅰ	2	1・2	
	国際ビジネス英語Ⅱ	2	1・2	
	経営演習Ⅰ	8	3のみ	
経営演習Ⅱ	8	4のみ		
経営学関連科目(E群)	経済原論	4	2	※
	経済政策論	4	3・4	
	財政学	4	3・4	
	経済史概論	4	2	
	日本経済論	4	3・4	
	国際経済学	4	2	
	国際開発経済論Ⅰ	2	3・4	
	国際開発経済論Ⅱ	2	3・4	
	地域経済学	4	3・4	
	産業組織論	4	3・4	
	金融論	4	2	
	金融組織論	4	3・4	
	民法Ⅰ	4	3・4	
	民法Ⅱ	4	3・4	
	商法Ⅰ	4	3・4	
	商法Ⅱ	4	3・4	
	経済法	4	3・4	
	労働法	4	3・4	
国際法	4	3・4		
比較文化論Ⅰ	2	3・4		
比較文化論Ⅱ	2	3・4		
関連職課程	職業指導	4	3・4	2009年度入学経営学科所属学生のみ。

※ 今年度は、相模原・青山の両キャンパスで開講されますが、対象学生は下記のとおりです。

相模原キャンパス開講「金融論」：経済学部生用

青山キャンパス開講「金融論」：経済学部生および経営学部生用（3・4年次生のみ）

(3)経営演習の履修について

① 経営演習Ⅰの選考および履修について

- i 2年次後期に募集・選考を実施します。募集に関する詳細は『AGU SEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は現2年次生に限ります。
- ii 学生受入人数については、各担当者12名程度と規定されています。
- iii 選考結果により履修できないこともあります。
- iv 選考の合格者は3年次において履修しなければなりません。
- v 選考に合格した場合は、3年次の学年初頭に「経営演習Ⅰ」が事前登録されます。
- vi 担当者ごとに選考の基準が異なります。また、担当者によっては選考の際に所属学科の学生を優先することがあります。

② 経営演習Ⅱの履修について

- i 経営演習Ⅱは経営演習Ⅰの単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、4年次の学年初頭に事前登録されます。
- ii 履修を希望しない場合は必ず教務課に申し出てください。
- iii 履修した場合は必ず卒業論文を提出しなければなりません。
- iv 履修することによりこの科目は必修の扱いとなります。したがって、単位の修得ができない場合、他の選択科目で卒業要件を満たすことはできません。

③ 演習募集スケジュールについて

	2年次生	3・4年次生
4月		履修登録 (事前登録)
5月		
6月		
7月	(上旬) 募集告知	
8月		
9月	(下旬) 『AGU SEMINAR GUIDE』配布 オリエンテーション、個別ガイダンス	
10月	(上旬) 第一次選考申込み (下旬) 第一次選考開始	
11月	(上旬) 第二次募集日程告知 (中旬) 第二次選考申込み (下旬) 第二次選考開始	
12月	(上旬) 第三次募集日程告知～申込み (中旬) 第三次選考開始	
1月		
2月		
3月		

(4)他学部学生の経営学専門科目の履修について

専門科目のうち、下記授業科目は、他学部学生は履修できません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
経営学基礎論	4	国際文化理解Ⅰ	2	関係性マーケティング	2
商学基礎論	4	国際文化理解Ⅱ	2	ソーシャルマーケティング	2
会計学基礎論	4	国際コミュニケーション特講	2	スポーツマネジメントⅠ	2
マネジメント論Ⅰ	2	キャリア開発Ⅰ	2	スポーツマネジメントⅡ	2
マネジメント論Ⅱ	2	キャリア開発Ⅱ	2	統合マーケティング特論Ⅰ	2
流通論	4	キャリア開発Ⅲ	2	統合マーケティング特論Ⅱ	2
管理会計論	4	サイバービジネス実習Ⅰ	2	統合マーケティング特論Ⅲ	2
情報ネットワークリテラシ	2	サイバービジネス実習Ⅱ	2	統合マーケティング特論Ⅳ	2
経営情報Ⅰ	2	金融リスク・マネジメント論Ⅰ ※1	2	国際ビジネス英語Ⅰ	2
経営情報Ⅱ	2	金融リスク・マネジメント論Ⅱ ※2	2	国際ビジネス英語Ⅱ	2
ミクロ経済学基礎	4	コーポレート・ファイナンスⅠ ※3	2	経営演習Ⅰ	8
ファイナンス基礎Ⅰ	2	コーポレート・ファイナンスⅡ ※4	2	経営演習Ⅱ	8
ファイナンス基礎Ⅱ	2	メディア論	4		

※1・2 マーケティング学科の異名称同一科目「リスク・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」は、履修可能です。

※3・4 マーケティング学科の異名称同一科目「金融市場論Ⅰ／Ⅱ」は、履修可能です。

(5)教職課程関連科目履修方法【2009年度入学経営学科所属学生のみ】

教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する科目」として開講する科目です。したがって、教育職員免許状取得希望の申請をしている学生以外は履修できません。履修については、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」ならびに別冊の『教職課程履修の手引（第一部）』を参照してください。なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

【5】 自由選択科目

自由選択科目の履修方法

選 択（28単位）

① 基幹科目、経営学科専門科目、マーケティング学科専門科目、経営学関連科目、青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。

② 他学部専門科目（他学部科目一覧表参照）

注1）他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。

注2）本学部に同一名称科目がある場合は、履修できません。

③ 「社会調査士」の資格取得について（2008年度以降入学者対象）

経営学部生は、総合文化政策学部の所定科目（下表及び「他学部科目一覧表」参照）の単位を修得し、資格認定を申請することで、大学卒業時に「社会調査士」の資格取得が可能です。

社会調査協会によると「社会調査士」は「調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を体験することにより、調査方法や分析方法に関する基本的能力を有する者」とされており、このような能力は、今後、行政・企業・NGO・NPO・研究機関などさまざまな社会的分野で高く評価されるようになると考えられています。この資格の取得を希望する学生は、下表の総合文化政策学部の所定の専門科目6科目の単位を修得してください。

なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

社会調査士資格取得のためのカリキュラム

標準カリキュラム		本学の対応授業科目	
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論Ⅰ	
B	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論Ⅱ	
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会調査法Ⅰ	
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学	
※	E	量的データ解析の方法に関する科目	社会統計学
※	F	質的な分析の方法に関する科目	社会調査法Ⅱ
	G	社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習

※EとFはどちらかひとつを選択してください。

C. 経営学部履修要項（2006～2008年度入学者）

【1】 経営学部の履修について

1. 卒業要件

(1)卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

科目の種別		必修の別	経営専門 コース	経営総合 コース	
経営学基礎科目	専門基礎科目	必修	12	12	
		選択	6	6	
	外国語科目	第一外国語	必修	12	12
	小計			30	30
経営学専門科目	基幹科目	選択必修	4	4	
	経営専門コース科目	選択必修	8		
	経営総合コース科目 (関連科目を除く)	選択必修		8	
	基幹科目 経営専門コース科目 経営総合コース科目	選択	40	32	
	小計			52	44
青山スタンダード科目		必修	12		
		選択必修	8		
		選択	6		
		小計	26		
自由選択科目		選択	26	34	
総計			134	134	

(2)学位について

経営学部に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした学生には、学位記を与え、学士（経営学）の学位を授与します。

◎経営学部では、3年次から経営専門コースと経営総合コースに分かれます。手続きの詳細については、「【3】経営学専門科目履修方法」を参照してください。

2. 最高履修制限単位

各年次で履修できる単位の限度は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	44	44	50	182

注) 教育職員免許状および各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）取得希望の申請をしている学生で、教職課程科目（教職課程科目配置表参照）を履修する場合は、上記制限単位を超えて履修できます。

3. 進級条件

2年次終了時に40単位（卒業要件単位）以上を修得しなければ3年次に進級できません。
なお、この修得単位には教職課程科目の単位は含みません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の1年間（休学期間を除きます）で修得単位が28単位に満たない学生には、修学の意味を確認するとともに厳重注意を行います。更に入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、どちらにも該当することのないよう注意してください。

5. 授業科目履修に当たっての注意

今年度末に卒業を希望する学生で、相模原キャンパスに配置されている1・2年次必修科目が未修得の場合は、青山キャンパス所属であっても相模原キャンパスに通わなければなりません。

6. 編入学者・転部者について

編入学者・転部者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例) 2008年度2年次編入学者・転部者の場合……2007年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 2008年度3年次編入学者の場合……………2006年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者・転部者は、編入学・転部してきた年度1年間に限り、授業科目の履修順序を適用しません。

注2) 2年次編入学者・転部者は、編入学・転部してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が34単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。

3年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が68単位に満たない場合、その差分については最高履修制限単位を超過して履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国人留学生の外国語科目は、以下のとおり履修してください。

A. 第一外国語科目の履修方法（59ページ参照）

第一外国語科目の必要単位

必修（12単位）

日本語初級 A（2単位）、日本語初級 B（2単位）、日本語初級 C（2単位）
 日本語中級 A（2単位）、日本語中級 B（2単位）
 日本語上級（2単位）

B. 言葉の技能〔領域 F〕（第二外国語科目）の履修方法（66～67ページ参照）

言葉の技能〔領域 F〕（第二外国語科目）の必要単位

必修（4単位）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。ただし、母語（第一言語）は第二外国語として履修できません。

注1) 入学手続時申請以外の第一外国語を履修することはできません。ただし、「メディア・イングリッシュ」「スピーチ・クリニック」を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

注2) 申請した第二外国語以外の言葉の技能〔領域 F〕科目の単位は、自由選択科目に算入されます。ただし、母語（第一言語）は履修できません。

注3) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外などで既に学習したことのある学生が、その学力を「I 修了者に準ずる」と認定された場合、II の科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、学生ポータル「学年初頭行事」を参照してください。

【2】 経営学基礎科目

1. 専門基礎科目履修方法および配置表

＜2006～2008年度入学者＞

(1)専門基礎科目必要単位 () 内は単位数

・必修(12単位)

経営学基礎論(4)、商学基礎論(4)、会計学基礎論(4)

・選択(6単位)

経営データ分析入門Ⅰ・Ⅱ(各4)、経営データ分析Ⅰ(4)、経営情報Ⅰ・Ⅱ(各2)、情報ネットワークリテラシ(2)、経営実践基礎Ⅰ・Ⅱ(各2)、経営総合基礎Ⅰ～Ⅳ(各2)、経営学文献講読(4)、ミクロ経済学基礎(4)、ファイナンス基礎(4)、ビジネス・ライティングⅠ・Ⅱ(各2)、キャリア・ディベロップメントⅠ・Ⅱ(各2)、グローバル・インターンシップⅠ・Ⅱ(各2、認定用)のうちから、6単位を選択とします。選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(2)専門基礎科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
経営学基礎論	4	1	
商学基礎論	4	1	
会計学基礎論	4	1	
経営データ分析入門Ⅰ	4	1・2	
経営データ分析入門Ⅱ	4	1・2	本年度休講
経営データ分析Ⅰ	4	1・2	
経営情報Ⅰ	2	2	本年度休講
経営情報Ⅱ	2	2	本年度休講
簿記論Ⅰ	4	1・2	教職課程履修者のみ
情報ネットワークリテラシ	2	1・2	
経営実践基礎Ⅰ	2	1・2	本年度休講
経営実践基礎Ⅱ	2	1・2	本年度休講
経営総合基礎Ⅰ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅱ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅲ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅳ	2	1・2	
経営学文献講読	4	1・2	本年度休講
ミクロ経済学基礎	4	1・2	
ファイナンス基礎	4	1・2	
ビジネス・ライティングⅠ	2	1・2	本年度休講
ビジネス・ライティングⅡ	2	1・2	本年度休講
キャリア・ディベロップメントⅠ	2	1・2	本年度休講
キャリア・ディベロップメントⅡ	2	3・4	本年度休講
グローバル・インターンシップⅠ	2	1～4	認定用。本年度休講
グローバル・インターンシップⅡ	2	3・4	認定用

2. 第一外国語科目履修方法および配置表

(1)第一外国語科目の必要単位 () 内は単位数

必修(12単位)

英語－ⅠA(2)、英語－ⅠB(2)、オーラル・イングリッシュⅠ(2)

英語－ⅡA(2)、英語－ⅡB(2)

英語－Ⅲ(2)

(2)第一外国語科目は、下表のように履修順序がありますので、計画的に履修するよう注意してください。

(太字は必修科目)

順序	履修年次	リーディング科目	ライティング科目	コミュニケーション科目
1	1年次	英語－ⅠA	英語－ⅠB	オーラル・イングリッシュⅠ
2	2年次	英語－ⅡA 英語－ⅡB	英語－ⅡC	オーラル・イングリッシュⅡ
3	3年次	英語－Ⅲ		

(3)第一外国語選択科目を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(4)再履修者のためのクラスが開講される場合は、再履修者は必ずそのクラスで受講しなければなりません。

(5)他学部の第一外国語科目は履修できません。

(6)外国人留学生の履修方法は、57ページ「7. 外国人留学生の外国語科目の履修について」を参照してください。

(3)第一外国語科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
英語－ⅠA	2	1	
英語－ⅠB	2	1	
オーラル・イングリッシュⅠ	2	1	
英語－ⅡA	2	2	
英語－ⅡB	2	2	
英語－ⅡC	2	2	
オーラル・イングリッシュⅡ	2	2	
英語－Ⅲ	2	3	
メディア・イングリッシュ	2	3・4	
スピーチ・クリニック	4	3・4	
<外国人留学生用>			
日本語初級A	2	1	
日本語初級B	2	1	
日本語初級C	2	1	
日本語中級A	2	2	
日本語中級B	2	2	
日本語上級	2	3	

【3】 経営学専門科目

1. 経営学専門科目履修方法

(1)コース登録について

2年次後期にコース（経営専門コース又は経営総合コース）の登録を行います。
コース登録については、後期授業開始時に配布される『AGU SEMINAR GUIDE』で、内容を確認後、経営専門コース又は経営総合コースのいずれかを選択してください。
経営専門演習・経営総合演習の履修希望者は（4）-①を参照してください。
経営専門演習・経営総合演習の履修を希望しない場合であっても、「コース登録期間」内でコース登録を行ってください。
日程など詳細は7月頃、「学生ポータル」で確認してください。

(2)経営学専門科目の必要単位

《経営専門コース》

選択必修（12単位）

- ① 基幹科目から4単位を選択必修とします。
- ② 経営専門コース科目から8単位を選択必修とします。

選 択（40単位）

基幹科目・経営専門コース科目・経営総合コース科目から任意に選択します（選択必修として修得した科目は除きます）。
注）選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

《経営総合コース》

選択必修（12単位）

- ① 基幹科目から4単位を選択必修とします。
- ② 経営総合コース科目の総合講義・学際講義・経営総合演習から8単位を選択必修とします。

選 択（32単位）

基幹科目・経営専門コース科目・経営総合コース科目から任意に選択します（選択必修として修得した科目は除きます）。
注）選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(3)総合講義ⅠおよびⅡの履修について

経営総合コースの学生は、「総合講義Ⅰ・総合講義Ⅱ」が3年次履修必修の事前登録科目でしたが、2009年度より通常の選択科目に変更になりました。したがって、履修を希望する学生は履修登録期間に、各自履修登録を行ってください。

(4)経営専門演習・経営総合演習について

① 経営専門演習Ⅰ・経営総合演習Ⅰの選考および履修について

- i 2年次後期に募集・選考を実施します。募集に関する詳細は『AGU SEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は現2年次生に限ります。
- ii 選考結果により履修できないこともあります。
- iii 選考の合格者は3年次において履修しなければなりません。
- iv 選考に合格した場合は、3年次の学年初頭に「経営専門演習Ⅰ」または「経営総合演習Ⅰ」が履修登録されます。

なお、コースについては経営専門演習Ⅰ合格者は経営専門コース、経営総合演習Ⅰ合格者は経営総合コースとなります。

② 経営専門演習Ⅱ・経営総合演習Ⅱの履修について

- i 経営専門演習Ⅱは経営専門演習Ⅰ、経営総合演習Ⅱは経営総合演習Ⅰの単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、4年次の学年初頭に事前登録されます。

- ii 履修を希望しない場合は必ず教務課に申し出てください。
- iii 履修した場合は必ず卒業論文を提出しなければなりません。
- iv 履修することによりこの科目は必修の扱いとなります。したがって、単位の修得ができない場合、他の選択科目で卒業要件を満たすことはできません。

③ 演習募集スケジュールについて

	2年次生	3・4年次生
4月		履修登録（事前登録）
5月		
6月		
7月	（上旬）募集告知	
8月		
9月	（下旬）冊子『AGU SEMINAR GUIDE』配布 オリエンテーション、個別ガイダンス	
10月	（上旬）第一次選考申込み （下旬）第一次選考開始	
11月	（上旬）第二次募集日程告知 （中旬）第二次選考申込み （下旬）第二次選考開始	
12月	（上旬）第三次募集日程告知～申込み （中旬）コース登録最終締め切り	
1月		
2月		
3月		

(5)卒業論文の提出について

提出日時：2012年1月11日（水）・12日（木） 教務課事務取扱時間

提出先：青山キャンパス教務課

- ① 提出日時に遅れた場合は、いかなる理由があろうとも一切受け付けません。
- ② 提出後の訂正、変更はできません。
- ③ 論文に使用する表紙、そのほか詳細については、指導教員の指示にしたがって作成し、レポート用の表紙を貼付し必要事項を記入してください。表紙の記入例は12月初旬に「学生ポータル」でお知らせします。
- ④ 論文の返還を希望する学生は、直接指導教員に申し出て指導教員から返還を受けてください。ただし、返還されない場合もありますので、各自提出前にコピーを取っておいてください。

(6)他コース学生の経営学専門科目の履修について

- ① 経営学専門科目のうち、下記授業科目は、経営専門コース学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
経営総合演習Ⅰ	8	経営総合演習Ⅱ	8

- ② 経営学専門科目のうち、下記授業科目は、経営総合コース学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
経営専門演習Ⅰ	8	経営専門演習Ⅱ	8

(7)他学部学生の経営学専門科目の履修について

専門科目のうち、下記授業科目は、他学部学生は履修できません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
マネジメント論	4	流通論	4	管理会計論	4
経営史	4	サイバービジネス実習	4	総合講義 I	2
総合講義 II	2	総合講義 IV	2	経営専門演習 I	8
経営専門演習 II	8	経営総合演習 I	8	経営総合演習 II	8

(8)教職課程関連科目履修方法

教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する科目」として開講する科目です。したがって、教育職員免許状取得希望の申請をしている学生以外は履修できません。履修については、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」ならびに別冊の『教職課程履修の手引（第一部）』を参照してください。なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

2. 経営学専門科目配置表

		授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
基 幹 科 目		マネジメント論	4	2	
		現代企業論	4	2	
		マーケティング論	4	2	
		流通論	4	2	
		管理会計論	4	2	
		財務会計論	4	2	
経 営 専 門 コ ー ス 科 目	経 営 理 念	経営史	4	3・4	
		企業法務	4	3・4	
	経 営 行 動	経営戦略論	4	3・4	
		事業創造戦略	4	3・4	
		経営組織論	4	3・4	
		組織心理学	4	3・4	
		人的資源管理論	4	3・4	
		事業戦略評価	4	3・4	本年度休講
		サプライチェーン・マネジメント	4	3・4	旧称 物流情報管理
		財務管理論	4	3・4	
	経 営 ・ 数 理 情 報	経営データ分析 II	4	3・4	
		経営情報システム論	4	3・4	
		インフォメーションマネジメント I	4	3・4	本年度休講
		インフォメーションマネジメント II	4	3・4	本年度休講
		サイバービジネス実習	4	2	
		マネジメントサイエンス I	2	3・4	
	マネジメントサイエンス II	2	3・4		
	マ ー ケ テ ィ ン グ マ ネ ジ メ ン ト	文化産業マーケティング論 I	2	3・4	本年度休講
		文化産業マーケティング論 II	2	3・4	
		消費者行動論	2	3・4	
		製品戦略論	2	3・4	
		マーケティングチャネル論	2	3・4	
		統合マーケティングコミュニケーション論	2	3・4	
		サービスマーケティング論	2	3・4	
国際マーケティング論		2	3・4		
	市場システム論	4	3・4	本年度休講	
	金融市場論	4	3・4		

	商業・市場システム	リスク・マネジメント論	4	3・4	
		広告論	4	3・4	
		交通論	4	3・4	
		国際貿易論	4	3・4	
		貿易商務論	4	3・4	
		商業英語論	4	3・4	
	会計システム	簿記論Ⅱ	4	3・4	
		原価計算論	2	3・4	
		連結会計論	2	3・4	本年度休講
	制度会計	制度会計論	2	3・4	
会計監査論		4	3・4		
税務会計論		4	3・4		
国際会計論		4	3・4		
管理会計・分析	意思決定会計論	2	3・4		
	予算管理論	2	3・4		
	原価管理論	2	3・4		
	会計情報論	4	3・4		
	財務分析論	4	3・4		
特殊講義	経営学特殊講義Ⅰ (人材育成論Ⅰ)	2	3・4		
	経営学特殊講義Ⅱ (人材育成論Ⅱ)	2	3・4		
	商学特殊講義Ⅰ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅰ)	2	3・4		
	商学特殊講義Ⅱ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅱ)	2	3・4		
	会計学特殊講義Ⅰ (企業評価論Ⅰ)	2	3・4		
	会計学特殊講義Ⅱ (企業評価論Ⅱ)	2	3・4		
	会計学特殊講義Ⅲ (国際会計論)	2	3・4	本年度休講	
	会計学特殊講義Ⅳ (会計学文献研究)	2	3・4	本年度休講	
経営演習	経営専門演習Ⅰ	8	3のみ		
	経営専門演習Ⅱ	8	4のみ		
経営総合コース科目	総合講義	総合講義Ⅰ	2	3・4	「経営学専門科目履修方法」(3)参照
		総合講義Ⅱ	2	3・4	「経営学専門科目履修方法」(3)参照
		総合講義Ⅳ	2	3・4	野村證券(株)寄附講座
		総合講義Ⅴ (企業戦略基礎概論)	2	3・4	旧称(ベンチャー経営戦略論)
		学際講義	企業と社会XXV (証券投資の基礎)	2	3・4
	企業と社会XXVII (企業価値を創造する経営)		2	3・4	
	企業と社会XXIX (研究開発戦略の会計情報)		2	3・4	
	企業と社会XXX (イノベーションに関する無形資産)		2	3・4	旧称(企業の価値創造力とイノベーションに関する知的資産)
	企業と社会XXXII (成熟化市場のマーケティング戦略)		2	3・4	本年度休講
	企業と社会XXXIII (社会対応のマーケティング戦略)	2	3・4	本年度休講	

企業と社会XXXV (統合マーケティングコミュニケーションの基礎)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XXXVI (M&Aとコーポレート・ガバナンス)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XXXVII (戦略と会計情報)	2	3・4	
企業と社会XXXVIII (戦略イノベーションと産業発展)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XXXIX (M&Aとコーポレート・ガバナンスI)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XL (M&Aとコーポレート・ガバナンスII)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XLI (リコールにともなうコスト問題)	2	3・4	本年度休講
企業と社会XLII (価値創造と会計情報)	2	3・4	
企業と社会XLIII (顧客戦略)	2	3・4	
企業と社会XLIV (ビジネス・モデル)	2	3・4	
技術と経営XXV (経営データ分析の方法)	2	3・4	本年度休講
技術と経営XXVII (企業組織の情報化)	2	3・4	旧称 (経営とコミュニケーション)
技術と経営XXVIII (IT革命と企業経営)	2	3・4	旧称 (経営とオフィス)
技術と経営XXIX (eラーニング総論)	2	3・4	本年度休講
技術と経営XXX (eラーニングを支えるITと国際標準化戦略)	2	3・4	寄附講座 本年度休講
技術と経営XXXI (eラーニングコース設計演習)	2	3・4	
技術と経営XXXII (オペレーションズ・マネジメント)	2	3・4	本年度休講
技術と経営XXXIII (イノベーションと組織)	2	3・4	本年度休講
技術と経営XXXIV (競争戦略論I)	2	3・4	
技術と経営XXXV (競争戦略論II)	2	3・4	
技術と経営XXXVI (人間行動の多面的分析I)	2	3・4	
技術と経営XXXVII (人間行動の多面的分析II)	2	3・4	
技術と経営XXXVIII (モバイルラーニング)	2	3・4	
経営組織と個人XIII (組織行動論I)	2	3・4	
経営組織と個人XIV (組織行動論II)	2	3・4	
経営と文化XIV (ショッピングセンター概論~まちづくりとSC経営)	2	3・4	寄附講座 本年度休講
経営と法XX (インターネットビジネスと法的課題)	2	3・4	寄附講座 本年度休講

	経営総合演習	経営総合演習 I	8	3のみ	
		経営総合演習 II	8	4のみ	
関連科目		経済原論	4	2	
		経済政策論	4	3・4	
		財政学	4	3・4	
		経済史概論	4	2	
		日本経済論	4	3・4	
		国際経済学	4	2	
		国際開発経済論 I	2	3・4	
		国際開発経済論 II	2	3・4	
		地域経済学	4	3・4	
		産業組織論	4	3・4	
		金融論	4	2	旧称 貨幣金融論 注)
		金融組織論	4	3・4	
		民法 I	4	3・4	
		民法 II	4	3・4	
		商法 I	4	3・4	
		商法 II	4	3・4	
		経済法	4	3・4	
		労働法	4	3・4	
		国際法	4	3・4	
		比較文化論 I	2	3・4	
	比較文化論 II	2	3・4		
教職課程	関連科目	職業指導	4	3・4	

教職課程関連科目は、教育職員免許状取得希望の申請をしている学生以外は履修できません。修得単位は自由選択科目に算入されます。

注) 今年度は、相模原・青山の両キャンパスで開講されますが、対象学生は下記のとおりです。

相模原キャンパス開講「金融論」：経済学部生用

青山キャンパス開講「金融論」：経済学部生および経営学部生用（3・4年次生のみ）

【4】 青山スタンダード科目履修方法および配置表（2006～2008年度入学者）

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必修の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修 ※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。 (「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
フレッシュヤーズ・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く)			選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部（学科）が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部（学科）の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキル I-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します（入学手続き時に申請されています）。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・「(第二外国語) I (A)」「(第二外国語) I (B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます（日本語は除く）。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話 (I)」は、「(第二外国語) I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) III」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語) II」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) 会話 (II)」は、「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話 (I)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます（国際政治経済学部除く）。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。
- 総合文化政策学部生は、履修年次が3年次以上の青山キャンパス開講科目を2年次に履修できる場合があります。詳細は時間割表等で確認してください。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	開 講 キャンパス	備 考		
		フレッシュャーズ・セミナー	2	1	相	1年生のみ		
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	相			
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目) 自己理解 (個別科目)	2 2	1 1	相 相	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目) 現代社会の諸問題(個別科目)	2 2	1 1	相 相	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目) 科学・技術の視点(個別科目)	2 2	1 1	相 相	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目) 歴史と人間 (個別科目)	2 2	1 1	相 相	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
	技 能 コ ア 科 目	英日 語本 ・語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
			英 語 ス キ ル I - 2	1	1	相	2007年度以降入学者1年生のみ	
		言 葉 の 技 能	第 二 外 国 語	(第二外国語) I (A)-1	1	1	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
				(第二外国語) I (A)-2	1	1	相	
				(第二外国語) I (B)-1	1	1	相	
(第二外国語) I (B)-2				1	1	相		
英 語 I - 1				1	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。	
英 語 I - 2				1	1	相		
英 語 (I A) - 1				1	1	相	外国人留学生のみ	
英 語 (I A) - 2				1	1	相	外国人留学生のみ	
英 語 (I B) - 1				1	1	相	外国人留学生のみ	
英 語 (I B) - 2				1	1	相	外国人留学生のみ	
		日 本 語 I (A)	2	1	相	外国人留学生のみ		
		日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ		
身 体 の 技 能		健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	相	教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修		
情 報 の 技 能		情 報 ス キ ル I	2	1	相			
テ ー マ 別 科 目	関 連 科 目 (領 域 A) キ リ ス ト 教 理 解	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	相・青	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置		
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	相			
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4	青			
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	3・4	青			
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	3・4	青			
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4	相			
		キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4	相			
	キ リ ス ト 教 音 楽	2	3・4	青				

テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (<small>領域A</small>)	キ リ ス ト 教 美 術	2	3・4	青	
		メ ソ ジ ス ト 教 会 史	2	3・4	青	
		キ リ ス ト 教 教 育	2	3・4		閉講
		世 界 の 諸 宗 教	2	2・3・4	相	旧称「比較宗教学」
		現 代 神 学	2	3・4	青	
		キ リ ス ト 教 と 社 会 福 祉	2	3・4		閉講
		聖書の中の女性たち (旧約)	2	3・4	青	旧称「聖書とフェミニズム」(2003 ~2008年度)、「フェミニズムと聖 書」(2008年度)
		聖書の中の女性たち (新約)	2	2・3・4	相	旧称「聖書の中の女性たち」
		サー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ I	2	2・3・4	相	
		サー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ II	2	2・3・4	相	
	人 間 理 解 関 連 科 目 (<small>領域B</small>)	哲 学 A	2	2・3・4	相	
		哲 学 B	2	2・3・4	相	
		哲 学 の 諸 問 題 A	2	3・4	青	
		哲 学 の 諸 問 題 B	2	3・4	青	
		哲 学 の 諸 問 題 C	2	3・4	青	
		哲 学 の 諸 問 題 D	2	3・4	青	
		論 理 学 A	2	2・3・4	相	
		論 理 学 B	2	2・3・4	相	
		論 理 学 の 諸 問 題 A	2	3・4	青	
		論 理 学 の 諸 問 題 B	2	3・4	青	
		倫 理 学 A	2	2・3・4	相	
		倫 理 学 B	2	2・3・4	相	
		倫 理 学 の 諸 問 題 A	2	3・4	青	
		倫 理 学 の 諸 問 題 B	2	3・4	青	
		西 洋 倫 理 思 想 史 A	2	3・4	青	
		西 洋 倫 理 思 想 史 B	2	3・4	青	
		言 語 学 A	2	2・3・4	相	
		言 語 学 B	2	2・3・4	相	
		日 本 語 学 A	2	2・3・4	相	
日 本 語 学 B		2	2・3・4	相		
文 学 A	2	2・3・4	相			
文 学 B	2	2・3・4	相			
文 学 史 A	2	3・4	青			
文 学 史 B	2	3・4	青			
美 術 A	2	2・3・4	相			
美 術 B	2	2・3・4	相			
美 術 史 A	2	3・4	青			
美 術 史 B	2	3・4	青			
音 楽 A	2	2・3・4	相			
音 楽 B	2	2・3・4	相			
音 楽 史 A	2	3・4	青			

人間理解関連科目 (領域B)	音楽史 B	2	3・4	青		
	文化人類学 A	2	2・3・4	相・青		
	文化人類学 B	2	2・3・4	相・青		
	比較文化 A	2	2・3・4	相		
	比較文化 B	2	2・3・4	相		
	比較文化の諸問題 A	2	3・4	青		
	比較文化の諸問題 B	2	3・4	青		
	心理学 A	2	2・3・4	相	心理学科除く	
	心理学 B	2	2・3・4	相	心理学科除く	
	教育学 A	2	2・3・4	相		
	教育学 B	2	2・3・4	相		
	平和を考える A	2	3・4	青		
	平和を考える B	2	3・4	青		
	人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	相		
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	相		
	文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	テーマ別科目	法学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	相・青	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日本の法と社会 A	2	3・4	青	
		日本の法と社会 B	2	3・4	青	
国際政治経済学 A		2	2・3・4	相		
国際政治経済学 B		2	2・3・4	相		
国際関係概論 A		2	2・3・4	相		
国際関係概論 B		2	2・3・4	相		
社会学 A		2	2・3・4	相・青		
社会学 B		2	2・3・4	相・青		
現代社会と教育人間学 A		2	2・3・4	相		
現代社会と教育人間学 B		2	2・3・4	相		
経済学 A		2	2・3・4	相	経済学部除く	
経済学 B		2	2・3・4	相	経済学部除く	
情報社会科学 A		2	2・3・4	相・青		
情報社会科学 B		2	2・3・4	相・青		
情報社会論		2	3・4	青		
社会情報論		2	3・4	青		
人口問題 A		2	2・3・4	相		
人口問題 B		2	2・3・4	相		
フェミニズム A		2	3・4	青		
フェミニズム B	2	3・4	青			
民族問題 A	2	3・4	青			
民族問題 B	2	3・4	青			
マスメディアと社会	2	2・3・4	相			
社会理解関連科目 (領域C)						

テ ー マ 別 科 目	社 会 理 解 関 連 科 目 (領 域 C)	データサイエンス	2	2・3・4	相	
		福祉と人間 A	2	3・4	青	
		福祉と人間 B	2	3・4	青	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	相	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	相	
		感性ビジネス A ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス B ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス C ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	3・4	青	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	相	
		国際ビジネスと海外事情A	2	3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情B	2	3・4	青	
		グローバリゼーションとWTO	2	3・4	青	
		日本農業とWTO	2	3・4	青	
		環境問題と社会	2	3・4	青	NPO 環境平和持続の会寄附講座
		現代金融の諸問題	2	3・4	青	金融青山会寄附講座
		経済・金融とファイナンス	2	3・4	青	閉講
	ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	相・青	(株)近代セールス社寄附講座	
	自 然 理 解 関 連 科 目 (領 域 D)	技術史 A	2	2・3・4	相	
		技術史 B	2	2・3・4	相	
		日常生活の数理	2	2・3・4	相	
		数理科学入門 I	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数理科学入門 II	2	2・3・4	相	理工学部・社会情報学部を除く 本年度休講
		数理科学の視点	2	2・3・4	相	
		数理モデル	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然科学概論 A	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然科学概論 B	2	2・3・4	相	本年度休講
		文化としての科学・技術A	2	3・4	相・青	
		文化としての科学・技術B	2	3・4	相・青	
		現代物理	2	2・3・4	相	
		ライフサイエンス	2	2・3・4	相	
		ゲノム	2	2・3・4	相	
生物と地球環境		2	3・4	青		
地球環境保全	2	3・4	青			
バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	青			
地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	相	本年度休講		
生命と地球の歴史	2	2・3・4	相	本年度休講		

自然理解関連科目 (領域D)	宇宙科学	2	2・3・4	相		
	野鳥の生態	2	2・3・4	相		
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4	相		
	植物生態学	2	2・3・4	相		
	メカワールド	2	2・3・4	相	理工学部除く	
	経営管理の技術	2	2・3・4	相	理工学部除く	
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4	相		
	環境科学 A	2	2・3・4	相		
	環境科学 B	2	2・3・4	相		
	自然地理学 A	2	2・3・4	相	本年度休講	
	自然地理学 B	2	2・3・4	相	本年度休講	
	科学史	2	2・3・4	相		
	生命と生態系 (環境と生物)	2	2・3・4	相		
	生命の連続 (遺伝)	2	2・3・4	相		
	かたちの科学	2	2・3・4	相		
	自然史	2	2・3・4	相		
	自然観の変遷	2	2・3・4	相		
	テーマ別科目	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	相・青	
		日本社会史 A	2	2・3・4	相	
		日本社会史 B	2	2・3・4	相	
日本社会史 C		2	3・4	青		
中国史 A		2	2・3・4	相		
中国史 B		2	2・3・4	相		
中国史 C		2	3・4	青		
ヨーロッパ史 A		2	2・3・4	相		
ヨーロッパ史 B		2	2・3・4	相		
ヨーロッパ史 C		2	3・4	青		
現代史 A		2	2・3・4	相		
現代史 B		2	2・3・4	相		
現代史 C		2	2・3・4	相		
現代史 D		2	2・3・4	相		
考古学 A		2	2・3・4	相		
考古学 B		2	2・3・4	相		
科学思想史 A		2	2・3・4	相		
科学思想史 B		2	2・3・4	相		
インテンシブ・(第二外国語)(A)		2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
インテンシブ・(第二外国語)(B)		2	2・3・4	相		
インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4	相			
インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4	相			
歴史理解関連科目 (領域E)						

テーマ別科目 言葉の技能(領域F)	(第二外国語) II (A)	2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
	(第二外国語) II (B)	2	2・3・4	相	
	(第二外国語) II (C)	2	2・3・4	相	
	(第二外国語) II (D)	2	2・3・4	相	
	(第二外国語) II (E)	2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
	中国語 II (F)	2	2・3・4	相	
	(第二外国語) II	2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	英語 II	2	2・3・4	相	フランス文学科のみ
	英語 (II A)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
	英語 (II B)	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ、旧称「英語II」
	日本語 II	2	2・3・4	相	外国人留学生のみ
	(第二外国語) III	2	3・4	青	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	フランス語 III (A)	2	3・4	青	フランス文学科除く
	フランス語 III (B)	2	3・4	青	フランス文学科除く
	英語 III	2	3・4	青	フランス文学科のみ
	英語 (III)	2	3・4	青	外国人留学生のみ
	日本語 III	2	3・4	青	外国人留学生のみ
	(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
	(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	青	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
	日本語 (I) A	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (I) B	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (I) C	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (I) D	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (II) A	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (II) B	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (II) C	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (II) D	1	3	青	交換留学生のみ
	日本語 (III) A	1	3	青	交換留学生のみ
日本語 (III) B	1	3	青	交換留学生のみ	
日本語 (III) C	1	3	青	交換留学生のみ	
日本語 (III) D	1	3	青	交換留学生のみ	
日本語 (IV) A	1	3	青	交換留学生のみ	

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日本語 (IV) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (IV) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語 (V) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (I)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (II)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (III)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (IV)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情 (V)	2	3	青	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		アメリカ合衆国の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		英語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		フランス語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		ドイツ語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		スペイン語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化 C	2	3・4	青	
		ロシア語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		ロシア語圏の社会と文化 B	2	3・4	青	
		韓国・朝鮮の社会と文化 A	2	2・3・4	相	
		韓国・朝鮮の社会と文化 B	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化 A	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化 B	2	3・4	青	
		日 本 学 A	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	相	
		English Studies B	2	2・3・4	相	
		English Studies C	2	3・4	青	
		English Studies D	2	3・4	青	本年度休講
English Studies E	2	3・4	青	本年度休講		
ことばの研究 A	2	2・3・4	相			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	ことばの研究 B	2	3・4	青	
		少数民族の社会と文化 A	2	3・4	青	本年度休講
		少数民族の社会と文化 B	2	3・4	青	本年度休講
	民族文化論 A	2	2・3・4	相		
		民族文化論 B	2	2・3・4	相	
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	相・青	
		身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	相	
		身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	相	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	相	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	相	
		スポーツ心理学	2	2・3・4	相	
		動きの人間学	2	2・3・4	相	
		医療社会学	2	2・3・4	相	
		スポーツ運動実習	1	2・3・4	相・青	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	相	
	情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4	相・青	
		プログラミング基礎 II	2	2・3・4	相・青	
		情報スキル II	2	2・3・4	相	本年度休講
		eラーニング入門	2	2・3・4	相	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	相	
		教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	相	
		eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	相	

【5】 自由選択科目

自由選択科目の履修方法

《経営専門コース》 選 択（26単位）

《経営総合コース》 選 択（34単位）

① 経営学基礎科目、経営学専門科目、青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。

② 他学部専門科目（他学部科目一覧表参照）

注1）他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。

注2）本学部同一名称科目がある他学部専門科目は履修できません。

③ 「社会調査士」の資格取得について（2008年度以降入学者対象）

経営学部生は、総合文化政策学部の所定科目（下表及び「他学部科目一覧表」参照）の単位を修得し、資格認定を申請することで、大学卒業時に「社会調査士」の資格取得が可能です。

社会調査協会によると「社会調査士」は「調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を体験することにより、調査方法や分析方法に関する基本的能力を有する者」とされており、このような能力は、今後、行政・企業・NGO・NPO・研究機関などさまざまな社会的分野で高く評価されるようになると考えられています。この資格の取得を希望する学生は、下表の総合文化政策学部の所定の専門科目6科目の単位を修得してください。

なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

社会調査士資格取得のためのカリキュラム

標準カリキュラム		本学の対応授業科目
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論Ⅰ
B	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論Ⅱ
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会調査法Ⅰ
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学
※	E 量的データ解析の方法に関する科目	社会統計学
※	F 質的な分析の方法に関する科目	社会調査法Ⅱ
G	社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習

※EとFはどちらかひとつを選択してください。

D. 経営学部履修要項（2003～2005年度入学者）

【1】 経営学部の履修について

1. 卒業要件

(1)卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

<2004・2005年度入学者>

科目の種別			必選の別	経営専門 コース	経営総合 コース
経営学 基礎科目	専門基礎科目		必修	12	12
			選択	6	6
	外国語科目	第一外国語	必修	10	10
	小計			28	28
経営学 専門科目	基幹科目		選択必修	4	4
	経営専門コース科目		選択必修	8	
	経営総合コース科目 (関連科目を除く)		選択必修		8
	基幹科目 経営専門コース科目 経営総合コース科目		選択	40	32
	小計			52	44
青山ス タnda ード科 目	コア 科目	キリスト教理解関連科目〔領域A〕	必修	2	2
		人間理解関連科目〔領域B〕	選択必修	2	2
		社会理解関連科目〔領域C〕	選択必修	2	2
		自然理解関連科目〔領域D〕	選択必修	2	2
		歴史理解関連科目〔領域E〕	選択必修	2	2
	技能 コア	言葉の技能〔領域F〕	必修	6	6
		身体の技能〔領域G〕	必修	2	2
		情報の技能〔領域H〕	必修	2	2
	テーマ 別科目	〔領域A〕	必修	2	2
		〔領域A〕～〔領域H〕	選択必修	6	6
小計		必修	14	14	
		選択必修	14	14	
		計	28	28	
自由選択科目			選択	26	34
総計				134	134

◎経営学部では、3年次から経営専門コースと経営総合コースに分かれます。手続きの詳細については、「【3】経営専門科目履修方法」を参照してください。

<2003年度入学者>

科目の種類別			必選の別	経営専門 コース	経営総合 コース	
経営学基礎科目	専門基礎科目		必修	12	12	
			選択	10	10	
	外国語科目	第一外国語	必修	10	10	
	小計			32	32	
経営学専門科目	基幹科目		選択必修	4	4	
	経営専門コース科目		選択必修	8		
	経営総合コース科目 (関連科目を除く)		選択必修		8	
	基幹科目 経営専門コース科目 経営総合コース科目		選択	40	32	
	小計			52	44	
青山スタンダード科目	コア科目	教養コア	キリスト教理解関連科目〔領域A〕	必修	2	2
			人間理解関連科目〔領域B〕	選択必修	2	2
			社会理解関連科目〔領域C〕	選択必修	2	2
			自然理解関連科目〔領域D〕	選択必修	2	2
			歴史理解関連科目〔領域E〕	選択必修	2	2
	技能コア	言葉の技能〔領域F〕	必修	6	6	
		身体の技能〔領域G〕	必修	2	2	
		情報の技能〔領域H〕	必修	2	2	
	テーマ別科目	〔領域A〕	必修	2	2	
		〔領域A〕～〔領域H〕	選択必修	6	6	
	小計		必修	14	14	
選択必修			14	14		
計			28	28		
自由選択科目			選択	22	30	
総計				134	134	

◎経営学部では、3年次から経営専門コースと経営総合コースに分かれます。手続きの詳細については、「【3】経営専門科目履修方法」を参照してください。

(2)学位について

経営学部に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした学生には、学位記を与え、学士（経営学）の学位を授与します。

2. 最高履修制限単位

各年次で履修できる単位の限度は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	44	44	50	182

注) 教育職員免許状および各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）取得希望の申請をしている学生で、教職課程科目（教職課程科目配置表参照）を履修する場合は、上記制限単位を超えて履修できます。

3. 進級条件

2年次終了時に40単位（卒業要件単位）以上を修得しなければ3年次に進級できません。
なお、この修得単位には教職課程科目の単位は含みません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の1年間（休学期間を除きます）で修得単位が28単位に満たない学生には、修学の意味を確認するとともに厳重注意を行います。更に入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、どちらにも該当することのないよう注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

今年度末に卒業を希望する学生で、相模原キャンパスに配置されている1・2年次必修科目が未修得の場合は、青山キャンパス所属であっても相模原キャンパスに通わなければなりません。

6. 編入学者・転部者について

編入学者・転部者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例) 2005年度2年次編入学者・転部者の場合……2004年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 2005年度3年次編入学者の場合……………2003年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者・転部者は、編入学・転部してきた年度1年間に限り、授業科目の履修順序を適用しません。

注2) 2年次編入学者・転部者は、編入学・転部してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が34単位に満たない場合、その差分を最高履修制限単位を超過して履修することができます。

3年次編入学者は、編入学してきた年度1年間に限り、認定後の単位数が68単位に満たない場合、その差分を最高履修制限単位を超過して履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国人留学生は、以下のとおり外国語科目を履修してください。

A. 青山スタンダード／技能コア／言葉の技能〔領域F〕の履修方法（P.90参照）

必修（2単位）

日本語初級A

B. 第一外国語科目の履修方法（82ページ参照）

第一外国語科目の必要単位

必修（10単位）

日本語初級B（2単位）、日本語初級C（2単位）

日本語中級A（2単位）、日本語中級B（2単位）

日本語上級（2単位）

C. 言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の履修方法（90ページ参照）

言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位

必修（4単位）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。ただし、母語（第一言語）は第二外国語として履修できません。

注1) 入学手続時申請以外の第一外国語を履修することはできません。ただし、「メディア・イングリッシュ」「スピーチ・クリニック」を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

注2) 申請した第二外国語以外の言葉の技能〔領域F〕科目の単位は、自由選択科目に算入されます。ただし、母語（第一言語）は履修できません。

注3) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外などで既に学習したことのある学生が、その学力をI修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、学生ポータル「学年初頭行事」を参照してください。

【2】 経営学基礎科目

1. 専門基礎科目履修方法および配置表

<2004・2005年度入学者>

(1)専門基礎科目必要単位 ()内は単位数

・必修(12単位)

経営学基礎論(4)、商学基礎論(4)、会計学基礎論(4)

・選択(6単位)

経営データ分析入門Ⅰ(4)、経営データ分析Ⅰ(4)、簿記論Ⅰ(4)、経営情報Ⅰ・Ⅱ(各2)、情報ネットワークリテラシ(2)、経営実践基礎Ⅰ・Ⅱ(各2)、経営総合基礎Ⅰ～Ⅳ(各2)、キャリア・ディベロップメントⅡ(2)のうちから、6単位を選択します。選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(2)専門基礎科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
経営学基礎論	4	1	
商学基礎論	4	1	
会計学基礎論	4	1	
経営データ分析入門Ⅰ	4	1・2	※
経営データ分析Ⅰ	4	1・2	
経営情報Ⅰ	2	2	本年度休講
経営情報Ⅱ	2	2	本年度休講
簿記論Ⅰ	4	1・2	
情報ネットワークリテラシ	2	1・2	
経営実践基礎Ⅰ	2	1・2	本年度休講
経営実践基礎Ⅱ	2	1・2	本年度休講
経営総合基礎Ⅰ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅱ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅲ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅳ	2	1・2	
キャリア・ディベロップメントⅡ	2	3・4	本年度休講

※ 「経営データ分析入門Ⅰ」は「経営数学(4単位)」の単位を修得した学生は履修できません。

<2003年度入学者>

(1)専門基礎科目必要単位 ()内は単位数

・必修(12単位)

経営学基礎論(4)、商学基礎論(4)、会計学基礎論(4)

・選択(10単位)

経営データ分析入門Ⅰ(4)、経営データ分析Ⅰ(4)、簿記論Ⅰ(4)、経営情報Ⅰ・Ⅱ(各2)、情報ネットワークリテラシ(2)、法学(日本国憲法を含む)(4)、経済学A・B(各2)、社会学A・B(各2)、心理学A・B(各2)、政治学A・B(各2)、経営実践基礎Ⅰ・Ⅱ(各2)、経営総合基礎Ⅰ～Ⅳ(各2)、キャリア・ディベロップメントⅡ(2)のうちから、10単位を選択とします。選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(2)専門基礎科目配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
経営学基礎論	4	1	
商学基礎論	4	1	
会計学基礎論	4	1	
経営データ分析入門Ⅰ	4	1・2	注1
経営データ分析Ⅰ	4	1・2	
経営情報Ⅰ	2	2	本年度休講
経営情報Ⅱ	2	2	本年度休講
簿記論Ⅰ	4	1・2	
情報ネットワークリテラシ	2	1・2	
法学(日本国憲法を含む)	4	3・4	
経済学A	2	1・2	注2
経済学B	2	1・2	注2
社会学A	2	1・2	注3 青山キャンパスにも開講
社会学B	2	1・2	注3 ”
心理学A	2	1・2	注4
心理学B	2	1・2	注4
政治学A	2	1・2	(2006年度閉講)
政治学B	2	1・2	(2006年度閉講)
経営実践基礎Ⅰ	2	1・2	本年度休講
経営実践基礎Ⅱ	2	1・2	本年度休講
経営総合基礎Ⅰ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅱ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅲ	2	1・2	
経営総合基礎Ⅳ	2	1・2	
キャリア・ディベロップメントⅡ	2	3・4	本年度休講

注1)「経営データ分析入門Ⅰ」は「経営数学(4単位)」の単位を修得した学生は履修できません。

注2)「経済学A」「経済学B」は「経済学(4単位)」の単位を修得した学生は履修できません。

注3)「社会学A」「社会学B」は「社会学(4単位)」の単位を修得した学生は履修できません。

注4)「心理学A」「心理学B」は「心理学(4単位)」の単位を修得した学生は履修できません。

2. 第一外国語科目の履修方法および配置表

(1)第一外国語科目の必要単位（ ）内は単位数

必修（10単位）

英語－ⅠA（2）、英語－ⅠB（2）

英語－ⅡA（2）、英語－ⅡB（2）

英語－Ⅲ（2）

(2)第一外国語科目は、下表のように履修順序がありますので、計画的に履修するよう注意してください。

（太字は必修科目）

順序	履修年次	リーディング科目	ライティング科目	コミュニケーション科目
1	1年次	英語－ⅠA	英語－ⅠB	※ Essential English
2	2年次	英語－ⅡA 英語－ⅡB	英語－ⅡC	オーラル・イングリッシュ
3	3年次	英語－Ⅲ		

※印科目は、青山スタンダード／技能コア／言葉の技能〔領域F〕の科目

(3)第一外国語選択科目を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(4)再履修者のためのクラスが開講される場合は、再履修者は必ずそのクラスで受講しなければなりません。

(5)他学部の第一外国語科目は履修できません。

(6)外国人留学生は、79ページ「7. 外国人留学生の外国語科目の履修について」を参照してください。

(3)第一外国語科目配置表

（太字は必修科目）

授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
英語－ⅠA	2	1	
英語－ⅠB	2	1	
英語－ⅡA	2	2	
英語－ⅡB	2	2	
英語－ⅡC	2	2	
オーラル・イングリッシュ	2	2	
英語－Ⅲ	2	3	
メディア・イングリッシュ	2	3・4	
スピーチ・クリニック	4	3・4	
＜外国人留学生用＞			
日本語初級B	2	1	
日本語初級C	2	1	
日本語中級A	2	2	
日本語中級B	2	2	
日本語上級	2	3	

【3】 経営学専門科目

1. 経営学専門科目履修方法

(1)コース登録について

2年次後期にコース（経営専門コース又は経営総合コース）の登録を行います。

コース登録については、後期授業開始時に配布される冊子『AGU SEMINAR GUIDE』で、内容を確認後、経営専門コース又は経営総合コースのいずれかを選択してください。

経営専門演習・経営総合演習の履修希望者は（4）-①を参照してください。

経営専門演習・経営総合演習の履修を希望しない場合であっても、「コース登録期間」内でコース登録を行ってください。

日程など詳細は7月頃、「学生ポータル」で確認してください。

(2)経営学専門科目の必要単位

《経営専門コース》

選択必修（12単位）

- ① 基幹科目から4単位を選択必修とします。
- ② 経営専門コース科目から8単位を選択必修とします。

選 択（40単位）

基幹科目・経営専門コース科目・経営総合コース科目から任意に選択します（選択必修として修得した科目は除きます）。

注）選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

《経営総合コース》

選択必修（12単位）

- ① 基幹科目から4単位を選択必修とします。
- ② 経営総合コース科目の総合講義・学際講義・経営総合演習から8単位を選択必修とします。

選 択（32単位）

基幹科目・経営専門コース科目・経営総合コース科目から任意に選択します（選択必修として修得した科目は除きます）。

注）選択の必要単位を超えて修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。

(3)総合講義ⅠおよびⅡの履修について

経営総合コースの学生は、「総合講義Ⅰ・総合講義Ⅱ」が3年次履修必修の事前登録科目でしたが、2009年度より通常の選択科目に変更になりました。したがって、履修を希望する学生は履修登録期間に各自履修登録を行ってください。

(4)経営専門演習・経営総合演習について

① 経営専門演習Ⅰ・経営総合演習Ⅰの選考および履修について

- i 2年次後期に募集・選考を実施します。募集に関する詳細は『AGU SEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は現2年次生に限ります。
- ii 選考結果により履修できないこともあります。
- iii 選考の合格者は3年次において履修しなければなりません。
- iv 選考に合格した場合は、3年次の学年初頭に「経営専門演習Ⅰ」または「経営総合演習Ⅰ」が履修登録されます。

なお、コースについては経営専門演習Ⅰ合格者は経営専門コース、経営総合演習Ⅰ合格者は経営総合コースとなります。

② 経営専門演習Ⅱ・経営総合演習Ⅱの履修について

- i 経営専門演習Ⅱは経営専門演習Ⅰ、経営総合演習Ⅱは経営総合演習Ⅰの単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、4年次の学年初頭に事前登録されます。

- ii 履修を希望しない場合は必ず教務課に申し出てください。
- iii 履修した場合は必ず卒業論文を提出しなければなりません。
- iv 履修することによりこの科目は必修の扱いとなります。したがって、単位の修得ができない場合、他の選択科目で卒業要件を満たすことはできません。

③ 演習募集スケジュールについて

	2年次生	3・4年次生
4月		履修登録（事前登録）
5月		
6月		
7月	（上旬）募集告知	
8月		
9月	（下旬）冊子『AGU SEMINAR GUIDE』配布 オリエンテーション、個別ガイダンス	
10月	（上旬）第一次選考申込み （下旬）第一次選考開始	
11月	（上旬）第二次募集日程告知 （中旬）第二次選考申込み （下旬）第二次選考開始	
12月	（中旬）コース登録最終締め切り	
1月		
2月		
3月		

(5)卒業論文の提出について

提出日時：2012年1月11日（水）・12日（木） 教務課事務取扱時間

提出先：青山キャンパス教務課

- ① 提出日時に遅れた場合は、いかなる理由があろうとも一切受け付けません。
- ② 提出後の訂正、変更はできません。
- ③ 論文に使用する表紙、そのほか詳細については、指導教員の指示にしたがって作成し、レポート用の表紙を貼付し必要事項を記入してください。表紙の記入例は12月初旬に「学生ポータル」でお知らせします。
- ④ 論文の返還を希望する学生は、直接指導教員に申し出て指導教員から返還を受けてください。ただし、返還されない場合もありますので、各自提出前にコピーを取っておいてください。

(6)他コース学生の経営学専門科目の履修について

- ① 経営学専門科目のうち、下記授業科目は、経営専門コース学生の履修を認めません。

授業科目	単位	授業科目	単位
経営総合演習Ⅰ	8	経営総合演習Ⅱ	8

- ② 経営学専門科目のうち、下記授業科目は、経営総合コース学生の履修を認めません。

授業科目	単位	授業科目	単位
経営専門演習Ⅰ	8	経営専門演習Ⅱ	8

(7)他学部学生の経営学専門科目の履修について

専門科目のうち、下記授業科目は、他学部学生は履修できません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
マネジメント論	4	流通論	4	管理会計論	4
経営史	4	サイバービジネス実習	4	総合講義Ⅰ	2
総合講義Ⅱ	2	総合講義Ⅳ	2	経営専門演習Ⅰ	8
経営専門演習Ⅱ	8	経営総合演習Ⅰ	8	経営総合演習Ⅱ	8

(8)教職課程関連科目履修方法

教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する科目」として開講する科目です。したがって、教育職員免許状取得希望の申請をしている学生以外は履修できません。履修については、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」ならびに別冊の『教職課程履修の手引（第一部）』を参照してください。なお、修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

2. 経営学専門科目配置表

		授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
基幹科目		マネジメント論	4	2	
		現代企業論	4	2	
		マーケティング論	4	2	
		流通論	4	2	
		管理会計論	4	2	
		財務会計論	4	2	
経営専門 コース科目	経営思想	経営史	4	3・4	
		企業法務	4	3・4	
	経営行動	経営戦略論	4	3・4	本年度休講 旧称 物流情報管理
		事業創造戦略	4	3・4	
		経営組織論	4	3・4	
		組織心理学	4	3・4	
		人的資源管理論	4	3・4	
		事業戦略評価	4	3・4	
		サプライチェーン・マネジメント	4	3・4	
		財務管理論	4	3・4	
	投資行動論	4	3・4		
	経営・ 数理情報	経営データ分析Ⅱ	4	3・4	本年度休講 本年度休講
		経営情報システム論	4	3・4	
		インフォメーションマネジメントⅠ	4	3・4	
		インフォメーションマネジメントⅡ	4	3・4	
		サイバービジネス実習	4	2	
		マネジメントサイエンスⅠ	2	3・4	
	マネジメントサイエンスⅡ	2	3・4		
	マーケ ティ ング マ ネ ジ メ ン ト	文化産業マーケティング論Ⅰ	2	3・4	注1 本年度休講 注1
		文化産業マーケティング論Ⅱ	2	3・4	
		消費者行動論	2	3・4	
		製品戦略論	2	3・4	
		マーケティングチャネル論	2	3・4	
		統合マーケティングコミュニケーション論	2	3・4	
		サービスマーケティング論	2	3・4	
		国際マーケティング論	2	3・4	
	商業・ 市 場 シ ス テ ム	市場システム論	4	3・4	本年度休講
金融市場論		4	3・4		
リスク・マネジメント論		4	3・4		
広告論		4	3・4		
交通論		4	3・4		
国際貿易論		4	3・4		
貿易商務論		4	3・4		
商業英語論		4	3・4		
会 計 シ ス テ ム	簿記論Ⅱ	4	3・4	本年度休講	
	原価計算論	2	3・4		
	連結会計論	2	3・4		
制 度 会 計	制度会計論	2	3・4		
	会計監査論	4	3・4		
	税務会計論	4	3・4		
	国際会計論	4	3・4		
管 理 会 計 ・ 分 析	意思決定会計論	2	3・4		
	予算管理論	2	3・4		
	原価管理論	2	3・4		
	会計情報論	4	3・4		

		財務分析論	4	3・4	
	特殊講義	経営学特殊講義Ⅰ (人材育成論Ⅰ)	2	3・4	
		経営学特殊講義Ⅱ (人材育成論Ⅱ)	2	3・4	
		商学特殊講義Ⅰ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅰ)	2	3・4	
		商学特殊講義Ⅱ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅱ)	2	3・4	
		会計学特殊講義Ⅰ (企業評価論Ⅰ)	2	3・4	
		会計学特殊講義Ⅱ (企業評価論Ⅱ)	2	3・4	
		会計学特殊講義Ⅲ (国際会計論)	2	3・4	本年度休講
		会計学特殊講義Ⅳ (会計学文献研究)	2	3・4	本年度休講
		経営演習	経営専門演習Ⅰ	8	3のみ
	経営専門演習Ⅱ		8	4のみ	
経営総合コース科目	総合講義	総合講義Ⅰ	2	3・4	「経営学専門科目履修方法」(3)参照
		総合講義Ⅱ	2	3・4	「経営学専門科目履修方法」(3)参照
総合講義Ⅳ		2	3・4	野村證券(株)寄附講座	
総合講義Ⅴ (企業戦略基礎概論)		2	3・4	旧称(ベンチャー経営戦略論)	
	学際講義	企業と社会XXV (証券投資の基礎)	2	3・4	
		企業と社会XXVII (企業価値を創造する経営)	2	3・4	
		企業と社会XXIX (研究開発戦略の会計情報)	2	3・4	
		企業と社会XXX (イノベーションに関する無形資産)	2	3・4	旧称(企業の価値創造力とイノベーションに関する知的資産)
		企業と社会XXXII (成熟化市場のマーケティング戦略)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XXXIII (社会対応のマーケティング戦略)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XXXV (統合マーケティングコミュニケーションの基礎)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XXXVI (M&Aとコーポレート・ガバナンス)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XXXVII (戦略と会計情報)	2	3・4	
		企業と社会XXXVIII (戦略イノベーションと産業発展)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XXXIX (M&Aとコーポレート・ガバナンスⅠ)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XL (M&Aとコーポレート・ガバナンスⅡ)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XLI (リコールにともなうコスト問題)	2	3・4	本年度休講
		企業と社会XLII (価値創造と会計情報)	2	3・4	
		企業と社会XLIII (顧客戦略)	2	3・4	
		企業と社会XLIV (ビジネス・モデル)	2	3・4	

	技術と経営XXV (経営データ分析の方法)	2	3・4	本年度休講
	技術と経営XXVII (企業組織の情報化)	2	3・4	旧称 (経営とコミュニケーション)
	技術と経営XXVIII (IT革命と企業経営)	2	3・4	旧称 (経営とオフィス)
	技術と経営XXIX (eラーニング総論)	2	3・4	本年度休講
	技術と経営XXX (eラーニングを支えるITと国際標準化戦略)	2	3・4	寄附講座 本年度休講
	技術と経営XXXI (eラーニングコース設計演習)	2	3・4	
	技術と経営XXXII (オペレーションズ・マネジメント)	2	3・4	本年度休講
	技術と経営XXXIII (イノベーションと組織)	2	3・4	本年度休講
	技術と経営XXXIV (競争戦略論I)	2	3・4	
	技術と経営XXXV (競争戦略論II)	2	3・4	
	技術と経営XXXVI (人間行動の多面的分析I)	2	3・4	
	技術と経営XXXVII (人間行動の多面的分析II)	2	3・4	
	技術と経営XXXVIII (モバイルラーニング)	2	3・4	
	経営組織と個人XIII (組織行動論I)	2	3・4	
	経営組織と個人XIV (組織行動論II)	2	3・4	
	経営と文化XIV (ショッピングセンター概論~まちづくりとSC経営)	2	3・4	寄附講座 本年度休講
	経営と法XX (インターネットビジネスと法的課題)	2	3・4	寄附講座 本年度休講
経営演習 総習	経営総合演習I	8	3のみ	
	経営総合演習II	8	4のみ	
関連科目	経済原論	4	2	
	経済政策論	4	3・4	
	財政学	4	3・4	
	経済史概論	4	2	
	日本経済論	4	3・4	
	国際経済学	4	2	
	国際開発経済論I	2	3・4	
	国際開発経済論II	2	3・4	
	地域経済学	4	3・4	
	産業組織論	4	3・4	
	金融論	4	2	旧称 貨幣金融論 注2
	金融組織論	4	3・4	
	民法I	4	3・4	
	民法II	4	3・4	
	商法I	4	3・4	
	商法II	4	3・4	
	経済法	4	3・4	
	労働法	4	3・4	
	国際法	4	3・4	
	比較文化論I	2	3・4	
	比較文化論II	2	3・4	

教職 連 課 科 程 目	職業指導	4	3・4	
-----------------------------	------	---	-----	--

教職課程関連科目は、教育職員免許状取得希望の申請をしている学生以外は履修できません。修得単位は自由選択科目に算入されます。

注1) 「文化産業マーケティング論 I・II」は「文化産業マーケティング論」の単位を修得した学生は履修できません。

注2) 今年度は、相模原・青山の両キャンパスで開講されますが、対象学生は下記のとおりです。

相模原キャンパス開講「金融論」：経済学部生用

青山キャンパス開講「金融論」：経済学部生および経営学部生用（3・4年次生のみ）

【4】 青山スタンダード科目履修方法および配置表（2003～2005年度入学者）

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類別		授業科目	必要単位	
フレッシュャーズ・セミナー			自由	
コア 科目	教 養 コ ア	キリスト教理解関連科目（領域A）	キリスト教概論Ⅰ	2
		人間理解関連科目（領域B）	自己理解（総合科目） 自己理解（個別科目）	2
		社会理解関連科目（領域C）	現代社会の諸問題（総合科目） 現代社会の諸問題（個別科目）	2
		自然理解関連科目（領域D）	科学・技術の視点（総合科目） 科学・技術の視点（個別科目）	2
		歴史理解関連科目（領域E）	歴史と人間（総合科目） 歴史と人間（個別科目）	2
	技 能 コ ア	言葉の技能（領域F）	英語 ※1	2
			第二外国語 ※2 ※3	4
		身体の技能（領域G）	健康・スポーツ演習 ※4	2
	情報の技能（領域H）	情報スキルⅠ	2	
	テーマ 別科目	キリスト教理解関連科目（領域A） （領域A）～（領域H） ※5	キリスト教概論Ⅱ	2
			6	

※1 英米文学科、フランス文学科を除きます。

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します（入学手続き時に申請されています）。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・2004年度以降入学生は、「(第二外国語)Ⅰ(A)」「(第二外国語)Ⅰ(B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます（日本語は除く）。
- ・「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)Ⅲ」は、「(第二外国語)Ⅱ」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育・経済・経営のみ必修です。

※5 6単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

○フレッシュャーズ・セミナー、健康・スポーツ演習（教育・経済・経営除く）、第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます（日本文学科・国際政治経済学部除く）。

○受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

（太字は必修科目）

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	開 講 キャンパス	備 考	
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	相	1年生のみ	
教 養 コア 科 目		（キリスト教理解関連科目） キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	相		
		（人間理解関連科目） 自己理解（総合科目）	2	1	相	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当	
		自己理解（個別科目）	2	1	相		
		（社会理解関連科目） 現代社会の諸問題（総合科目）	2	1	相	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当	
		現代社会の諸問題（個別科目）	2	1	相		
		（自然理解関連科目） 科学・技術の視点（総合科目）	2	1	相	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当	
		科学・技術の視点（個別科目）	2	1	相		
		（歴史理解関連科目） 歴史と人間（総合科目）	2	1	相	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当	
		歴史と人間（個別科目）	2	1	相		
	技 能 コア 科 目	英 語 ・ 日 本 語	Essential English	2	1	相	英米文・フランス文・国際政治経済除く
Essential English I			1	1	相	国際政治経済学部のみ	
Essential English II			1	1	相	国際政治経済学部のみ	
日 本 語 初 級 A			2	1	相	外国人留学生該当者のみ	
第 二 外 国 語（2004・2005年度入学生）			(第二外国語) I (A)-1	1	1	相	（第二外国語）は フランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指す。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	相	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	相	
			英 語 I - 1	1	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 I - 2	1	1	相	
			英 語 (I A) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	相	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	相	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (A)	2	1	相	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ
第 二 外 国 語（2003年度入学生）			(第二外国語) I (A)	2	1	相	（第二外国語）は フランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指す。
			(第二外国語) I (B)	2	1	相	
			英 語 I	2	1	相	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得すること。
			英 語 (I A)	2	1	相	外国人留学生のみ
		英 語 (I B)	2	1	相	外国人留学生のみ	
		日 本 語 I (A)	2	1	相	外国人留学生のみ	
	日 本 語 I (B)	2	1	相	外国人留学生のみ		

技能コア科目	身体 技能	健康・スポーツ演習	2	1	相	教育・経済・経営のみ必修
	情報の 技能	情報スキル I	2	1	相	
テ ー マ 別 科 目	キリスト教理解関連科目 (領域A)	キリスト教概論 II	2	2・3	相・青	理工学部は2年次 他は3年次配置
		旧約聖書と人間	2	2・3・4	相	
		新約聖書と人間	2	3・4	青	
		キリスト教生命倫理	2	3・4	青	
		キリスト教政治倫理	2	3・4	青	
		キリスト教と自然科学	2	2・3・4	相	
		キリスト教環境倫理	2	2・3・4	相	
		キリスト教音楽	2	3・4	青	
		キリスト教美術	2	3・4	青	
		メソジスト教会史	2	3・4	青	
		キリスト教教育	2	3・4		閉講
		世界の諸宗教	2	2・3・4	相	旧称「比較宗教学」
		現代神学	2	3・4	青	
		キリスト教と社会福祉	2	3・4		閉講
	聖書の中の女性たち (旧約)	2	3・4	青	旧称「聖書とフェミニズム」(2003 ~2007年度)、「フェミニズムと聖書」(2008年度)	
	聖書の中の女性たち (新約)	2	2・3・4	相	旧称「聖書の中の女性たち」	
	サービス・ラーニング I	2	2・3・4	相		
	サービス・ラーニング II	2	2・3・4	相		
	人間理解関連科目 (領域B)	哲学 A	2	2・3・4	相	
		哲学 B	2	2・3・4	相	
		哲学の諸問題 A	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 B	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 C	2	3・4	青	
		哲学の諸問題 D	2	3・4	青	
		論理学 A	2	2・3・4	相	
		論理学 B	2	2・3・4	相	
		論理学の諸問題 A	2	3・4	青	
論理学の諸問題 B		2	3・4	青		
倫理学 A		2	2・3・4	相		
倫理学 B		2	2・3・4	相		
倫理学の諸問題 A		2	3・4	青		
倫理学の諸問題 B	2	3・4	青			
西洋倫理思想史 A	2	3・4	青			
西洋倫理思想史 B	2	3・4	青			
言語学 A	2	2・3・4	相			
言語学 B	2	2・3・4	相			

テ マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	日 本 語 学 A	2	2・3・4	相	
		日 本 語 学 B	2	2・3・4	相	
		文 学 A	2	2・3・4	相	
		文 学 B	2	2・3・4	相	
		文 学 史 A	2	3・4	青	
		文 学 史 B	2	3・4	青	
		美 術 A	2	2・3・4	相	
		美 術 B	2	2・3・4	相	
		美 術 史 A	2	3・4	青	
		美 術 史 B	2	3・4	青	
		音 楽 A	2	2・3・4	相	
		音 楽 B	2	2・3・4	相	
		音 楽 史 A	2	3・4	青	
		音 楽 史 B	2	3・4	青	
		文 化 人 類 学 A	2	2・3・4	相・青	
		文 化 人 類 学 B	2	2・3・4	相・青	
		比 較 文 化 A	2	2・3・4	相	
		比 較 文 化 B	2	2・3・4	相	
		比較文化の諸問題 A	2	3・4	青	
		比較文化の諸問題 B	2	3・4	青	
	心 理 学 A	2	2・3・4	相	心理学科・経営学部2003年度入学生除く	
	心 理 学 B	2	2・3・4	相	心理学科・経営学部2003年度入学生除く	
	教 育 学 A	2	2・3・4	相		
	教 育 学 B	2	2・3・4	相		
	平 和 を 考 え る A	2	3・4	青		
	平 和 を 考 え る B	2	3・4	青		
	人間関係とコミュニケーション A	2	2・3・4	相		
	人間関係とコミュニケーション B	2	2・3・4	相		
	文化とコミュニケーション A	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	文化とコミュニケーション B	2	2・3・4	相	国際政治経済学部除く	
	社会理解関連科目 (領域C)	法学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	相・青	法学部・経営学部2003年度入学生除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日 本 の 法 と 社 会 A	2	3・4	青	
日 本 の 法 と 社 会 B		2	3・4	青		
国 際 政 治 経 済 学 A		2	2・3・4	相	(旧称)「政治学 A」 経営学部2003年度入学生除く	
国 際 政 治 経 済 学 B		2	2・3・4	相	(旧称)「政治学 B」 経営学部2003年度入学生除く	
国 際 関 係 概 論 A		2	2・3・4	相		
国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4	相			

テ マ 別 科 目	社会理解関連科目(領域C)	社 会 学 A	2	2・3・4	相・青	経営学部2003年度入学生除く
		社 会 学 B	2	2・3・4	相・青	経営学部2003年度入学生除く
		社会学C (社会学による国際感覚)	2	3・4		閉講
		社会学D (社会学による国際理解)	2	3・4		閉講
		現代社会と教育人間学 A	2	2・3・4	相	
		現代社会と教育人間学 B	2	2・3・4	相	
		経 済 学 A	2	2・3・4	相	経済学部除く
		経 済 学 B	2	2・3・4	相	経済学部除く
		情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4	相・青	
		情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4	相・青	
		情 報 社 会 論	2	3・4	青	
		社 会 情 報 論	2	3・4	青	
		人 口 問 題 A	2	2・3・4	相	
		人 口 問 題 B	2	2・3・4	相	
		フ ェ ミ ニ ズ ム A	2	3・4	青	
		フ ェ ミ ニ ズ ム B	2	3・4	青	
		民 族 問 題 A	2	3・4	青	
		民 族 問 題 B	2	3・4	青	
		マスメディアと社会	2	2・3・4	相	
		文献と情報の世界	2	2・3・4		閉講
		データサイエンス	2	2・3・4	相	
		福祉と人間 A	2	3・4	青	
		福祉と人間 B	2	3・4	青	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	相	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	相	
		感性ビジネス A —ファッション産業のフロンティア—	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス B —ファッション産業のフロンティア—	2	2・3・4	相・青	
		感性ビジネス C —ファッションビジネス戦略論—	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D —ファッションビジネス戦略論—	2	3・4	青	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	3・4	青	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	相	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	3・4	青	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	3・4	青	
グローバリゼーションと WTO	2	3・4	青			
日本農業と WTO	2	3・4	青			
環境問題と社会	2	3・4	青	NPO 環境平和持続の会寄附講座		
現代金融の諸問題	2	3・4	青	金融青山会寄附講座		
経済・金融とファイナンス	2	3・4	青	閉講		
ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	相・青	(株)近代セールス社寄附講座		

テ マ 別 科 目	自然理解関連科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4	相	
		技術史 B	2	2・3・4	相	
		日常生活の数理	2	2・3・4	相	
		数理科学入門 I	2	2・3・4	相	理工学部除く 本年度休講
		数理科学入門 II	2	2・3・4	相	理工学部除く 本年度休講
		数理科学の視点	2	2・3・4	相	
		数理モデル	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然科学概論 A	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然科学概論 B	2	2・3・4	相	本年度休講
		文化としての科学・技術 A	2	3・4	相・青	
		文化としての科学・技術 B	2	3・4	相・青	
		現代物理	2	2・3・4	相	
		現代社会と化学物質	2	2・3・4		閉講
		ライフサイエンス	2	2・3・4	相	
		ゲノム	2	2・3・4	相	
		生物と地球環境	2	3・4	青	
		地球環境保全	2	3・4	青	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	青	
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	相	本年度休講
		生命と地球の歴史	2	2・3・4	相	本年度休講
		宇宙科学	2	2・3・4	相	
		野鳥の生態	2	2・3・4	相	
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4	相	
		植物生態学	2	2・3・4	相	
		メカワールド	2	2・3・4	相	理工学部除く
		経営管理の技術	2	2・3・4	相	旧称「技術と経営」理工学部除く
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	相	
		環境科学 A	2	2・3・4	相	
		環境科学 B	2	2・3・4	相	
		自然地理学 A	2	2・3・4	相	本年度休講
		自然地理学 B	2	2・3・4	相	本年度休講
		科学史	2	2・3・4	相	
		生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	相	
		生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	相	
		かたちの科学	2	2・3・4	相	
		自然史	2	2・3・4	相	
		自然観の変遷	2	2・3・4	相	
		青山学院大学の歴史	2	2・3・4	相・青	
		日本社会史 A	2	2・3・4	相	
		日本社会史 B	2	2・3・4	相	

テ ー マ 別 科 目	歴史理解関連科目 (領域E)	日本社会史 C	2	3・4	青	
		中国史 A	2	2・3・4	相	
		中国史 B	2	2・3・4	相	
		中国史 C	2	3・4	青	
		ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	相	
		ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	相	
		ヨーロッパ史 C	2	3・4	青	
		現代史 A	2	2・3・4	相	
		現代史 B	2	2・3・4	相	
		現代史 C	2	2・3・4	相	
		現代史 D	2	2・3・4	相	
		考古学 A	2	2・3・4	相	
		考古学 B	2	2・3・4	相	
		科学思想史 A	2	2・3・4	相	
	科学思想史 B	2	2・3・4	相		
	人間形成の歴史 A (日本)	2	2・3・4		閉講	
	人間形成の歴史 B (日本)	2	2・3・4		閉講	
	人間形成の歴史 C (西洋)	2	3・4		閉講	
	人間形成の歴史 D (西洋)	2	3・4		閉講	
	言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
インテンシブ・(第二外国語)(B)		2	2・3・4	相		
インテンシブ・(第二外国語)(C)		2	2・3・4	相		
インテンシブ・(第二外国語)(D)		2	2・3・4	相		
(第二外国語) II (A)		2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。	
(第二外国語) II (B)		2	2・3・4	相		
(第二外国語) II (C)		2	2・3・4	相		
(第二外国語) II (D)		2	2・3・4	相		
(第二外国語) II (E)		2	2・3・4	相	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。	
中国語 II (F)		2	2・3・4	相		
(第二外国語) II		2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
英語 II		2	2・3・4	相	フランス文学科のみ	
英語 (II A)		2	2・3・4	相	外国人留学生のみ	
英語 (II B)		2	2・3・4	相	外国人留学生のみ、旧称「英語II」	
日本語 II		2	2・3・4	相	外国人留学生のみ	
(第二外国語) III		2	3・4	青	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
フランス語 III (A)	2	3・4	青	フランス文学科除く		

テ マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	フランス語Ⅲ(B)	2	3・4	青	フランス文学科除く
		英語Ⅲ	2	3・4	青	フランス文学科のみ
		英語(Ⅲ)	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ	2	3・4	青	外国人留学生のみ
		(第二外国語) 会話(Ⅰ)	2	2・3・4	相・青	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
		(第二外国語) 会話(Ⅱ)	2	3・4	青	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		日本語(Ⅰ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅲ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅲ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅲ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅲ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ) A	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ) B	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ) C	1	3	青	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ) D	1	3	青	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅰ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅱ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅲ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅳ)	2	3	青	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅴ)	2	3	青	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	相	
アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	相			
英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相			
英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相			
フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相			
フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相			

テーマ別科目	言葉の技能 (領域F)	フランス語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	相	
		中国語圏の社会と文化C	2	3・4	青	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	3・4	青	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	相	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化A	2	3・4	青	
		イスラム圏の社会と文化B	2	3・4	青	
		日本学 A	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		日本学 B	2	3・4	青	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	相	
		English Studies B	2	2・3・4	相	
		English Studies C	2	3・4	青	
	English Studies D	2	3・4	青	本年度休講	
	English Studies E	2	3・4	青	本年度休講	
	ことばの研究 A	2	2・3・4	相		
	ことばの研究 B	2	3・4	青		
	少数民族の社会と文化A	2	3・4	青	本年度休講	
	少数民族の社会と文化B	2	3・4	青	本年度休講	
	民族文化論 A	2	2・3・4	相		
	民族文化論 B	2	2・3・4	相		
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	相・青	
		身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	相	
		身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	相	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	相	
スポーツバイオメカニクス		2	2・3・4	相		
スポーツ心理学		2	2・3・4	相		
動きの人間学		2	2・3・4	相		
医療社会学		2	2・3・4	相		
スポーツ運動実習		1	2・3・4	相・青	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
アドバンススポーツ実習		2	2・3・4	相		
プログラミング基礎 I	2	2・3・4	相・青			

テーマ別科目	情報(領域H)の技能	プログラミング基礎Ⅱ	2	2・3・4	相・青	
		情報スキルⅡ	2	2・3・4	相	本年度休講
		eラーニング入門	2	2・3・4	相	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	相	
		教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	相	
		eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	相	

【5】 自由選択科目

1. 自由選択科目の履修方法 （2004・2005年 度入学者）

《経営専門コース》 選 択（26単位）

《経営総合コース》 選 択（34単位）

- ① 経営学基礎科目、経営学専門科目、青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。
- ② 他学部専門科目（「D. 他学部科目一覧表」参照）
注1）他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。
注2）本学部に同一名称科目がある場合は、履修できません。

2. 自由選択科目の履修方法 （2003年度入 学者）

《経営専門コース》 選 択（22単位）

《経営総合コース》 選 択（30単位）

- ① 経営学基礎科目、経営学専門科目、青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。
- ② 他学部専門科目（「D. 他学部科目一覧表」参照）
注1）他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。
注2）本学部に同一名称科目がある他学部専門科目は履修できません。

E. 他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。
履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表には他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、担当者氏名および休講に関する情報は記載していませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。本年度休講の科目は講義内容および授業時間割表に掲載されていません。
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 他学部の科目一覧表に入学年度の記載がある場合は、記載された入学年度の入学者のみ履修できます。掲載してある一覧表以前の入学生は、教務課で履修できるかどうかを確認してください。
3. 修得した単位は、自由選択科目に算入されます。
4. 一覧表に記載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限にしたがって履修してください。

文学部共通科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
芸 術 文 化 論	4	3・4	文 化 財 科 学	4	3・4	日 本 の 思 想	4	2・3・4
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	現 代 思 想	4	3・4	日 本 美 術 史	4	3・4
東 洋 美 術 史	4	3・4	西 洋 美 術 史	4	3・4	日 本 文 化 史	4	3・4
東 洋 文 化 史	4	3・4	西 洋 文 化 史	4	3・4	映 像 文 化 論 A	2	3・4
映 像 文 化 論 B	2	3・4	東 洋 音 楽 史	4	3・4	西 洋 音 楽 史	4	3・4
生 命 倫 理 学	4	3・4	詩 論	4	3・4	ギリシャ・ローマ文学	4	3・4
テ ク ス ト 論	4	3・4	物 語 文 学	4	3・4	キ リ ス ト 教 文 学	4	3・4
世界各地域の文学 A	4	3・4	世界各地域の文学 B	4	3・4	世界各地域の文学 C	4	3・4
児 童 文 学	4	3・4	比 較 文 学	4	3・4	言 語 学 概 論	4	3・4
比 較 言 語 学	4	3・4	記 号 論	4	3・4	古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	3・4
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	3・4	ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	ラ テ ン 語 I	4	3・4
ラ テ ン 語 II	4	3・4	出 版 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	放 送 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4
認 知 言 語 学	4	3・4	精 神 分 析 学 入 門	4	3・4	心 理 言 語 学	4	3・4
イ タ リ ア の 言 語 と 文 化	4	2・3・4	通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (1)	2	3・4	通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (2)	2	3・4
現 代 社 会 と 文 学 部	2	3・4						

他学部科目一覧表

文学部教育学科 (2001年度～2008年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
日 本 教 育 史 (人間形成の歴史Ⅰ)	4	1・2	西 洋 教 育 史 (人間形成の歴史Ⅱ)	4	3・4	宗 教 教 育 学	2	2
教 育 哲 学 Ⅰ (人間形成の思想と哲学)	2	3・4	教 育 哲 学 Ⅱ (人間形成の文化と社会)	2	3・4	発 達 と 文 化 Ⅰ (教育人類学)	2	3・4
発 達 と 文 化 Ⅱ (教育現象学)	2	3・4	図 書 館 情 報 文 化 論	2	2	比 較 発 達 社 会 学	4	1・2
教 育 社 会 学 概 論	4	1・2	比 較 教 育 学	4	3・4	教 育 行 政 ・ 制 度	4	2
国 際 理 解 教 育	2	3・4	現 代 社 会 と 社 会 教 育 Ⅰ (高齢化社会と教育)	2	3・4	現 代 社 会 と 社 会 教 育 Ⅱ (青年期の教育)	2	3・4
現 代 社 会 と 社 会 教 育 Ⅲ (ジェンダーと教育)	2	3・4	家 庭 教 育	4	2	発 達 文 化 論	2	3・4
発 達 心 理 学	4	1・2	教 育 調 査 ・ 統 計	4	3・4	社 会 教 育 計 画	4	3・4
※1 社 会 教 育 演 習	4	3・4	図 書 館 情 報 学 概 論	2	2	図 書 館 シ ス テ ム 経 営 論	2	3・4
図 書 館 シ ス テ ム サ ー ビ ス 論	2	2	図 書 館 情 報 学 特 論	2	3・4	児 童 サ ー ビ ス 論	2	3・4
生 涯 学 習 概 論	4	2	※1 生 涯 学 習 演 習	4	3・4	学 校 教 育 学 総 論	4	1・2
初 等 教 育 原 理	4	1・2	教 育 課 程 論	4	3・4	学 校 経 営 ・ 管 理	4	3・4
※2 教 育 方 法	4	2	教 材 開 発 論	2	3・4	学 校 教 育 学 特 論	4	3・4
音 楽 教 材 研 究	2	3・4	図 画 工 作 教 材 研 究	2	3・4	体 育 教 材 研 究	2	3・4
国 語 教 材 研 究	2	3・4	社 会 教 材 研 究	2	3・4	算 数 教 材 研 究	2	3・4
理 科 教 材 研 究	2	3・4	生 活 科 教 材 研 究	2	3・4	家 庭 教 材 研 究	2	3・4
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	3・4	読 書 教 育 論	2	3・4
学 校 心 理 学	2	3・4	臨 床 保 育 学	4	3・4	幼 児 教 育 原 理	4	1・2
小 児 保 健 学	4	3・4	小 児 精 神 神 経 学	2	3・4	保 育 方 法 の 研 究	4	3・4
保 育 内 容 総 論	4	3・4	保 育 内 容 研 究 (健康)	2	3・4	保 育 内 容 研 究 (人間関係)	2	3・4
保 育 内 容 研 究 (環境)	2	3・4	保 育 内 容 研 究 (ことば)	2	3・4	保 育 内 容 研 究 (表現A)	2	3・4
保 育 内 容 研 究 (表現B)	2	3・4	※3 臨 床 心 理 学 総 論	4	2	人 格 心 理 学	4	3・4
相 談 心 理 学	4	3・4	養 護 教 育	4	1・2	障 害 児 ・ 者 の 心 理 Ⅰ	2	2
障 害 児 ・ 者 の 心 理 Ⅱ	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	2	1・2	認 知 科 学 概 論	2	2
イ ン タ ー フ ェ ー ス 論	2	3・4	知 的 表 現 論	2	3・4	メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 特 論 Ⅰ	2	3・4
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 特 論 Ⅱ	2	3・4	視 聴 覚 教 育 メ デ ィ ア 論	2	3・4	学 習 心 理 学	4	3・4
社 会 心 理 学	4	3・4	情 報 メ デ ィ ア 論 Ⅰ	2	2	情 報 メ デ ィ ア 論 Ⅱ	2	3・4
情 報 メ デ ィ ア 特 論	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 Ⅰ	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 Ⅱ	4	3・4
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア	2	3・4	情 報 サ ー ビ ス 論	4	3・4	情 報 検 索 法	4	3・4
情 報 メ デ ィ ア 利 用 論	2	3・4	※4 教 育 学 概 論 Ⅱ	2	3・4	※5 生 涯 学 習 概 論 Ⅱ	2	3・4
イ ン ス ト ラ ク シ ョ ナ ル デ ザ イン 総 論	2	3・4	教 育 シ ス テ ム の た め の IT フ ァ ン ダ メ ン タ ル	2	3・4	コ ン ピ ュ ー タ 利 用 教 育 と 学 習 理 論	2	3・4
コ ン テ ン ツ 開 発 演 習	2	3・4	eラ ー ニ ン グ シ ス テ ム マ ネ ジ メ ン ト 演 習	2	3・4	コ ー ス 実 施 と 学 習 支 援 演 習	2	3・4
オ ン ラ イ ン 調 査 解 析 演 習	2	3・4	協 調 学 習 デ ザ イン 演 習	2	3・4	キ リ ス ト 教 学 校 論	2	3・4
聖 書 の 世 界 (旧 約)	2	3・4	聖 書 の 世 界 (新 約)	2	3・4	キ リ ス ト 教 の 教 理	2	3・4
キ リ ス ト 教 と 法 思 想	2	3・4	宗 教 と 社 会	2	3・4	礼 拝 学	2	3・4
キ リ ス ト 教 と 精 神 医 学	2	3・4						

※1：社会教育主事希望者のみ履修可 ※2：2003年度以降入学生は履修不可 ※3：「臨床心理学」修得者は履修不可

※4：社会教育主事・学芸員希望者のみ履修可 ※5：司書・学芸員希望者のみ履修可

文学部英米文学科 (2010年度以降入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
イギリス文学史	4	1・2	イギリス文学概論	4	1・2	イギリス文化概論	4	1・2
アメリカ文学史	4	1・2	アメリカ文学概論	4	1・2	アメリカ文化概論	4	1・2
グローバル文学・文化概論	4	1・2	グローバル文学理論	4	1・2	英語学概論	4	1・2
英語史	4	1・2	英文法	4	1・2	コミュニケーション概論	4	1・2
異文化間コミュニケーション概論	4	1・2	英語教育学概論	4	1・2	イギリス文学特講	4	3・4
イギリス文化特講	4	3・4	アメリカ文学特講	4	3・4	アメリカ文化特講	4	3・4
グローバル文学特講	4	3・4	グローバル文化特講	4	3・4	英語学特講	4	3・4
言語学特講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英語教育学特講	4	3・4
英詩概論	4	3・4	イギリス事情	4	3・4	アメリカ事情	4	3・4
英語聖書	4	3・4	ビジネスイングリッシュⅠ	2	3・4	メディアイングリッシュⅠ	2	3・4
メディアイングリッシュⅡ	2	3・4						

文学部英米文学科 (2009年度以前入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
英国文学史Ⅰ	4	1	英国文学史Ⅱ	4	1	英語学概論	4	1
米文学史	4	1	英語史	4	1	英文学概論	4	1
米文学概論	4	1	コミュニケーション概論	4	1	異文化間コミュニケーション概論	4	1
英文学特講	4	3・4	米文学特講	4	3・4	英語学特講	4	3・4
言語学特講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英詩概論	4	3・4
英語教授法	4	3・4	イギリス事情	4	3・4	アメリカ事情	4	3・4
英語聖書	4	3・4	ビジネスイングリッシュⅠ	2	3・4	メディアイングリッシュⅠ	2	3・4
メディアイングリッシュⅡ	2	3・4						

文学部フランス文学科 (2011年度入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※1 フランス語会話	4	1	フランス文学研究	4	3・4	フランス語学研究	4	3・4
フランス文化研究	4	3・4	エクспリカシオン(A)	4	3・4	エクспリカシオン(B)	8	3・4
コミュニケーションⅠ	4	3・4	コミュニケーションⅡ	4	3・4	エクプレシオン・エクリットⅡ	4	3・4
エクプレシオン・エクリットⅢ	4	3・4	フランス文学特講	4	2・3・4	フランス語学特講	4	2・3・4
フランス文化特講	4	2・3・4	フランス文学演習Ⅰ	4	2・3	フランス文学演習Ⅱ	4	3・4
フランス語学演習Ⅰ	4	2・3	フランス語学演習Ⅱ	4	3・4	フランス文化演習Ⅰ	4	2・3
フランス文化演習Ⅱ	4	3・4	フランス語教授法Ⅰ	4	3・4	フランス語教授法Ⅱ	4	3・4
フランス語作文	4	2・3・4	フランス語学概論	4	2・3・4	実務フランス語	4	3・4

他学部科目一覧表

※1：既修得者用クラスのみ履修可

文学部フランス文学科（2010年度以前入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
講 読 演 習	4	3・4	フランス文学史概説Ⅱ	4	3・4	フランス語学概論	4	3・4
フ ラ ン ス 語 史	4	3・4	エクスプリカション	4	3・4	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	8	3・4
コミュニケーションⅢ	4	3・4	フランス語作文Ⅱ	4	3・4	フランス語作文Ⅲ	4	4
時 事 フ ラ ン ス 語	4	3・4	実務フランス語	4	3・4	フランス文学特講	4	3・4
フランス語学特講	4	3・4	フランス文化特講	4	3・4	フランス文学演習	4	3・4
フランス語学演習	4	3・4	フランス文化演習	4	3・4	※1フランス語会話Ⅲ	4	3・4
※2フランス語教授法	4	3・4	※3フランス語教授法Ⅰ	4	3・4	※3フランス語教授法Ⅱ	4	3・4

※1：「フランス語会話Ⅱ」修得者は履修不可

※2：2008年度以前入学者

※3：2009年度以降入学者

文学部日本文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	1	日 本 文 学 史 Ⅱ	2	1	日 本 文 学 史 Ⅲ	2	2
日 本 文 学 史 Ⅳ	2	2	古 典 文 学 概 論	4	1・2	近 代 文 学 概 論	4	1・2
漢 文 学 概 論	4	1・2	日 本 語 学 概 論	4	1・2	日 本 語 史	4	1・2
日本文学講読[1]～[4]	4	1・2	漢 文 学 講 読	4	1・2	日 本 語 学 講 読	4	1・2
表象文化論[1]～[3]	4	3・4	日本文学特講[1]～[12]	4	3・4	日本文学特講A・B	2	3・4
漢文学特講[1]・[2]	4	3・4	日本語学特講[1]～[3]	4	3・4	書 理 論	4	3・4

文学部史学科（2005年度以降入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※ 考 古 学 概 説	2	1	史 学 概 論	2	1	人 文 地 理 学 概 論	4	3
古 文 書 学	4	2・3・4	日 本 史 特 講	4	2・3・4	東 洋 史 特 講	4	2・3・4
西 洋 史 特 講	4	2・3・4	考 古 学 特 講	4	2・3・4	芸 術 史 特 講	4	2・3・4
史 学 特 講 A	4	1・2・3・4	史 学 特 講 B	4	1・2・3・4	※ 博 物 館 概 論	2	3のみ
※ 博 物 館 学 各 論	4	3・4	※ 博 物 館 実 習 Ⅰ	2	3のみ	※ 博 物 館 実 習 Ⅱ	2	4

※学芸員希望者のみ

文学部心理学科 昼間主コース (2001年度～2006年度入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
基 礎 心 理 学 A	2	2	基 礎 心 理 学 B	2	3・4	教 育 ・ 心 理 統 計 法	4	2
学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2	臨 床 保 育 学	4	3・4
教 育 哲 学 I	2	3・4	社 会 心 理 学	4	3・4	産 業 心 理 学	2	3・4
認 知 科 学 概 論	2	2	臨 床 心 理 学	4	2	心 理 療 法	4	3・4
人 格 心 理 学	4	3・4	相 談 心 理 学	4	3・4	哲 学 的 認 識 論	4	3・4
学 校 心 理 学	2	3・4	学 校 教 育 学 総 論	2	1・2	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2
障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	心 理 学 特 講 A	2	3・4	心 理 学 特 講 B	2	3・4
心 理 学 原 書 講 読	2	3・4	教 育 統 計 実 習	2	3・4			

他学部科目一覧表

文学部心理学科（2007年度～2008年度入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
基 礎 心 理 学	2	2	心 理 統 計 学 基 礎	4	2	哲 学 的 認 識 論	4	3・4
心 理 統 計 実 習	2	3・4	心 の 哲 学	4	3・4	心 理 学 史	2	3・4
心 理 学 研 究 法	2	3	学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	知 覚 心 理 学	2	2
認 知 科 学 概 論	2	2	認 知 心 理 学	4	3・4	感 情 心 理 学	2	3・4
神 経 心 理 学	2	3・4	人 格 心 理 学	4	3・4	健 康 心 理 学	2	3・4
社 会 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4	社 会 心 理 学 II	2	3・4
産 業 心 理 学	2	3・4	広 告 心 理 学	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4
ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	音 楽 心 理 学	2	3	心 理 学 特 講 A	2	3・4
心 理 学 特 講 B	2	3・4	学 校 心 理 学	2	3・4	臨 床 心 理 学	4	2
臨 床 心 理 学 I	2	3・4	臨 床 心 理 学 II	2	3・4	心 理 療 法	4	3・4
精 神 分 析 学	2	3・4	家 族 心 理 学	2	3・4	犯 罪 心 理 学	4	3・4
臨 床 心 理 学 特 講	4	3・4	相 談 心 理 学	4	3・4	音 楽 療 法	2	3・4
音 楽 療 法 演 習	2	3・4	コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学	2	3・4	臨 床 心 理 実 務 倫 理 論	2	3・4
心 理 面 接 法	4	3・4	精 神 医 学	4	3・4	身 体 医 学	2	3・4
心 身 医 学	2	3・4	薬 理 学	2	3・4	脳 生 理 学	2	3・4
精 神 衛 生	2	3・4	生 涯 発 達 論	2	3・4	母 子 保 健	2	3・4
成 人 ・ 高 齢 者 保 健	2	3・4	精 神 保 健 福 祉	2	3・4	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 ・ 制 度 論	2	3・4
社 会 保 障 制 度 と 関 連 法 規	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4
学 校 教 育 学 総 論	4	1・2	保 育 内 容 総 論	4	3・4	臨 床 保 育 学	4	3・4
保 育 方 法 の 研 究	4	3・4	生 涯 学 習 概 論	4	2	現 代 社 会 と 社 会 教 育 I (高 齢 化 社 会 と 教 育)	2	3・4
現 代 社 会 と 社 会 教 育 II (青 年 期 の 教 育)	2	3・4	現 代 社 会 と 社 会 教 育 III (ジ ェ ン ダ ー と 教 育)	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4
心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4						

教育人間科学部教育学科 (2009年度以降入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
人間形成学総論	2	1・2	日本教育史Ⅰ	2	1・2	日本教育史Ⅱ	2	1・2
西洋教育史Ⅰ	2	3・4	西洋教育史Ⅱ	2	3・4	教育史特殊講義	2	3・4
宗教教育学	2	2	発達と文化A	2	3・4	発達と文化B	2	3・4
教育哲学A	2	3・4	教育哲学B	2	3・4	教育学特論A	2	3・4
教育学特論B	2	3・4	教育社会学総論	2	1・2	比較発達社会学	2	1・2
生涯発達心理学Ⅰ	2	1・2	生涯発達心理学Ⅱ	2	1・2	キャリア教育A	2	2
キャリア教育B	2	3・4	家庭教育A	2	2	家庭教育B	2	2
比較教育学	2	3・4	異文化理解教育	2	3・4	老年学	2	3・4
教育学特論C	2	3・4	教育学特論D	2	3・4	社会福祉概論	2	2
臨床心理学概論Ⅰ	2	2	臨床心理学概論Ⅱ	2	2	小児精神神経学	2	3・4
相談心理学Ⅰ	2	3・4	相談心理学Ⅱ	2	3・4	特別支援教育	2	3・4
障害児・者の心理Ⅰ	2	2	障害児・者の心理Ⅱ	2	3・4	障害児・者の教育	2	3・4
障害児・者の福祉	2	3・4	障害児・者の医学	2	3・4	教育学特論E	2	3・4
教育学特論F	2	3・4	生涯学習概論Ⅰ	2	2	生涯学習概論Ⅱ	2	2
高等教育論A	2	2	高等教育論B	2	3・4	社会教育計画Ⅰ	2	3・4
社会教育計画Ⅱ	2	3・4	社会教育課題研究	4	3・4	高齢化社会と教育	2	3・4
青年期と教育	2	3・4	ジェンダーと教育	2	3・4	青年文化論	2	3・4
ボランティア教育論	2	3・4	地域ネットワーク論	2	3・4	スポーツ・レクリエーション論	2	3・4
教育学特論G	2	3・4	教育学特論H	2	3・4	教育情報学総論	2	1・2
メディア・コミュニケーション総論	2	1・2	認知科学概論	2	2	学校経営と学校図書館	2	2
視聴覚教育メディア論	2	3・4	インターフェース論	2	3・4	知的表現論	2	3・4
教材開発論	2	3・4	学習指導と学校図書館	2	3・4	学校図書館メディア	2	3・4
情報メディア利用論	2	3・4	読書教育論	2	3・4	学習心理学Ⅰ	2	3・4
学習心理学Ⅱ	2	3・4	社会心理学Ⅰ	2	3・4	社会心理学Ⅱ	2	3・4
教育学特論Ⅰ	2	3・4	教育学特論J	2	3・4	図書館情報学概論	2	2
図書館システムサービス論	2	2	図書館情報文化論	2	2	図書館システム経営論	2	3・4
情報メディア論A	2	2	情報メディア論B	2	3・4	情報メディア論C	2	3・4
児童サービス論	2	3・4	メディア組織法Ⅰ	2	3・4	メディア組織法Ⅱ	2	3・4
メディア組織法Ⅲ	2	3・4	情報サービス論Ⅰ	2	3・4	情報サービス論Ⅱ	2	3・4
情報検索法Ⅰ	2	3・4	情報検索法Ⅱ	2	3・4	図書館情報学実習	2	4
教育学特論K	2	3・4	教育学特論L	2	3・4	幼児教育原理A	2	1・2
幼児教育原理B	2	1・2	児童福祉論	2	1・2	臨床保育学A	2	2
臨床保育学B	2	2	小児保健論	2	3・4	教育学特論M	2	3・4
教育学特論N	2	3・4	小児栄養学	2	3・4	教育学特論O	2	3・4
教育学特論P	2	3・4	学校教育学総論	2	1・2	初等教育原理A	2	1・2
初等教育原理B	2	1・2	学校心理学	2	3・4	教育学特論Q	2	3・4
教育学特論R	2	3・4	初等英語概説A	2	3・4	初等英語概説B	2	3・4
教育学特論S	2	3・4	教育学特論T	2	3・4	インストラクショナルデザイン総論	2	3・4
教育システムのためのITファンダメンタル	2	3・4	コンピュータ利用教育と学習理論	2	3・4	コンテンツ開発演習	2	3・4
eラーニングシステムマネジメント演習	2	3・4	コース実施と学習支援演習	2	3・4	オンライン調査解析演習	2	3・4
協調学習デザイン演習	2	3・4	キリスト教学校論	2	3・4	聖書の世界(旧約)	2	3・4
聖書の世界(新約)	2	3・4	キリスト教の教理	2	3・4	キリスト教と法思想	2	3・4
宗教と社会	2	3・4	礼拝学	2	3・4	キリスト教メンタルヘルス	2	3・4

他学部科目一覧表

教育人間科学部心理学科 (2009年度以降入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
心 理 統 計 実 習	2	3・4	哲 学 的 認 識 論	4	3・4	心 の 哲 学	4	3・4
心 理 学 史	2	3・4	学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	生 涯 発 達 論	2	3・4
知 覚 心 理 学	2	2	認 知 心 理 学	4	3・4	音 楽 心 理 学	2	3・4
感 情 心 理 学	2	3・4	神 経 心 理 学	2	3・4	人 格 心 理 学	4	3・4
犯 罪 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4
社 会 心 理 学 II	2	3・4	産 業 心 理 学	2	3・4	広 告 心 理 学	2	3・4
ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	応用社会心理学特講I	2	3・4
応用社会心理学特講II	2	3・4	応用社会心理学特講III	2	3・4	応用社会心理学特講IV	2	3・4
応用社会心理学特講V	2	3・4	応用社会心理学特講VI	2	3・4	心 理 学 特 講 A	2	3・4
学 校 心 理 学	2	3・4	臨 床 心 理 学	4	2	臨 床 心 理 学 I	2	3・4
臨 床 心 理 学 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2	臨 床 心 理 学 特 講	4	3・4
精 神 分 析 学	2	3・4	精 神 医 学	4	3・4	音 楽 療 法	2	3・4
相 談 心 理 学	4	3・4	家 族 心 理 学	2	3・4	健 康 心 理 学	2	3・4
コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	心 理 面 接 法	4	3・4
応 用 行 動 分 析	2	3・4	身 体 医 学	2	3・4	心 身 医 学	2	3・4
薬 理 学	2	3・4	脳 生 理 学	2	3・4	精 神 衛 生	2	3・4
母 子 保 健	2	3・4	成 人 ・ 高 齢 者 保 健	2	3・4	精 神 保 健 福 祉	2	3・4
保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 ・ 制 度 論	2	3・4	社 会 保 障 制 度 と 関 連 法 規	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4
心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4						

経済学部

経済学科 (2011年度入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経済数学入門Ⅰ	2	1・2	経済数学入門Ⅱ	2	1・2	経済学史Ⅰ	2	2
経済学史Ⅱ	2	2	応用ミクロ経済学Ⅰ	2	3・4	応用ミクロ経済学Ⅱ	2	3・4
応用マクロ経済学Ⅰ	2	3・4	応用マクロ経済学Ⅱ	2	3・4	経済動学Ⅰ	2	3・4
経済動学Ⅱ	2	3・4	オープンマクロ経済学Ⅰ	2	3・4	オープンマクロ経済学Ⅱ	2	3・4
計量経済学Ⅰ	2	3・4	計量経済学Ⅱ	2	3・4	経済統計Ⅰ	2	3・4
経済統計Ⅱ	2	3・4	数理統計Ⅰ	2	3・4	数理統計Ⅱ	2	3・4
経済数学Ⅰ	2	3・4	経済数学Ⅱ	2	3・4	社会政策論Ⅰ	2	3・4
社会政策論Ⅱ	2	3・4	公共経済学Ⅰ	2	3・4	公共経済学Ⅱ	2	3・4
社会保障論Ⅰ	2	3・4	社会保障論Ⅱ	2	3・4	産業論(航空事業Ⅰ)	2	3・4
産業論(航空事業Ⅱ)	2	3・4	産業論(損害保険業)	2	3・4	産業論(税法)	2	3・4
労働経済論Ⅰ	2	3・4	労働経済論Ⅱ	2	3・4	国際金融論Ⅰ	2	3・4
国際金融論Ⅱ	2	3・4	日本経済史Ⅰ	2	3・4	日本経済史Ⅱ	2	3・4
欧米経済史Ⅰ	2	3・4	欧米経済史Ⅱ	2	3・4	東洋経済史Ⅰ	2	3・4
東洋経済史Ⅱ	2	3・4	経済思想史Ⅰ	2	3・4	経済思想史Ⅱ	2	3・4
キリスト教社会思想史Ⅰ	2	3・4	キリスト教社会思想史Ⅱ	2	3・4	世界経済論Ⅰ	2	3・4
世界経済論Ⅱ	2	3・4	各国経済論AⅠ	2	3・4	各国経済論AⅡ	2	3・4
各国経済論BⅠ	2	3・4	各国経済論BⅡ	2	3・4	農業経済論Ⅰ	2	3・4
農業経済論Ⅱ	2	3・4	環境経済学Ⅰ	2	3・4	環境経済学Ⅱ	2	3・4
憲 法	4	2						

他学部科目一覧表

経済学科（2010年度以前入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経 済 数 学 入 門	4	1・2	経 済 学 史	4	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学	4	3・4
応 用 マ ク ロ 経 済 学	4	3・4	経 済 動 学	4	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学	4	3・4
計 量 経 済 学	4	3・4	経 済 統 計	4	3・4	数 理 統 計	4	3・4
経 済 数 学 I	2	3・4	経 済 数 学 II	2	3・4	社 会 政 策 論	4	3・4
公 共 経 済 学	4	3・4	社 会 保 障 論	4	3・4	産 業 論（航空事業Ⅰ）	2	3・4
産 業 論（航空事業Ⅱ）	2	3・4	産 業 論（損害保険業）	2	3・4	産 業 論（税法）	2	3・4
労 働 経 済 論	4	3・4	国 際 金 融 論	4	3・4	日 本 経 済 史	4	3・4
欧 米 経 済 史	4	3・4	東 洋 経 済 史	4	3・4	経 済 思 想 史	4	3・4
キリスト教社会思想史	4	3・4	世 界 経 済 論	4	3・4	各 国 経 済 論 A	4	3・4
各 国 経 済 論 B	4	3・4	農 業 経 済 論	4	3・4	環 境 経 済 学	4	3・4
憲 法	4	2						

現代経済デザイン学科（2008年度以降入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
公 的 規 制 の 経 済 学	2	3・4	N P O 論 A	2	3・4	契 約 の 経 済 学	2	3・4
公 共 政 策 の 経 済 学	2	3・4	公 共 選 択 論	2	3・4	N P O 論 B	2	3・4
政 策 と 評 価 A	2	3・4	法 と 経 済 学	2	3・4	都 市 再 生 論	2	3・4
ま ち づ くり と 都 市 計 画	2	3・4	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3・4	郊 外 地 域 論	2	3・4
地 域 人 口 論	2	3・4	地 方 財 政 の 経 済 学 I	2	3・4	地 方 財 政 の 経 済 学 II	2	3・4
開 発 経 済 学	2	3・4	政 策 と 評 価 B	2	3・4	経 済 地 理	2	2
経 済 地 誌	2	2						

法学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
裁 判 と 法	2	1・2	行 政 と 法	2	1・2	現 代 弁 護 士 論	2	1・2
企 業 と 法	2	1・2	ア メ リ カ の 社 会 と 法	2	1・2	中 国 の 社 会 と 法	2	1・2
労 働 と 法	2	1・2	市 民 生 活 と 税 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト と 法	2	1・2
憲 法 I	4	1	憲 法 II	4	2	比 較 憲 法	4	3・4
立 法 学 入 門	2	3・4	憲 法 特 殊 講 義	2	1・2	言 論 法	4	3・4
行 政 法 I	4	3・4	行 政 法 II	4	3・4	行 政 法 III	2	3・4
地 方 自 治 法	4	3・4	教 育 法	4	3・4	税 法	4	3・4
民 法 III	4	2	民 法 IV	4	3・4	民 法 V	4	3・4
借 地 借 家 法	2	3・4	※1 知 的 財 産 法 I	2	3・4	※1 知 的 財 産 法 II	2	3・4
※2 知 的 財 産 法 III	2	3・4	※2 知 的 財 産 法 IV	2	3・4	登 記 法	2	3・4
不 動 産 法	2	3・4	民 事 訴 訟 法 I	4	3・4	民 事 訴 訟 法 II	4	3・4
破 産 法	4	3・4	刑 法 I	4	2	刑 法 II	4	3・4
刑 事 訴 訟 法	4	3・4	刑 事 政 策	4	3・4	商 法 (手 形 法 ・ 小 切 手 法)	4	3・4
商 法 (保 険 法)	4	3・4	商 法 (海 商 法 ・ 航 空 法)	4	3・4	国 際 労 働 法	2	3・4
※3 金 融 商 品 取 引 法	2	3・4	西 洋 法 史 学	4	3・4	法 思 想 史	4	1・2
法 哲 学	4	3・4	法 社 会 学	4	3・4	ロ ー マ 法	4	3・4
日 本 法 史 学	4	3・4	外 国 法 入 門	4	1・2	イ ギ リ ス 法	4	3・4
ア メ リ カ 法 (刑 法 ・ 刑 事 訴 訟 法)	2	3・4	ド イ ツ 法	4	3・4	フ ラ ン ス 法	4	3・4
※4 ア メ リ カ 法 (憲 法 ・ 司 法 制 度 論 I)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (憲 法 ・ 司 法 制 度 論 II)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (契 約 法)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (財 産 法 ・ 担 保 付 取 引 論)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (知 的 財 産 法 論)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (不 法 行 為 法 ・ P L 法)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (家 族 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (会 社 法 ・ 商 法)	2	3・4	現 代 法 特 講	2	3・4
E U 法	4	3・4	ラ テ ン ア メ リ カ の 法	2	3・4	※5 中 国 法 I	2	3・4
※5 中 国 法 II	2	3・4	中 国 法 III	2	3・4	中 国 法 IV	2	3・4
国 際 法 II	4	3・4	※6 国 際 私 法 I	4	3・4	※6 国 際 私 法 II	2	3・4
国 際 取 引 法 I	2	3・4	国 際 取 引 法 II	2	3・4	国 際 取 引 法 III	2	3・4
社 会 保 障 法	4	3・4	※7 消 費 者 法	2	3・4	政 治 学 原 論	4	1・2
日 本 政 治 史	4	1・2	政 治 過 程 論	4	3・4	比 較 政 治 学	4	3・4
政 治 思 想 史	4	3・4	西 洋 政 治 史	4	3・4	外 交 史	4	3・4
国 際 関 係 論	4	3・4	行 政 学	4	3・4	※8 NPO と 国 際 公 共 政 策	2	3・4
英 語 文 献 講 読	4	3・4	ド イ ツ 語 文 献 講 読	4	3・4	フ ラ ン ス 語 文 献 講 読	4	3・4
中 国 法 文 献 講 読	2	3・4	国 際 社 会 と 法	2	1・2	銀 行 取 引 法	2	3・4
経 済 と 法	2	3・4	環 境 法	4	3・4	金 融 ・ 商 品 先 物 取 引 法	4	3・4
国 際 金 融 法	2	3・4						

他学部科目一覧表

- ※ 1 : 「知的所有権法Ⅰ」・「知的財産法Ⅰ（4単位）」を修得済の者は履修不可
- ※ 2 : 「知的所有権法Ⅱ」・「知的財産法Ⅱ（4単位）」を修得済の者は履修不可
- ※ 3 : 「証券取引法」を修得済の者は履修不可
- ※ 4 : 「アメリカ法（憲法・司法制度論）」を修得済の者は履修不可
- ※ 5 : 「アジア法」を修得済の者は履修不可
- ※ 6 : 「国際私法」を修得済の者は履修不可
- ※ 7 : 「消費者保護法」を修得済の者は履修不可
- ※ 8 : 「NPO と公共政策」を修得済の者は履修不可

上記科目は、法学部成績評価基準（法学部要覧又は法学部 HP 参照）にのっとり、成績評価をいたします。

国際政治経済学部（2005年度以前入学者）

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	プリゼミ
演習Ⅰ・Ⅱ	文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	通訳の理論と方法Ⅰ・Ⅱ
翻訳の理論と方法Ⅰ・Ⅱ	英語レポート・論文作成Ⅰ・Ⅱ	Thesis WritingⅠ・Ⅱ
国際ビジネス・コミュニケーションⅠ・Ⅱ	アンケート・社会調査の方法	言語科学特殊講義Ⅰ・Ⅱ
民法概論Ⅰ・Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ	国連研究Ⅱ
日本経済と証券ビジネス	コミュニケーション研究法の全体像	
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目		

国際政治経済学部（2006年度以降入学者）

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	演習ⅠA・ⅠB
演習Ⅰ・Ⅱ	通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ
国際ビジネス・コミュニケーション(Ⅰ)・(Ⅱ)	アンケート・社会調査の方法	言語の普遍性
情報と組織の経済学Ⅰ	日本経済と証券ビジネス	民法概論Ⅰ・Ⅱ
国際私法Ⅰ・Ⅱ	財政学	簿記論Ⅰ・Ⅱ
広告コミュニケーション論	国際取引法	インターネットと法*
紛争解決と法	インターカルチュラル・コミュニケーション	国際コミュニケーション特殊講義(海外研修)
国連研究Ⅱ	コミュニケーション研究法の全体像	イギリス文化論
文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	経営情報Ⅰ・Ⅱ	パブリック・リレーションズ
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目 2011年度入学者は簿記論ⅡA・ⅡBについても履修を認めていません。		

他学部科目一覧表

総合文化政策学部（2008年度以降入学者のみ）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経済分析（1 ミクロ）	2	3・4	経済分析（2 マクロ）	2	3・4	行政学概論	2	3・4
国際関係	2	3・4	公共政策論	2	3・4	行政法概論	2	3・4
著作権法	2	3・4	国際政治学概論	2	3・4	公共経済学概論	2	3・4
社会調査論Ⅰ	2	3・4	社会調査論Ⅱ	2	3・4	統計学	2	3・4
文化行政法	2	3・4	文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4
社会福祉論	2	3・4	非営利会計論	2	3・4	プロジェクトファイナンス	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化人類学概論	2	3・4	論理学	2	3・4
メディアリテラシー	2	3・4	社会調査法Ⅰ	2	3・4	社会調査実習	4	3・4
ベンチャービジネス起業論	2	3・4	社会調査法Ⅱ	2	3・4	社会統計学	2	3・4

理工学部

授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次
現代物理学概論	2	2・3・4	現代化学概論	2	2・3・4	一般電気工学	2	2・3・4
社会と経営システム工学	2	2・3・4	計算機概論	2	2・3・4			

社会情報学部（2008年度以降入学者）

授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次
知的財産法	2	3・4	デリバティブズ	2	3・4	経済解析Ⅰ	2	3・4
経済解析Ⅱ	2	3・4	情報倫理	2	3・4	プロジェクトマネジメント	2	3・4
情報アクセス法	2	3・4	コンピュータグラフィックス	2	3・4	情報システム開発	2	3・4
ソフトウェア開発・保守	2	3・4						

V. 授業について

1. 授業

授業時間

各キャンパスの授業時間は、次のとおりです。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30
礼 拜	10:30～11:00	10:30～11:00
第2時限	11:00～12:30	11:00～12:30
昼休み	12:30～13:10	12:30～13:10
第3時限	13:10～14:40	13:10～14:40
第4時限	14:45～16:15	14:55～16:25
第5時限	16:20～17:50	16:40～18:10
第6時限	(月・水・木・土) 18:00～19:30 (火・金) 18:00～19:25	/
礼拝・課外活動	(火) 礼拝 (金) 課外活動 19:30～20:00	
第7時限	(月・水・木・土) 19:40～21:10 (火・金) 20:05～21:30	

相模原キャンパス

2011年度相模原キャンパス授業時間割は原則5時限で実施予定です。しかし、学科目配置上5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置いたします。

なお、6時限目は現在の5時限終了後15分休憩後より開始いたします。

青山キャンパス

青山キャンパス第一部の授業時間割は原則1～5時限で配置しておりますが、学科目配置の都合により6時限にも配置することがあります。なお、6時限は第二部の授業時間と同様に18:00より開始いたします。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。日程については「I. 学事暦等」を参照してください。

授業教室

授業教室については、別冊子『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。建物の配置については『授業時間割表』巻末に掲載されている「大学建物配置図」を参照してください。

休 講

授業が休講になる場合は、主に「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、学務担当窓口(巻末参照)に問い合わせ、指示を受けてください(学生共通細則第7条参照)。

補 講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講日は、前期・後期とも、定期試験開始前にそれぞれ数日間設けられています。日程については、「I. 学事暦等」を参照してください。詳細は「学生ポータル」などで伝達しますので、必ず確認してください。また、補講期間以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」などで発表しますので、随時確認してください。

授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、学務担当窓口（巻末参照）に相談してください。

2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」と「掲示」によって行います。

「学生ポータル」を学内で利用する場合は学生証が必要ですので、必ず携帯してください。また、利用方法については、冊子『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

3. 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

下記いずれの場合も大学からの情報伝達手段で確認してください。

1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、学務担当窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

上記1.で休講などの情報

携帯電話 <http://mobile.jm.aoyama.ac.jp>

2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

3. 大規模地震の発生が予想されるときへの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

上記 2.3.

テレドーム 0180-993171 (青山学院大学用番号)

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

(緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります)

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、
列車公衆電話、「050」から始まる IP 電話、NTT の「ひかり電話」、
一部のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

2009年より全国的に新型インフルエンザ「インフルエンザ A 型 (H1N1)」が流行し、本学院においても、感染した学生、生徒等が多数確認されています。

現段階では、教育研究活動および課外活動を平常どおり行う予定ですが、今後、青山学院の園児・児童・生徒・学生および教職員における新型インフルエンザの感染状況により、各学校において状況等を判断し、学校ごとに休校等の措置を講じる場合がありますので、青山学院公式ウェブサイトの最新情報にご注意ください。

なお、「新型インフルエンザ (H5N1)」に対する本学の対応については引き続き以下の通りとなります。

新聞等の発表では、各都道府県内で1人でも新型インフルエンザ感染患者が発生した場合はその都道府県内の幼稚園から大学までの全ての教育施設が一斉休校となっていますが、青山学院としては、**国内で1人でも発生が認められた場合は幼稚園から大学までを完全休校**とします(休校の期間は1ヵ月以上の長期にわたる可能性があります)。休校の開始と解除に関しましては、学生・生徒・保護者等に青山学院ホームページや学内一斉配信メール(学生ポータル等)、緊急連絡網、文書等でお知らせいたしますが、厚生労働大臣によるフェーズ4B(ヒト-ヒト感染発生)の宣言が行われた時点で登校を控えてください。

新型インフルエンザの休校情報は発生次第、テレドームで確認できます。

◇テレドーム 0180-993171

Ⅵ. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

1. 試験の種別

定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

また、不測の事態によって試験が延期される場合もあるので、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れしないでください。

平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他の詳細が決定され、担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

【学務担当窓口提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受け付けますが、締切時間はキャンパスで異なりますのでよく確認してください。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず大学所定の表紙をつけて綴じてください。
- ③ 表紙には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンまたはペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 窓口に持参する際は、表紙記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。窓口での表紙記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート受領証（学生保存）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

【担当者提出レポート】

情報は担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務グループ設置あるいは学務部教務課の提出ボックスを指定される場合がありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

追試験

定期試験を、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「3. 追試験」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

2. 定期試験の受験 定期試験時間

定期試験時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なるので注意してください。

相模原キャンパスでは定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置します。なお、6時限目は18時10分より開始します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:40 ~ 10:40	9:30 ~ 10:30
第2時限	11:00 ~ 12:00	11:10 ~ 12:10
第3時限	13:00 ~ 14:00	13:10 ~ 14:10
第4時限	14:30 ~ 15:30	14:50 ~ 15:50
第5時限	16:00 ~ 17:00	16:30 ~ 17:30
第6時限	18:20 ~ 19:20	
第7時限	19:40 ~ 20:40	

受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机の上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
 - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
 - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
 - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
 - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
 - ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
 - ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
6. 机には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。

7. 携帯電話等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。
(携帯電話は時計として使用できない)
8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。
- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務グループ、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
 - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
 - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。

不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

第3条 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

第4条 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

3. 追試験

申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合

- ② 公共交通機関以外を利用した場合の、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの学務担当窓口**（巻末参照）で、**定められた期間に申請してください**。当該授業科目開講キャンパス以外の学務担当窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。**コピーは不可です**。申請後「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理 由	証 明 書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず学務担当窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務グループにて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に学務担当窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

Ⅶ. 成績評価について

成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書には AA、A、B、C の表記が用いられます。ただし、「情報スキル I」および指定の海外研修については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキル I」、海外研修等による単位修得	合格	RR

G.P.A.

2009年度以降のカリキュラム適用学生については、成績通知書に「G.P.A.」の数値を表示しています。G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XX などの成績が与えられます。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものが G.P.A. です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X (欠席)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて G.P.A. を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目を G.P.A. 算出の対象外とします。

※「情報スキル I」は、G.P.A. 算出の対象外とします。

成績通知

学生の成績評価は、3月上旬および9月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外 PC から閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。）成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。

成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの学務担当窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

Ⅷ. 進級および卒業について

進 級	<p>進級については、所属する学部で条件が異なるので、「Ⅳ. 学部履修要項」の各学部、学科の進級条件の項を参照してください。進級するには、1年間をとおして在学することが必要です。</p> <p>休学をして復学した場合は、休学前と同一学年になります。</p>
卒 業	<p>(1) 本学に4年以上在学し(休学期間を除く)、各学部で定められた、卒業に必要な単位を修得した者は、卒業が認められ学士の学位が授与されます。</p> <p>(2) 卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。</p>
9 月 卒 業	<p>4年生で留年した場合、不足する科目や単位数により、次年度の前期で単位を修得し、卒業要件単位を満たすことができれば、願い出によって9月に卒業できる制度があります。</p> <p>(1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「9月卒業希望届」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。</p>
卒業延期制度	<p>4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。</p> <p>(1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。</p>

Ⅸ. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口											
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照											
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転部または転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転部または転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学、転部または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学、転部または転学部・転学科生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照											
休 学	休学期間	① 休学期間は、通年(1年間)、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照											
	休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書(書式は任意)」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願い出の場合のみ提出 ※休学は原級(元の学年)にとどめるので、通年または半期休学をした場合、進級することができません。進級するには、4月から翌年3月まで1年間とおして在学することが必要ですのでご注意ください。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第28条参照											
	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table border="1" data-bbox="263 1243 880 1438"> <thead> <tr> <th></th> <th>休学期間</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年休学</td> <td>4月1日～翌年3月31日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>前期休学</td> <td>4月1日～9月30日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>後期休学</td> <td>10月1日～翌年3月31日</td> <td>12月末日</td> </tr> </tbody> </table>		休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日
	休学期間	提出期限												
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日												
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日												
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日												
	休学費の納入	休学の願い出の手続きと同時に、下記のとおり、休学期間終了までの学費を完納しなくてはなりません。 ① 通年休学の場合……授業料年額の1/2相当額 ② 1学期間休学の場合…授業料年額の3/4相当額および諸費	⇒財務部資金グループ (青山キャンパス) 学則 別記学費納付に関する取扱い8参照											
復 学	復学をするには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課(相模原キャンパスは学務グループ)から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の種類にかかわらず、休学前と同一年次となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第30条参照											

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する取扱い10参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第32条参照
再 入 学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に学務担当窓口へ提出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第27条参照
二重学籍	二の重学止籍	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除 籍	籍	学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うこととなります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行いません。また、再入学の資格も失うこととなります。	学則第34条参照
転部・転学部・転学科	転部とは	同一学部(学科)内で昼間部または第二部に移ることです。転部を願い出た場合には、選考の上、当該学部学科への転部を許可することがあります。許可された場合、転部届の提出が必要となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照)
	転学部とは	文学部、教育人間科学部、文学部第二部、法学部、国際政治経済学部へ学部を移るものです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	学則第26条参照 (詳細については、広報入試センター(青山キャンパス)から、10月初旬発行予定の「試験要項」を確認してください。)
	転学科とは	同一学部内で学科を移るものです。文学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、文学部および文学部第二部の他学科への転学科を許可することがあります。また、教育人間科学部の学生が転学科を願い出た場合には、選考の上、教育人間科学部の他学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	

X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

1. 本学で取得できる 教育職員免許状

〔取得できる免許状の種類・
教科（学部・学科別）〕

本学で取得できる学部・学科別の免許状の種類・教科は次のとおりです。

（2009年度以降入学者）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	英米文学科	中 学 校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）
	フランス文学科	中 学 校教諭1種免許状（フランス語） 高等学校教諭1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中 学 校教諭1種免許状（国語） 高等学校教諭1種免許状（国語）
	史学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭1種免許状 小 学 校教諭1種免許状 中 学 校教諭1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭1種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
経済学部	経済学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史※1・公民）
法学部	法学科	中 学 校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（公民）
経営学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状（商業）※2
理工学部	物理・数学科	中 学 校教諭1種免許状（理科・数学） 高等学校教諭1種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中 学 校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学・情報）
文学部第二部	英米文学科	中 学 校教諭1種免許状（英語）※1 高等学校教諭1種免許状（英語）※1

※1 2009年度・2010年度入学者のみ

※2 2009年度入学者のみ。

(2005～2008年度入学者)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会・英語) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状 (フランス語) 高等学校教諭1種免許状 (フランス語)
	日本文学科	中学校教諭1種免許状 (国語) 高等学校教諭1種免許状 (国語)
	史学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史)
経済学部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
法学部	法学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (公民)
経営学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)
理工学部	物理・数理学科	中学校教諭1種免許状 (理科・数学) 高等学校教諭1種免許状 (理科・数学)
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状 (理科) 高等学校教諭1種免許状 (理科)
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
文学部第二部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
経済学部第二部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
経営学部第二部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)

(2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)

2. 教員免許状の 取得希望申請に ついて

2006年度以降入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修申請継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年再申請する必要はありません。

3. 教職課程料の 納入について

2006年度以降入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録 (Web) をすると、申請した年度ごとに後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録 (Web) の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は9月となります。

2005年度以前入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録をすると、後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請を取り消す場合には、最初に申請を行った年度に限り、前期履修登録期間内に Web で修正 (取消) を行えば、教職課程料は徴収されません。教職課程料は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

4. 教職課程履修について

履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などで、主なものは「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」のとおりです（学年については、基準となる学年を記載しています）。これらの日程の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータル、授業要覧等に掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録・教育実習予備登録・教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までには教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

履修順序のある教職課程科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「**1. 本学で取得できる教育職員免許状**」の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

(2010年度以降入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II 教職実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者(第一部・第二部)

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B 教職実践演習(中・高)

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は2年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第1段階の授業科目に合格している事に加えて「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。

・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請手続については、「10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、教職課程掲示板（9号館1階）で周知します。

(2009年度入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法（英語教授法） 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は 2 年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第 1 段階の授業科目に合格している事に加えて「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。
- ・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請手続については、「10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、教職課程掲示板（9 号館 1 階）で周知します。

(2005～2008年度入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

幼稚園教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階	第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる	第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)
教育原理 (教育学概論) 教育心理 (教育心理学概論)	現代教師論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 (英語教授法) 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法) 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論	中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理」「教育心理」は2年次までしか履修できません。
 - ・2005年度入学者の2年次配置科目「教師論」は名称変更により「現代教師論」になりました。2005年度入学者は「現代教師論」を履修してください。
 - ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第1段階の授業科目に合格している事に加えて「**教職課程 英語能力認定制度**」(旧称 T.E.T.)に合格していることを条件としています。
 - ・「**教職課程 英語能力認定制度**」(旧称 T.E.T.)についての詳細は、**教職課程揭示板(9号館1階)**を参照してください。
 - ・「**教職課程 英語能力認定制度**」認定申請手続については、「**10.教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」を参照してください。また、詳細については、11月上旬より、**教職課程揭示板(9号館1階)**で周知します。
- (2004年度以前入学者は、入学年度の「教育課程履修の手引」を参照してください。)

5. 教職課程科目 配置表

文学部
教育人間科学部
経済学部
法学部
理工学部
社会情報学部

(2010年度以降入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		
教職実践演習 (幼)	2	4		
教職実践演習 (小)	2	4		
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部
 教育人間科学部
 経済学部
 法学部
 経営学部
 理工学部
 社会情報学部

(2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
幼児教育実習 II	4	4		
初等教育実習 I	1	3		
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部
 経済学部
 法学部
 経営学部
 理工学部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒指導 (進路指導を含む)	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部第二部 (2010年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
	中等教育実習 II B	2	4	
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部第二部 (2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
中等教育実習 II B	2	4		

文学部第二部
 経済学部第二部
 経営学部第二部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。
 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)

	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	道德教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒指導 (進路指導を含む)	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

6. 本学で取得 できる資格

[取得できる資格の種類
(学部・学科別)]

本学で取得できる学部・学科別の資格の種類は次のとおりです。

(2005年度以降入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	英米文学科	
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	司書・社会教育主事・学芸員
法学部	法学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員 (2010年度以降経営学科入学生は司書教諭を除く)
	マーケティング学科	司書・社会教育主事・学芸員
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
文学部第二部	教育学科	司書教諭・社会教育主事
	英米文学科	
経済学部第二部	経済学科	
経営学部第二部	経営学科	

7. 各種資格の取得 希望申請について

2006年度以降入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年申請する必要はありません。

8. 資格課程料の 納入方法

2006年度以降入学者の 納入方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について申請した年度ごとに後期学費納入時に資格課程料を納入することになります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、各種資格の申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

2005年度以前入学者の 納入方法

- ① 司書教諭：「教職・各種資格申請」で司書教諭資格の申請登録をし、「学校経営と学校図書館」を履修登録すると、司書教諭の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ② 司書：「教職・各種資格申請」で司書資格の申請登録をし、「図書館情報学概論」を履修登録すると、司書の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ③ 社会教育主事：「教職・各種資格申請」で社会教育主事資格の申請登録をし、「生涯学習概論」を履修登録すると、社会教育主事の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ④ 学芸員：「教職・各種資格申請」で学芸員資格の申請登録をし、「博物館実習Ⅰ」を履修登録すると、学芸員の資格課程料が後期学費で徴収されます。

①～④の各種資格課程料は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

9. 各種資格取得に必要な科目の履修について

履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください（第二部は、オリエンテーションはありませんので、教職課程課窓口で各種資格申請希望者に『**教職課程履修の手引**』を配付します）。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**司書・司書教諭・社会教育主事オリエンテーション**、**学芸員オリエンテーション**、2年次生対象「**博物館実習Ⅰ**」**予備登録説明会**（学芸員資格取得希望者対象）などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**等で、主なものは「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」のとおりです（学年については、基準となる学年を記載しています）。これらの日程の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータル、授業要覧等に掲載）、**教職課程掲示板**で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**博物館実習予備登録・各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までには資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（但し、**司書教諭資格**の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

履修順序のある科目

学芸員資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得できる資格**」の表のとおりです。

〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

①	②
	①を履修し合格した場合のみ履修できる
3年次配置科目	4年次配置科目
博物館実習Ⅰ 博物館概論 博物館学各論	博物館実習Ⅱ

- ・「**博物館実習Ⅰ**」および「**博物館概論**」は、**3年次生しか履修できません**。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」は、実習・設備等の諸事情により、受講者は30名までとします。また、2年次10月に**博物館実習予備登録**を受付け、3年次年度初頭に**選抜試験**を実施します。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」**説明会・予備登録**の日程については、「**10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表**」を参照してください。

履修順序のある科目の登録方法

① 「**博物館実習Ⅰ**」（3年次配置科目）は、**事前登録科目**です。2年次10月に**博物館実習予備登録**をし、3年次の年度初頭に実施される**選抜試験**に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。

② 「**博物館実習Ⅱ**」（4年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

10. 教育職員免許状・各種資格取得計画予定表 (学年については、基準となる学年を記載)

	1 年	2 年	3 年	4 年
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程オリエンテーション ・各種資格オリエンテーション (第一部のみ) ・教育職員免許状、各種資格取得希望申請 (Web) (2006年度以降入学者は毎年申請) ・「教職課程履修カルテ」配付 (2010年度以降入学者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程オリエンテーション ・司書、司書教諭、社会教育主事オリエンテーション (第一部のみ) ・学芸員オリエンテーション (第一部のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習説明会 ・実習校との交渉・内諾 ・「幼児教育実習Ⅰ」「初等教育実習Ⅰ」「中等教育実習Ⅰ」履修登録 ・介護等体験オリエンテーション (欠席の場合は体験辞退とみなす) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習説明会 ・「幼児教育実習Ⅱ」「初等教育実習Ⅱ」「中等教育実習Ⅱ A・Ⅱ B」履修登録確認 (事前登録) ・教育実習関係書類提出 (個人校実習) ・教育実習オリエンテーション ・実習前指導 (前期実習者) ・教育委員会による教員採用試験オリエンテーション 4月23日 (土) 相模原キャンパス
5 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 (5月～11月までに行う) ・教員採用試験対策講座 青山キャンパス 5月14日 (土) 相模原キャンパス (中旬)
6 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事後指導 (前期実習者) ・実習前指導 (後期実習者) 青山キャンパス
7 月			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1日体験実習オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験第二次試験対策講座 ・公立教員採用試験 (一次)
8 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験第二次試験対策講座 ・公立教員採用試験 (二次)
9 月			<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児教育実習Ⅱ」「初等教育実習Ⅱ」「中等教育実習Ⅱ A・Ⅱ B」予備登録説明会 9月20日 (火) [相模原キャンパスは 9月24日 (土)] ・予備登録 9月21日 (水)～27日 (火) [相模原キャンパスは 9月26日 (月)～27日 (火)] ・小学校1日体験実習 ・教員採用試験対策講座 青山キャンパス 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導 (後期実習者) 相模原キャンパス
10 月		<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験登録 青山キャンパス：10月18日 (火)～21日 (金) 相模原キャンパス：10月19日 (水)～21日 (金) ・「博物館実習Ⅰ」予備登録者対象説明会 10月20日 (木) 予備登録 10月24日 (月)～26日 (水) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習依頼状等の交付 (個人校実習) 青山キャンパス：10月18日 (火)～21日 (金) 相模原キャンパス：10月12日 (水)～14日 (金) ・実習依頼状等を実習校へ持参 (個人校実習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状、司書教諭申請手続 10月4日 (火)～10月7日 (金) [相模原キャンパスは10月6日 (木)～7日 (金)]
11 月			<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験対策講座 青山キャンパス 11月26日 (土) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事後指導 (後期実習者)
12 月			<ul style="list-style-type: none"> ・実習校決定第一次発表 (指定校実習) 	
1 月			<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験対策講座 相模原キャンパス 1月7日 (土) ・教育実習関係書類提出 (指定校実習) 	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 英語能力認定制度 申請手続【第二部英米文学科で、認定資格該当者のみ】 (上旬) 		<ul style="list-style-type: none"> ・実習校決定第二次発表 (指定校実習) ・教育実習関係書類提出 (指定校実習第二次発表決定者) 	
3 月				<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状、各種資格取得判定発表 ・教育職員免許状交付 3月24日 (土) 学位授与式

・年度初頭の各説明会およびオリエンテーションの日程については『学年初頭行事』(学生ポータル、授業要覧等に掲載)、教職課程掲示板で確認してください。

・説明会、手続等の詳細に関する連絡は、教職課程掲示板または学生ポータルで行うので、各自が責任を持って確認してください。

・上記の開催予定は、所属キャンパスのみの対応となります。(教員採用試験対策講座は除く)

XI . 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術によって確かな実績と高い評価をうける「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

《問い合わせ先》

大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻ヒューマンイノベーションコース	大学院事務室 所在：青山キャンパス 総研ビル2階
理工学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻社会情報学コース	スチューデントセンター・学務グループ 所在：相模原キャンパス B棟1階
国際マネジメント研究科	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス5号館1階

専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 法務研究科（ロースクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス 5号館1階

* 青山学院大学ホームページ（<http://www.aoyama.ac.jp>）にも、情報が載っていますので、参照してください。

○文学研究科

英米文学専攻 博士前期課程

特色	英国・米国の文学作品研究を通して、著者の人間性や時代、社会、文化的背景や特徴を探求します。また、英語という言語について歴史的な分析、意味論、音声学、心理言語学、教育論、翻訳などを通して考察も深めていきます。	
学内進学	学内進学選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格： 本学文学部英米文学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(英語科目・専門科目)のG.P.A.が2.80以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法：面接(書類審査を含む) 【注意】 第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

フランス文学・語学専攻 博士前期課程

特色	17～20世紀の文学作品研究を通して、著者の人間性や時代、社会、文化的背景、その特徴の洞察、あるいは思想、哲学面からなど多面的に考察します。また、語学分野では、文法・語法・音韻などをより深く研究します。	
学内進学	学内進学選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格： 本学文学部フランス文学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(フランス語科目・専門科目)のG.P.A.が2.60以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法：面接(書類審査を含む) 【注意】 第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

日本文学・日本語専攻 博士前期課程

特色	上代から近世・近代までの小説・戯曲・詩歌などをテーマに、文学表現の研究や、時代や社会状況との関係などについて考察を深めます。また、日本語の変遷や文法体系に関する研究、漢文学研究も盛んです。	
学内進学	学内進学選抜試験は実施していません。	
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

史学専攻 博士前期課程

特色	日本史、東洋史、西洋史の3部門において、古代、中世、近代・現代の各時代における人間の営み・文化を、古文書や遺品、史料、研究論文などから考察します。その他、遺物や遺跡をもとに研究する考古学部門、また、芸術作品から探求する芸術史部門を選ぶこともできます。2008年度より5部門編成となりました。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。	
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：3月実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格： 本学文学部史学科3年次に在籍する者で、第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、学科科目(専門科目)のG.P.A.が2.60以上の者。 ただし、上記の要件を満たす者が3年次から4年次にかけて協定校へ交換留学し、留学終了の次年度も在学を要する場合は、留学終了年度(4年次)での出願を認める。 選考方法：面接(書類審査を含む) 【注意】第3年次の最終成績により、出願資格を満たさなかった者は不合格となります。
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

○教育人間科学研究科

教育学専攻 博士前期課程

特色	多様な教育問題を根源から解決していくため、誕生から臨終に至るライフサイクルを視野に入れつつ、実践的かつ理論的な研究を進めています。思想・歴史・理論の領域と臨床・実践・方法の領域の双方が提供するさまざまなアプローチを、現実に即して協調的に生かす方法を探求します。	
学内進学	学内進学者選抜試験は実施していません。	
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

心理学専攻(心理学コース・臨床心理学コース) 博士前期課程

特色	認知心理学や発達心理学など心理学の基礎分野から、実社会に密着した臨床心理学、産業心理学などまで、幅広い研究を通して人間に対する深い洞察力を養成していきます。 (本専攻の臨床心理学コースは財団法人臨床心理士資格認定協会の認定する第1種指定大学院です。臨床心理士の資格取得を目指す方は必ずこのコースに出願してください。)	
学内進学	試験時期：10月頃実施 *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定 出願資格：本学文学部 来年3月卒業見込み者 ただし、心理学関連の科目について出願時までに32単位以上修得済みであること。	
	試験科目	〔心理学コース〕： ・論文読解(心理学関連の英語の論文) ・専門A(心理学に関する論述) ・専門B(心理学研究に関する基礎知識) ・面接(第1次試験合格者のみ) 〔臨床心理学コース〕： ・論文読解(臨床心理学および心理学関連の英語の論文) ・専門A(臨床心理学および心理学に関する論述) ・専門C(臨床心理学および心理学研究に関する基礎知識) ・面接(第1次試験合格者のみ)
一般入試	春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定

○経済学研究科

経済学専攻 博士前期課程

特色	21世紀における国内外の経済的諸問題の探求と解決を目指し、高度かつ総合的な経済学の専門能力を身につけた人材を育成します。	
学内進学	学内進学者選抜試験 (4年生対象)	試験時期：第1回 7月中旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：本学経済学部、経営学部及び国際政治経済学部を来年3月卒業見込みの者 ただし前年度までの専門科目および第一外国語(英語必修科目、外国人留学生で第一外国語を日本語として申請している場合は、日本語必修科目)のG.P.A.がそれぞれ2.4以上であること。 試験科目：面接(詳細は要問い合わせ)
	大学院科目特別履修生試験 (3年生対象) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。	試験時期：第1回 12月上旬頃実施 第2回 2月下旬頃実施 出願資格：本学経済学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、以下の要件を満たす見込みの者。 経済学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、3年次までの専門科目のG.P.A.および第一外国語(英語必修科目、外国人留学生で第一外国語を日本語として申請している場合は、日本語必修科目)のG.P.A.がそれぞれ2.4以上でなければならない。 (注意)合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなります。 大学院に入学するためには、本専攻の入学試験を受験し、合格する必要があります。 試験科目：面接
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

公共・地域マネジメント専攻 博士前期課程

特色	経済学の知見のもと、新しい公共社会を実現するために、現代に即した経済システムをデザインし、政府や地域・コミュニティのマネジメントを提案していきます。	
学内進学	学内進学者選抜試験 (4年生対象)	試験時期：第1回 7月中旬頃実施 第2回 12月上旬頃実施 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者 ただし、前年度までのG.P.A.が2.4以上であること。 試験科目：面接(詳細は要問い合わせ)
	大学院科目特別履修生試験 (3年生対象) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。	試験時期：第1回 12月上旬頃実施 第2回 2月下旬頃実施 出願資格：本学学部第3年次に在学する者 大学院に入学するためには、本専攻の入学試験を受験し、合格する必要があります。 試験科目：面接
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

○法学研究科

私法専攻 博士前期課程

公法専攻 博士前期課程

特色	私法専攻	社会生活、企業活動、マルチメディア化が進展するなかでの知的所有権など、私法における問題は国際化しています。こうした領域の法学的能力と確かな視点を育み、研究を深めていきます。	
	公法専攻	社会や時代に密接に関わる、憲法解釈、住民権と行政施策との関係といった公法の問題に、的確な判断と深い洞察で柔軟に対応できるよう、高い専門能力を身につけながら研究を進めていきます。	
学内進学	3種類の試験があります (詳細は要問い合わせ)	内部推薦入試 (本学法学部4年生対象)	試験時期：第1回 6月下旬頃実施 第2回 11月下旬頃実施 出願資格：本学法学部を来年3月卒業見込みの者 ただし G.P.A. (外国語および専門教育科目) が2.8以上の者 試験科目：書類審査、面接 すべて詳細は大学院事務室へ問い合わせること。
		外部推薦入試 (出身大学、出身学部問わず)	試験時期：第1回 6月下旬頃実施 第2回 11月下旬頃実施 出願資格：来年大学(本学あるいは本学法学部に限りません)を卒業見込みの者又は既に卒業した者。 試験科目：書類審査、面接 すべて詳細は大学院事務室へ問い合わせること。
		大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象： 11月下旬頃実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格：本学法学部3年次在籍学生で下記のすべてに該当すること。 ・法学部3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得見込みであり、かつその G.P.A. が2.80以上であること。 ・3年次までに留年していないこと。ただし、留学による休学等やむをえない事情の場合はこの限りではない。 【注意】合格発表後に3年次終了時の成績が出願資格を満たさなかった場合は、合格は取り消しとなります。 試験科目： ・書類審査 ・口述試験
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

ビジネス法務専攻 修士課程

特色	ビジネス法務専攻は、ビジネスとリーガルのリテラシーを兼ね備えた人材の育成を目的とします。この専攻は、人事労務法務プログラム、知財法務プログラム、税法務プログラム、金融法務プログラムの4つにわかれ、それぞれが専任の教員のほかに実務に精通した兼任教員(弁護士、公認会計士、税理士や企業法務で長い経験をお持ちの方)が実務的な観点から指導を行います。		
学内進学	学内進学者選抜試験は実施しません。		
	大学院科目特別履修資格試験 (3年生対象：11月下旬頃実施) ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 ※大学院に入学するためには入学試験に合格する必要があります。	出願資格：本学法学部3年次在籍学生で下記のすべてに該当すること。 ・法学部3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得見込みであり、かつその G.P.A. が2.80以上であること。 ・3年次までに留年していないこと。ただし、留学による休学等やむをえない事情の場合はこの限りではない。 【注意】合格発表後に3年次終了時の成績が出願資格を満たさなかった場合は、合格は取り消しとなります。 試験科目： ・書類審査 ・口述試験	
一般入試	実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月中旬頃発行予定	

○経営学研究科

経営学専攻 博士前期課程

特色	情報技術の急速な発展とそれに伴う意思決定のスピードアップなど、現代の企業経営は多くの課題を抱えています。経営学研究科は、経営学部門、会計学部門、IMC 統合マーケティング部門という3部門によって構成され、企業経営の理論的、実証的研究を行うとともに、高度な専門知識・能力を持つ人材を育成します。	
学内進学	<p>学内進学者選抜試験 (4年生対象： 第1回7月頃実施 第2回10月頃実施) *学生募集要項は、5月中旬頃発行予定</p>	<p>出願資格：本学経営学部及び経済学部を来年3月卒業見込みの者。ただしG.P.A.が2.4以上であること(卒業要件外科目は除く) 試験科目：小論文(入学後の研究領域に関する出題)、口述試験</p>
	<p>学内飛び級入学試験 (3年生対象： 2・3月頃実施) *学部を3年終了時点で退学し大学院に入学するための試験です。 *学生募集要項は、11月中旬頃発行予定</p>	<p>出願資格：本学経営学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、経営学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、かつ第一外国語(英語必修科目)の要件単位を満たし、そのG.P.A.がそれぞれ3.0以上の者。(全体のG.P.A.が3.0以上で、かつ英語必修科目のG.P.A.が3.0以上) ただし、第一外国語(英語必修科目)については、第一外国語科目を日本語として申請している外国人留学生は第一外国語(日本語必修科目)とする。 (注1) 出願時において、上記の要件に該当する見込みであること。 (注2) 合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなる。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p>
	<p>大学院科目特別履修生試験 (3年生対象： 2・3月頃実施) *学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。 *大学院に入学するためには下に記載の入学試験に合格する必要があります。 *試験要項は、11月中旬頃発行予定</p>	<p>出願資格：本学経営学部第3年次に在学する者で、3年次終了時において、経営学部の卒業要件単位の90%以上を修得し、かつ第一外国語(英語必修科目)の要件単位を満たし、そのG.P.A.がそれぞれ2.6以上の者。(全体のG.P.A.が2.6以上で、かつ英語必修科目のG.P.A.が2.6以上) ただし、第一外国語(英語必修科目)については、第一外国語科目を日本語として申請している外国人留学生は第一外国語(日本語必修科目)とする。 (注1) 出願時において、上記の要件に該当する見込みであること。 (注2) 合格発表後、3年次終了時の成績が出願資格を満たすことができなかった場合、合格は取り消しとなる。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p>
	<p>学内入学試験 (大学院科目特別履修中の4年生対象：10月頃実施) *学生募集要項は、7月中旬頃発行予定</p>	<p>出願資格：本学経営学部第4年次に在学する経営学研究科大学院科目特別履修生で、来年3月卒業見込みの者。 試験科目：口述試験(書類審査を含む)</p>
一般入試	秋・春実施(詳細は要問い合わせ)	*学生募集要項は、7月頃発行予定

○国際政治経済学研究科

国際政治学専攻 修士課程

国際経済学専攻 修士課程

国際コミュニケーション専攻 修士課程

特色	国際政治学専攻	ダイナミックに変動する国際政治経済の今日の事象について、学際的な解明に取り組んでいます。国際政治事象、安全保障や国際秩序に関する分析、地域経済圏に焦点を当てた地域研究などの分野があります。	
	国際経済学専攻	発展途上国における人口増加や貧困、自然破壊と資源の枯渇など、深刻化する国際経済問題を解決するための理論的、実践的分析力を身につけていきます。関連分野も含め、体系的に理解する研究者の養成を推進します。	
	国際コミュニケーション専攻	国際コミュニケーションに関するさまざまな事象について、1) コミュニケーション論、2) 言語学、3) 比較文化・地域文化論、の諸領域を3本の柱として、理論的、実践的に研究します。	
学内進学	3種類の試験があります (詳細は要問い合わせ)	学内進学者選抜試験 (4年生対象： 7・11月実施予定)	出願資格：国際政治経済学部第4年次在籍学生（国際経済学専攻は経済学部第4年次在籍学生を含む）で、下記のいずれかに該当する者。 ①本研究科科目特別履修試験に合格し、本年度本学部卒業見込みの者。 ②第3年次終了時点で修得卒業要件単位のG.P.A.が2.50以上で、本年度本学卒業見込みの者。 試験科目：①該当者…書類審査 ②該当者…口述試問（書類審査を含む）
		学内飛び級入試 (3年生対象： 3月実施予定)	出願資格：本学国際政治経済学部第3年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。 ①第3年次終了時点で卒業要件単位の90%以上を修得し、そのG.P.A.が2.5以上の者。 ②外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.5以上の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む）
		大学院授業科目 特別履修資格試験 (3・4年生対象：3月 4年生対象：9月 実施予定)	(3・4年次3月実施予定分) 出願資格：国際政治経済学部3・4年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。但し、出願資格条件を満たすことができなかった者は、不合格となります。 ①本学部第3・4年次在籍学生で、本年度終了時点で卒業要件単位の90%以上修得し、そのG.P.A.が2.50以上取得（見込）の者。 ②本学部外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.50以上修得（見込）の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む） (4年次9月実施予定分) 出願資格：国際政治経済学部4年次在籍学生で、下記のすべてに該当する者。但し、出願資格条件を満たすことができなかった者は、不合格となります。 ①本学部第4年次在籍学生で、第4年次前期終了時点で卒業要件単位の90%以上修得し、そのG.P.A.が2.50以上取得（見込）の者。 ②本学部外国語要件単位を満たし、そのうち必修科目のG.P.A.が2.50以上修得（見込）の者。 試験科目：口述試問（書類審査を含む）
一般入試	秋・春実施（詳細は要問い合わせ）	*学生募集要項は、7月頃発行予定	

○総合文化政策学研究科

文化創造マネジメント専攻 修士課程

特色	文化芸術の創造並びにその事業化、企業・団体における文化政策の立案、文化産業のプロデュース等の分野で高度な専門性を発揮する人材を養成します。専門科目（政策マネジメント分野、都市・国際分野、メディア・アート分野）に加えて、自らが課題を設定し、その解決を図るプロジェクト演習を重視します。修業年限は、標準2年の他に3年制のコースも選べます。
学内選抜	試験時期：第1回 7月頃 第2回 10月頃 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者。ただし3年次までのG.P.A.が2.5以上であること。 試験科目：書類審査及び面接（希望する専門分野についての口述試問を含む）
	大学院科目特別履修生試験（3年生対象） ※学部4年次に大学院の科目を履修するための試験です。（詳細は問い合わせ）
一般入試	秋・春実施（詳細は問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定

総合文化政策学専攻 博士課程（5年一貫制）

特色	総合文化政策学は、文化に係わるさまざまな問題の発見と解決、文化や芸術の創造のための構想、政策やプロジェクトの立案と具体化の実際を系統的に明らかにするものであります。その分野において、研究者として自立して研究活動を行い、あるいは総合文化政策学と関係する学術分野において高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養います。
学内選抜	試験時期：第1回 7月頃 第2回 10月頃 出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者。ただし3年次までのG.P.A.が2.5以上であること。 試験科目：書類審査及び面接（希望する専門分野についての口述試問を含む）
一般入試	秋・春実施（詳細は要問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定

○理工学研究科

理工学専攻 博士前期課程

特色	基礎科学コース	数理学、理論物理学、宇宙物理学、原子・分子物理学の分野を中心とし、複雑系など新分野へも視野を広げています。また、専門分野の研究を通じて、さまざまな問題に対するモデル構築能力および問題解決能力を涵養します。
	化学コース	物理化学、有機化学、無機分析化学の3分野で構成されています。個々の分子から生体機能などの種々の機能性を示す組織系に至るまでの幅広い分子系を対象にして、化学本来の視点から研究を遂行し、幅広く底深い化学的素養を身につけた学生を育てます。
	機能物質創成コース	新機能を持つ物質の創成を中心に、物質設計やデバイス作製等の応用も視野に入れた総合的な研究を行うことを目的としています。物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかを基礎におきつつ、分野を横断した幅広い知識に精通した、最先端の物質科学を行う人材を育成します。
	生命科学コース	生命科学の共通基盤となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生物物理学の知識を身につけ、これらを応用したバイオテクノロジーやバイオインフォマティクスなどの新しい分野について学ぶとともに、既存学問分野の枠を超えた方法論を駆使して、生命現象を担う分子の構造、機能、および調節機能を研究します。
	電気電子工学コース	回路系から情報通信系、物性系まで広い研究分野の研究室がそれぞれ大学院生を受け入れています。技術者、研究者を目指す者として、現代社会の基盤を支えるエネルギー分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野、材料・物性分野、またそれらの関連分野を対象に学習、研究を進めています。研究指導を重視し、それらを通して自ら考える能力、発見能力、問題解決能力の育成に努めます。

	機械創造コース	本コースは、人類の福祉と持続的発展に役立ち、優れた機能を持つ機器やシステムを創造する研究者を養成します。すなわち、エネルギー・環境・安全・倫理に対する広い視野を持ち、ものの形や機構と力学的作用を深く理解させる教育・研究を行います。さらに、機械に代表されるハードと知能に代表されるソフトとの融合を図り、進んだ情報処理能力、高度な計測技術と解析技術を修得させ、研究指導を通じて総合力を養い、自ら問題発掘と解決のできる学生を育てます。
	知能情報コース	知識処理・ヒューマンインタフェース・ネットワークをキーワードに工学専門領域からビジネスまで広範囲に勉強・研究します。各領域で世界をリードする研究を行い、理系出身者が専門知識を高める専門フロンティアプログラム、また最新のネットワーク技術でビジネス開拓を目指すなど文系出身者を受け入れる複合フロンティアプログラムがあります。
	マネジメントテクノロジーコース	製品ライフサイクル、生産システム、サプライチェーン、経営技術、環境経営、品質経営などの領域について、経営管理、IE・生産管理、統計・品質管理、OR・情報の観点に立ったそれらのマネジメントに必要な概念・方法論・システムの構築とその運用を学びます。
学内進学	<p>本学部に在籍の卒業見込み者で、本理工学専攻への進学を第一志望とする者は、「学内進学」入試を受けることができます。この「学内進学」入試は、4年生の前期において、</p> <p>(1) 学科での被推薦資格の認定 (2) 各コースでの入学候補者の内定</p> <p>の2段階のステップを踏んで行われます。</p> <p>ステップ(1)では、各学科において、次の「A」または「B」を満たしたものを被推薦資格者として認定します。</p> <p>「A」：3年次終了時(卒業見込者となった時)における成績順位(全科目のG.P.A.または専門科目のG.P.A.による順位)で上位1/2以上であるもの</p> <p>「B」：各学科が定めた独自の推薦基準(実力試験など)を満たしたもの</p> <p>ステップ(2)では、被推薦資格者が希望する指導教員の面接を受けたうえで入学の申請を行い、各コースが審議の上、入学候補者を内定します。</p> <p>各学科が定める独自の推薦基準(上記「B」)を以下に示します。(2011年度入試参考)</p>	
	物理学科、 物理・数理学科	物理・数理学科で実施する実力試験において、上位3分の1以内の成績を取めた者。
	化学科、 化学・生命科学科	前記のステップ(1)におけるAの推薦基準に満たない者に対して専門科目に関する実力試験(4月中旬)を課し、一定の合格基準に達した者を被推薦資格者として認定します。ただし、全科目および専門科目のG.P.Aが2.0に達しない者は受験することはできません。
	電気電子工学科	2010年11月に電気電子工学科で実施した学力試験の得点が基準点以上であること。基準点を満たした者は4月上旬に公表します。
	機械創造工学科	機械創造工学科で実施する実力試験で満点の6割以上の成績を取めた者。または、技術士第一次試験合格者。
	経営システム工学科	経営システム工学科で実施する実力試験の結果、大学院推薦レベルに該当する成績を取めた者。または、技術士第一次試験合格者。
	情報テクノロジー学科	2011年2月中旬に行った実力試験で大学院推薦レベルの得点を得た者。
一般入試	<p>一般入試には、「7月入試」と「9月入試」があり、特に「7月入試」については理工学部以外の学部出身者でも受験しやすい内容となっております。ただし、「7月入試」は本学理工学部 に在籍する学生は、出願できません。</p> <p>7月入試 選考内容(「書類審査」「小論文」および「口述試問」)</p> <p>9月入試 選考内容(「書類審査」「数学」「英語」および「口述試問」)</p> <p>(詳細は要問い合わせ) *学生募集要項は、4月上旬に発行予定。</p>	

○社会情報学研究科

社会情報学専攻 社会情報学コース

社会情報学専攻 ヒューマンイノベーションコース

特色	社会情報学コース	社会情報学は、社会科学と情報科学の融合と、それにより従来の文系、理系の枠に捉われない極めて多角的な視点から現代社会の問題点をえぐり、その問題解決を自らが図れる高度な人材を養成することを目指しています。このような能力は、現代の輻輳した社会において、ファイナンス関連、経済や地域政策関連、情報システム関連等、あらゆる分野で活躍しようとする人々にとって必要不可欠なものです。経営・経済概念の精深な理解、社会活動、経済活動の優れた分析（データ分析や社会調査等）能力、人や社会を考える上で必要となる心理や教育に関する基盤の修得、数量的なものに限らず質的な情報の処理能力、数理的な基盤、情報を高度に利用するための基盤や、情報システム構築のための幅広い素養を身につけた人材を養成します。
	ヒューマンイノベーションコース	さまざまな現場で「学び」を生み出し、それを人・組織・社会の変革＝イノベーションへと結びつけることのできる専門的能力をもった人材の育成に重点を置いたコースです。学習科学、認知科学、学習環境デザインなど広義の「学び」に関する最先端の理論と研究方法を学び、それをベースにしてワークショップデザイン、人材育成、組織変革、学校教育、地域活性化、コンサルテーション、NPO活動、行政サービスなどさまざまな現場でイノベーションを生み出す高度な実践力を身につけることを目指します。
学内進学	出願資格：本学学部を来年3月卒業見込みの者。 ただし3年次までの全取得科目のG.P.A.が2.4以上であること。 試験科目：書類審査及び面接	
一般入試	9月・1月実施（詳細は要問い合わせ） *学生募集要項は、7月頃発行予定	

○国際マネジメント研究科

国際マネジメントサイエンス専攻 博士課程（5年一貫制）

特色	創造性豊かな優れた学術研究者の育成を目指す「学術理論研究志向」のPh.D.（博士：国際経営学）プログラムと、企業等で専門性が要求される研究課題に取り組む研究者を養成する「実践的研究志向」のDBA（博士：経営管理）プログラムから構成されています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	10月・2月実施（2010年度実績）

○国際マネジメント研究科（専門職大学院）

国際マネジメント専攻

特色	国際社会のより豊かな未来を切り拓いていくために、高い倫理観と国際的視野を身につけた企業家精神に富む人材を育成することをミッションとして掲げています。これを達成するために「自ら考え、分析し、意志決定の行える経営プロフェッショナル」を育成する教育プログラムを開発し、絶え間ない改善努力を続けています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	10月・1月・2月実施（2010年度実績）

○法務研究科（専門職大学院）

法務専攻

特色	キリスト教理念に基づく豊かな人間性や法曹としての倫理意識の涵養と、専門的な法知識の確実な修得を基盤として、批判的・創造的な思考力と法的な分析・議論能力を養成し、国際的視野をもって社会的責任を果たすことができる法曹を育成しています。
学内進学	学内進学入試は実施していないので、一般の入試を受験してください。
一般入試	秋実施（2010年度実績） *学生募集要項は、6月下旬発行予定

○会計プロフェッション研究科（専門職大学院）

会計プロフェッション専攻

特色	青山学院の教育理念に基づいた高度な職業倫理性と国際感覚に優れた会計プロフェSSIONナルの育成を目指しています。質の高い独自のカリキュラムにより、社会的要求に応えられる幅広い人材育成を実践します。
学内進学	未定
一般入試	10月実施（2010年度実績）
自己推薦入試	7月・1月・2月実施（2010年度実績）

XII . 大学組織概要

1. 大学役職員

院	長	山北 宣久
学	長	伊藤 定良
副 学	長	長谷川 信
副 学	長	岡田 昌志
副 学	長	土山 實男
文 学 部	長	西澤 文昭
教育人間科学部	長	酒井 豊
経 済 学 部	長	米澤 義衛
法 学 部	長	菊池 純一
経 営 学 部	長	田中 正郎
国際政治経済学部	長	仙波 憲一
総合文化政策学部	長	杉浦 勢之
理 工 学 部	長	林 洋一
社会情報学部	長	稻積 宏誠

2. 教育・研究組織

学部・学科



3. 教員組織

文学部

<准教授>

シュー土戸 ポール
(シューツチド ポール)

英米文学科

<教授>

ダブズ (DABBS, T.W.)
パウンズ (POUNDS, W.E.)
ロビンソン (ROBINSON, P.J.)
ストロング (STRONG, G.B.)
アレン玉井 光江 (アレンタマイ ミツエ)
小野寺 典子 (オノデラ ノリコ)
折島 正司 (オリシマ マサシ)
木村 松雄 (キムラ マツオ)
佐久間 康夫 (サクマ ヤスオ)
佐野 弘子 (サノ ヒロコ)
高田 賢一 (タカダ ケンイチ)
武内 信一 (タケウチ シンイチ)
伊達 直之 (ダテ ナオユキ)
田中 啓史 (タナカ ケイシ)
外池 滋生 (トノイケ シゲオ)
外岡 尚美 (トノオカ ナオミ)
富山 太佳夫 (トミヤマ タカオ)
中澤 和夫 (ナカザワ カズオ)
中野 康司 (ナカノ コウジ)
野邊 修一 (ノベ シュウイチ)
福田 敬子 (フクダ タカコ)
松井 優子 (マツイ ユウコ)
水野 的 (ミズノ アキラ)
山内 一芳 (ヤマノウチ カズヨシ)
吉波 弘 (ヨシバ ヒロシ)

<准教授>

ディアス (DIAS, J.V.)
マクレディ (McCREADY, E.S., JR.)
麻生 えりか (アソウ エリカ)
稲生 衣代 (イノウ キヌヨ)
大川 道代 (オオカワ ミチヨ)
西本 あづさ (ニシモト アツサ)
横谷 輝男 (ヨコタニ テルオ)
若林 麻希子 (ワカバヤシ マキコ)

フランス文学科

<教授>

ドルヌ (DHORNE, F.)
秋山 伸子 (アキヤマ ノブコ)
荒木 善太 (アラキ センタ)
尾形 こづえ (オガタ コヅエ)
露崎 俊和 (ツヅギ トシカズ)
鳥居 正文 (トリイ マサフミ)
西澤 文昭 (ニシザワ フミアキ)
西村 哲一 (ニシムラ テツイチ)

<准教授>

デグランジュ (DESGRANGES, G.)

ルクレール (LECLERCQ, A.)

阿部 崇 (アベ タカシ)
井田 尚 (イダ ヒサシ)
久保田 剛史 (クボタ タケシ)
濱野 耕一郎 (ハマノ コウイチロウ)
和田 恵里 (ワダ エリ)

日本文学科

<教授>

大上 正美 (オオガミ マサミ)
小川 靖彦 (オガワ ヤスヒコ)
片山 宏行 (カタヤマ ヒロユキ)
近藤 泰弘 (コンドウ ヤスヒロ)
佐伯 眞一 (サエキ シンイチ)
佐藤 泉 (サトウ イズミ)
篠原 進 (シノハラ ススム)
高田 祐彦 (タカダ ヒロヒコ)
日置 俊次 (ヒオキ シュンジ)
土方 洋一 (ヒジカタ ヨウイチ)
廣木 一人 (ヒロキ カズヒト)
矢島 泉 (ヤジマ イズミ)
安田 尚道 (ヤスダ ナオミチ)
山下 喜代 (ヤマシタ キヨ)

<准教授>

大屋 多詠子 (オオヤ タエコ)

史学科

<教授>

青木 敦 (アオキ アツシ)
浅井 和春 (アサイ カズハル)
飯島 渉 (イジマ ワタル)
伊藤 定良 (イトウ サダヨシ)
岩田 みゆき (イワタ ミユキ)
小名 康之 (オナ ヤスユキ)
北村 優季 (キタムラ マサキ)
小林 和幸 (コバヤシ カズユキ)
阪本 浩 (サカモト ヒロシ)
清水 信行 (シミズ ノブユキ)
高橋 達史 (タカハシ タツシ)
手塚 直樹 (テヅカ ナオキ)
那須 輝彦 (ナス テルヒコ)
平田 雅博 (ヒラタ マサヒロ)
藤原 良章 (フジワラ ヨシアキ)
松尾 精文 (マツオ キョウミ)
三嶋 輝夫 (シマ テルオ)
安村 直己 (ヤスマラ ナオキ)
渡辺 節夫 (ワタナベ セツオ)

教育人間科学部

<教授>

伊藤 悟 (イトウ サトル)
緒方 孝文 (オガタ タカフミ)
<准教授>
高木 亜希子 (タカギ アキコ)
山本 史歩子 (ヤマモト シホコ)
<助教>
北村 哲 (キタムラ テツ)
高島 瑠依 (タカバタケ ルイ)

教育学科

<教授>

井上 直子 (イノウエ ナオコ)
今井 重孝 (イマイ シゲタカ)
大森 秀子 (オオモリ ヒデコ)
小田 光宏 (オダ ミツヒロ)
川崎 仁志 (カワサキ ヒトシ)
河本 洋子 (カワモト ヨウコ)
北本 正章 (キタモト マサアキ)
小林 紀子 (コバヤシ トシコ)
小森 茂 (コモリ シゲル)
酒井 豊 (サカイ ユタカ)
鈴木 宏昭 (スズキ ヒロアキ)
鈴木 眞理 (スズキ マコト)
早坂 方志 (ハヤサカ マサシ)
樋田 大二郎 (ヒダ ダイジロウ)
古莊 純一 (フルショウ ジュンイチ)
安井 年文 (ヤスイ トシフミ)
柳田 雅明 (ヤナギダ マサアキ)
横山 徹 (ヨコヤマ トオル)
<特任教授>
藏元 幸二 (クラモト コウジ)
長嶋 清 (ナガシマ キヨシ)
野口 芳宣 (ノグチ ヨシノリ)

<准教授>

杉谷 祐美子 (スギタニ ユミコ)
野末 俊比古 (ノズエ トシヒコ)
藤田 幹夫 (フジタ ミキオ)
吉仲 淳 (ヨシナカ アツシ)

<助教>

佐々木 竜太 (ササキ リュウタ)

心理学科

<教授>

入不二 基義 (イリフジ モトヨシ)
遠藤 健治 (エンドウ ケンジ)
小俣 和義 (オマタ カズヨシ)
北村 文昭 (キタムラ フミアキ)
重野 純 (シゲノ スミ)
平山 栄治 (ヒラヤマ エイジ)
丸山 千秋 (マルヤマ チアキ)
山根 律子 (ヤマネ リツコ)

<准教授>

坂上 裕子 (サカガミ ヒロコ)

繁樹 江里 (シゲマス エリ)

薬師神 玲子 (ヤクシジン レイコ)

<助教>

駒屋 雄高 (コマヤ ユタカ)

経済学部

<教授>

遠藤 光暁 (エンドウ ミツアキ)
大島 力 (オオシマ チカラ)
小張 敬之 (オバリ ヒロユキ)
金田 由紀子 (カネダ ユキコ)
黒沼 健 (クロズマ タケン)
三條 和博 (サンジョウ カズヒロ)
玉木 隆敏 (タマキ タカトシ)
橋本 清一 (ハシモト セイイチ)
堀 真理子 (ホリ マリコ)

<准教授>

メニッシュ (MENISH, M.C.)

経済学科

<教授>

石井 信之 (イシイ ノブユキ)
後藤 文廣 (ゴトウ フミヒロ)
白井 邦彦 (シライ クニヒコ)
白須 洋子 (シラス ヨウコ)
芹田 敏夫 (セリタ トシオ)
田付 茉莉子 (タツキ マリコ)
中込 正樹 (ナカゴメ マサキ)
中澤 進一 (ナカザワ シンイチ)
中村 まづる (ナカムラ マヅル)
成田 淳司 (ナリタ ジュンジ)
馬場 弓子 (ババ ユミコ)
平出 尚道 (ヒライデ ナオミチ)
平澤 典男 (ヒラサワ ノリオ)
本郷 茂 (ホンゴウ シゲル)
本間 照光 (ホンマ テルミツ)
松尾 孝一 (マツオ コウイチ)
矢吹 初 (ヤブキ ハジメ)
美添 泰人 (ヨシゾエ ヤスト)
米澤 義衛 (ヨネザワ ヨシエ)

<准教授>

高嶋 修一 (タカシマ シュウイチ)
永山 のどか (ナガヤマ ノドカ)
堀 健夫 (ホリ タケオ)
松本 茂 (マツモト シゲル)
水上 英貴 (ミズカミ ヒデアキ)

<助教>

今 喜史 (イマ ヨシフミ)

現代経済デザイン学科

<教授>

井上 孝 (イノウエ タカシ)
須田 昌弥 (スダ マサヤ)
高橋 重雄 (タカハシ シゲオ)
高橋 朋一 (タカハシ トモカズ)
中川 辰洋 (ナカガワ タツヒロ)
西川 雅史 (ニシカワ マサシ)
藤村 学 (フジムラ マナブ)
堀場 勇夫 (ホリバ イサオ)
宮原 勝一 (ミヤハラ ショウイチ)

<准教授>

吉岡 祐次 (ヨシオカ ユウジ)

法学部

<教授>

ギブンス (GIVENS, S.B.)
芦原 貞雄 (アシハラ サダオ)
安藤 泰子 (アンドウ タイコ)
石井 光 (イシイ アキラ)
大石 泰彦 (オオイシ ヤスヒコ)
小藪 康範 (オソノ ヤスノリ)
菊池 純一 (キクチ ジュンイチ)
許 未恵 (キョ スエ)
久保 茂樹 (クボ シゲキ) (法務研究科兼任)
酒井 安行 (サカイ ヤスユキ)
佐々木 高雄 (ササキ タカオ)
申 恵丰 (シン ヘボン)
住吉 雅美 (スミヨシ マサミ)
関 英昭 (セキ ヒデアキ)
墓 豊 (ダイ ユタカ)
チェン・ポール (チェン・ポール)
手塚 和彰 (テヅカ カズアキ)
土橋 正 (ドバシ タダシ)
中村 芳昭 (ナカムラ ヨシアキ)
夏目 博明 (ナツメ ヒロアキ)
西澤 宗英 (ニシザワ ムネヒデア)
原口 健治 (ハラグチ ケンジ)
廣瀬 久和 (ヒロセ ヒサカズ)
藤川 久昭 (フジカワ ヒサアキ)
松川 実 (マツカワ ミノル)
三木 義一 (ミキ ヨシカズ)
安見 ゆかり (ヤスミ ユカリ)
山崎 敏彦 (ヤマザキ トシヒコ) (法務研究科兼任)
山田 央子 (ヤマダ エイコ)
吉田 直 (ヨシダ ナオ)

<准教授>

フクダ (FUKUDA, S.E.)
メニム (MENNIM, P.)
伊藤 敬也 (イトウ タカヤ)
大沢 光 (オオサワ ヒカル)
大山 和寿 (オオヤマ カズトシ)
岡田 直己 (オカダ ナオキ)
塩谷 直也 (シオタニ ナオヤ)
松田 憲忠 (マツダ ノリタダ)
室住 信子 (ムロズミ ノブコ)

<助教>

赤間 聡 (アカマ サトシ)
楊 林凱 (ヨウ リンカイ)

<客員教授>

宇佐美 洋 (ウサミ ヒロシ)

経営学部

経営学科

<教授>

荒木 万寿夫 (アラキ マスオ)
戒野 敏浩 (カイノ トシヒロ)
亀坂 安紀子 (カメサカ アキコ)
五味 慎太郎 (ゴミ シンタロウ)
佐藤 靖 (サトウ オサム)
塩澤 友規 (シオザワ トモキ)
高橋 邦丸 (タカハシ クニマル)
竹田 賢 (タケダ ケン)
玉木 欽也 (タマキ キンヤ)
東海 幹夫 (トウカイ ミキオ)
西村 優子 (ニシムラ ユウコ)
長谷川 信 (ハセガワ シン)
林 伸二 (ハヤシ シンジ)
安田 洋史 (ヤスダ ヒロシ)
山本 寛 (ヤマモト ヒロシ)
尹 志煌 (ユン シコウ)
吉田 猛 (ヨシダ タケン)

<准教授>

上枝 正幸 (ウエダ マサユキ)
楠 由記子 (クス ユキコ)
高松 朋史 (タカマツ トモフミ)
竹内 規彦 (タケウチ ノリヒコ)
立石 義明 (タテishi ヨシアキ)
矢澤 憲一 (ヤザワ ケンイチ)
矢内 一利 (ヤナイ カズトシ)
山下 勝 (ヤマシタ マサル)

マーケティング学科

<教授>

ダフ (DUFF, B.R.)
岩田 伸人 (イワタ ノブト)
薄上 二郎 (ウスガミ ジロウ)
小野 譲司 (オノ ジョウジ)
鹿島 浩之 (カシマ ヒロユキ)
加藤 篤史 (カトウ アツシ)
佐川 和茂 (サガワ カズシゲ)
佐藤 亨 (サトウ トオル)
宋 連玉 (ソン ヨンオク)
田中 正郎 (タナカ マサオ)
芳賀 康浩 (ハガ ヤスヒロ)
三村 優美子 (ミムラ ユミコ)
森川 信男 (モリカワ ノブオ)

<准教授>

東 伸一 (アズマ ノブカズ)
大道 千穂 (オオミチ チホ)
島田 淳二 (シマダ ジュンジ)
高砂 民宣 (タカサゴ タミノブ)
土橋 治子 (ツチハシ ハルコ)
當間 麗 (トウマ ウララ)
永井 忠孝 (ナガイ タダタカ)
宮崎 純一 (ミヤザキ ジュンイチ)

<助教>

理工学部

<教授>

- 蔭山 友行 (カゲヤマ トモユキ)
- 加島 健 (カシマ タケシ)
- 川口 悦 (カワグチ エツ)
- 瀧本 将弘 (タキモト マサヒロ)
- 中園 嘉巳 (ナカゾノ ヨシミ)
- 中村 功 (ナカムラ イサオ)

<准教授>

- ペイゲル (PAGEL, J.W.)
- リーディ (REEDY, D.W.)
- 谷口 裕子 (タニグチ ユウコ)

物理・数理学科

<教授>

- 秋光 純 (アキミツ ジュン)
- 久保 健 (クボ ケン)
- 薩摩 順吉 (サツマ ジュンキチ)
- 高野 恭一 (タカノ キョウイチ)
- 中山 裕道 (ナカヤマ ヒロミチ)
- 西尾 泉 (ニシオ イズミ)
- 西山 享 (ニシヤマ キョウ)
- 古川 信夫 (フルカワ ノブオ)
- 松川 宏 (マツカワ ヒロシ)
- 吉田 篤正 (ヨシダ アツマサ)

<准教授>

- 北野 晴久 (キタノ ハルヒサ)
- 谷口 健二 (タニグチ ケンジ)
- 馬場 彩 (バンバ アヤ)
- 前田 はるか (マエダ ハルカ)
- 増田 哲 (マサダ テツ)
- 三井 敏之 (ミツイ トシユキ)
- 山崎 了 (ヤマザキ リョウ)

<助教>

- 磯島 伸 (イソジマ シン)
- 井上 剛志 (イノウエ ツヨシ)
- 大槻 道夫 (オオツキ ミチオ)
- 小林 夏野 (コバヤシ カヤ)
- 榎 直人 (エノキ ナオト)
- 佐藤 正寛 (サトウ マサヒロ)
- 鈴木 正 (スズキ セイ)
- 高峰 愛子 (タカミネ アイコ)
- 藤井 康裕 (フジイ ヤスヒロ)
- 村田 実貴生 (ムラタ ミキオ)
- 村中 隆弘 (ムラナカ タカヒロ)
- 山岡 和貴 (ヤマオカ カズタカ)

<理工学部講師>

- 青木 和巳 (アオキ カズミ)

化学・生命科学科

<教授>

- 阿部 二郎 (アベ ジロウ)
- 木村 純二 (キムラ ジュンジ)
- 小林 迪夫 (コバヤシ ミチオ)
- 重里 有三 (シゲサト ユウゾウ)
- 杉村 秀幸 (スギムラ ヒデアキ)

- 鈴木 正 (スズキ タクシ)
- 武内 亮 (タケウチ リョウ)
- 田代 朋子 (タシロ トモコ)
- 長谷川 美貴 (ハセガワ ミキ)
- 宮野 雅司 (ミヤノ マサシ)

<准教授>

- 阿部 文快 (アベ フミヨシ)
- 中田 恭子 (ナカダ キョウコ)

<助教>

- 磯崎 輔 (イソザキ タスク)
- 岡 伸人 (オカ ノブト)
- 小野寺 玄 (オノテラ ゲン)
- 川島 麗 (カワシマ レイ)
- 高橋 勇雄 (タカハシ イサオ)
- 辻本 恭 (ツジモト タカシ)
- 根岸 隆之 (ネギシ タカユキ)
- 優 乙石 (ユウ イッセキ)

<理工学部講師>

- 稲吉 倫子 (イナヨシ トモコ)

<助手>

- 河合 重和 (カワイ シゲカズ)

電気電子工学科

<教授>

- 井出 英人 (イデ ヒデト)
- 澤邊 厚仁 (サワベ アツヒト)
- 地主 創 (ジヌシ ハジメ)
- 中田 時夫 (ナカダ トキオ)
- 永田 勇二郎 (ナガタ ユウジロウ)
- 橋本 修 (ハシモト オサム)
- 林 洋一 (ハヤシ ヨウイチ)
- 松谷 康之 (マツヤ ヤスユキ)

<准教授>

- 外林 秀之 (ソトバヤシ ヒデアキ)
- 春山 純志 (ハルヤマ ジュンジ)
- 米山 淳 (ヨネヤマ ジュン)

<助教>

- 児玉 英之 (コダマ ヒデアキ)
- 名取 賢二 (ナトリ ケンジ)
- 水崎 壮一郎 (ミズサキ ソウイチロウ)

<助手>

- 浅野 裕俊 (アサノ ヒロトシ)
- 井岡 恵理 (イオカ エリ)
- 今村 薫 (イマムラ コオル)
- 内田 ゆず (ウチダ ユズ)
- 風間 保裕 (カザマ ヤスヒロ)
- 須賀 良介 (スガ リョウスケ)
- 三瀬 貴寛 (ミセ タカヒロ)
- 吉田 隆弘 (ヨシダ タカヒロ)

機械創造工学科

<教授>

- 大石 進 (オオイシ ススム)
- 岡田 昌志 (オカダ マサシ)
- 小川 武史 (オガワ タケシ)
- 小林 信之 (コバヤシ ノブユキ)
- 林 光一 (ハヤシ コウイチ)

- 横田 和彦 (ヨコタ カズヒコ)
- 渡邊 昌宏 (ワタナベ マサヒロ)

<准教授>

- 長 秀雄 (チノウ ヒデオ)
- 米山 聡 (ヨネヤマ サトル)

<助教>

- 浅岡 龍徳 (アサオカ タツノリ)
- 橋本 宣慶 (ハシモト ノブヨシ)
- 原 謙介 (ハラ ケンスケ)
- 松尾 卓摩 (マツオ タクマ)
- 山田 英助 (ヤマダ エイスケ)

<助手>

- 有川 秀一 (アリカワ シュウイチ)
- 金田 忍 (カナゲ シノブ)
- 姜 東赫 (カン ドンヒョク)

経営システム工学科

<教授>

- 天坂 格郎 (アマサカ カクロウ)
- 石津 昌平 (イシズ ショウヘイ)
- 熊谷 敏 (クマガイ ヒサシ)
- 松本 俊之 (マツモト トシユキ)

<准教授>

- 大内 紀知 (オオウチ ノリトモ)
- 宋 少秋 (ソン ショウシュウ)
- 日吉 久礎 (ヒヨシ ヒサモト)
- 水山 元 (ミズヤマ ハジメ)

<助教>

- 中田 洋平 (ナカダ ヨウヘイ)
- 松浦 峻 (マツウラ シュン)

<理工学部講師>

- 安瀬 美知子 (アンセ ミチコ)

<助手>

- 梶山 朋子 (カジヤマ トモコ)
- 金子 雅明 (カネコ マサアキ)
- 繁住 健哉 (シゲズミ タケヤ)
- 早坂 弘達 (ハヤサカ ヒロタツ)

情報テクノロジー学科

<教授>

- テュールスト (DUERST, M.J.)
- 小宮山 摂 (コミヤマ セツ)
- 佐久田 博司 (サクタ ヒロシ)
- 鷺見 和彦 (スミ カズヒコ)
- 原田 実 (ハラダ ミノル)
- 水澤 純一 (ミズサワ ジュンイチ)
- 山口 博明 (ヤマグチ ヒロアキ)

<准教授>

- 大原 剛三 (オオハラ コウゾウ)

<助教>

- 河上 篤史 (カワカミ アツシ)
- 狐崎 直文 (キツネザキ ナオフミ)
- 斉藤 友彦 (サイトウ トモヒコ)
- 藤本 悠 (フジモト ユウ)
- 松田 源立 (マツダ ヨシタツ)
- 武藤 剛 (ムトウ タケシ)
- 矢吹 太郎 (ヤブキ タロウ)

<助手>

松原 俊一 (マツバラ シュンイチ)

国際政治経済学部

<教授>

嶋田 順好 (シマダ マサヨシ)

国際政治学科

<教授>

青井 千由紀 (アオイ チユキ)

押村 高 (オシムラ タカシ)

菊池 努 (キクチ ツトム)

小島 敏郎 (コジマ トシロウ)

土山 實男 (ツチヤマ ジツオ)

中山 俊宏 (ナカヤマ トシヒロ)

納家 政嗣 (ナヤ マサツグ)

袴田 茂樹 (ハカマダ シゲキ)

羽場 久美子 (ハバ クミコ)

<准教授>

阿部 達也 (アベ タツヤ)

倉松 中 (クラマツ ナカシ)

武田 興欣 (タケダ オキヨシ)

<助教>

和田 洋典 (ワダ ヒロノリ)

国際経済学科

<教授>

内田 達也 (ウチダ タツヤ)

内山 義英 (ウチヤマ ヨシヒデ)

大野 昭彦 (オノ アキヒコ)

岡村 稔 (オカムラ ミノル)

木村 光彦 (キムラ ミツヒコ)

仙波 憲一 (センバ ケンイチ)

友原 章典 (トモハラ アキノリ)

中川 浩宣 (ナカガワ ヒロノブ)

本田 重美 (ホンダ シゲミ)

港 徹雄 (ミナト テツオ)

<准教授>

飯坂 ひとみ (イザカ ヒトミ)

竹田 憲史 (タケタ ケンシ)

<専任講師>

瀬尾 佳美 (セオ カミ)

<助教>

上原 克仁 (ウエハラ カツヒト)

国際コミュニケーション学科

<教授>

エバノフ (EVANOFF, R.J.)

ポダルク (PODALKO, P.)

井川 肇 (イカワ ハジメ)

大久保 典子 (オオクボ ミチコ)

抱井 尚子 (カカイ ヒサコ)

狩野 良規 (カノウ ヨシキ)

末田 清子 (スエダ キヨコ)

田辺 正美 (タナベ マサミ)

陳 継東 (チン ケイトウ)

林 世景 (リン セイケイ)

渡邊 千秋 (ワタナベ チアキ)

<准教授>

幸地 茂 (コウチ シゲル)

國分 俊宏 (クニヅ トシヒロ)

猿橋 順子 (サルハシ ジュンコ)

田崎 勝也 (タサキ カツヤ)

総合文化政策学部

<教授>

井口 典夫 (イグチ ノリオ)

石崎 晴己 (イシザキ ハルミ)

内山 隆 (ウチヤマ タカシ)

梅津 順一 (ウメツ ジュンイチ)

大島 正嗣 (オオシマ マサツグ)

岡 真理子 (オカ マリコ)

岡部 篤行 (オカベ アツユキ)

懸田 豊 (カケダ ユタカ)

黒石 いずみ (クロイシ イズミ)

茂 牧人 (シゲル マキト)

杉浦 勢之 (スギウラ セイン)

鈴木 博之 (スズキ ヒロユキ)

東方 敬信 (トウボウ ヨシノブ)

鳥越 けい子 (トリゴエ ケイコ)

中野 昌宏 (ナカノ マサヒロ)

福岡 伸一 (フクオカ シンイチ)

堀内 正博 (ホリウチ マサヒロ)

真鍋 一史 (マナベ カズフミ)

宮澤 淳一 (ミヤザワ ジュンイチ)

<准教授>

沖本 幸子 (オキモト ユキコ)

関根 小織 (セキネ サオリ)

竹内 孝宏 (タケウチ タカヒロ)

矢野 晋吾 (ヤノ シンゴ)

<助教>

福田 大輔 (フクダ ダイスケ)

社会情報学部

<准教授>

大宮 謙 (オオミヤ ケン)

<助教>

阿部 慶賀 (アベ ケイガ)

齋藤 裕 (サイトウ ユカ)

社会情報学科

<教授>

飯島 泰裕 (イシマ ヤスヒロ)

石田 博之 (イシダ ヒロユキ)

稲積 宏誠 (イナヅミ ヒロシゲ)

岩井 千尋 (イワイ チヒロ)

魚住 清彦 (ウオズミ キヨヒコ)

苺宿 俊文 (カリヤド トシブミ)

小池 和彦 (コイケ カズヒコ)

佐伯 胖 (サエキ ユカ)

清水 康司 (シミズ ヤスシ)

高木 光太郎 (タカギ コウタロウ)

長橋 透 (ナガハシ トオル)

開澤 栄相 (ヒラキザワ エイスケ)

吹春 俊隆 (フキハル トシタカ)

福田 亘孝 (フクダ ノブタカ)

増永 良文 (マズナガ ヨシフミ)

宮川 裕之 (ミヤガワ ヒロユキ)

村川 久子 (ムラカワ ヒサコ)

矢野 公一 (ヤノ コウイチ)

<准教授>

ランバッカー (LAMBACHER, S.G.)

伊藤 一成 (イトウ カズナリ)

清成 透子 (キヨナリ トオコ)

寺尾 敦 (テラオ アツシ)

伏屋 広隆 (フシヤ ヒロタカ)

宮治 裕 (ミヤジ ユカ)

<助教>

東 るみ子 (アズマ ルミコ)

遠藤 俊典 (エンドウ トシノリ)

高村 正志 (タカムラ マサシ)

南部 和香 (ナンブ カズカ)

<助手>

森田 武史 (モリタ タケシ)

学内兼任

法学研究科

<特任教授>

小林 一郎 (コバヤシ イチロウ)

総合文化政策学研究科

<特任教授>

青木 保 (アオキ タモツ)

国際マネジメント研究科

<教授>

岩井 千明 (イワイ チアキ)

小林 孝雄 (コバヤシ タカオ)

榎原 正幸 (サカキバラ マサユキ)

中里 宗敬 (ナカサト ムネノリ)

西谷 幸介 (ニシタニ コウスケ)

法務研究科 法務専攻

<教授>

レンツ (LENZ, K.F.)

関 武志 (セキ タケシ)

芹沢 斉 (セリザワ ヒトシ)

新倉 修 (ニクラ オサム)

宮崎 万壽夫 (ミヤザキ マスオ)

山崎 敏彦 (ヤマザキ トシヒコ)

<客員教授>

永井 均 (ナガイ ヒトシ)

会計プロフェッション研究科

<教授>

唐沢 昌敬 (カラサワ マサタカ)

多賀谷 充 (タガヤ ミツル)

<客員教授>

平 仁 (ヒライ ヒトシ)

<特任教授>

吉村 貞彦 (ヨシムラ サダヒコ)

<准教授>

久持 英司 (ヒサモチ エイジ)

院内兼任

短期大学

河見 誠 (カワミ マコト)

齋藤 修三 (サイトウ シュウゾウ)

橋本 典子 (ハシモト ノリコ)

松村 伸一 (マツムラ シンイチ)

湯本 久美子 (ユモト クミコ)

幼稚園

多々内 三恵子 (タダウチ ミエコ)

大学特別招聘教授

小倉 和夫 (オクラ カズオ)

榎原 英資 (サカキバラ エイスケ)

非常勤講師

アンダーソン (ANDERSON, T.C.)

アンドラディ (ANDRADE, M.)

アームストロング

(ARMSTRONG, W.H.)

オードリー (AUDOLY, E.)

バランス (BALLANCE, T.L.)

バラット (BARAT, R.)

バッソ (BASSO, R.J.)

バウマン (BAUMAN, J.)

バインダー (BINDER, S.R.)

ビゼ (BIZET, F.)

ボダン (BODIN, E.)

ボリンジャー (BOLLINGER, D.J.)

ボレンステン (BORENSTEIN, C.)

ブラウン、A. (BRAUN, A.)

ブレッフュエル (BREFUEL, R.)

ブロードブリッジ

(BROADBRIDGE, J.R.)

ブルック (BROOKE, S.J.)

ブラウニング (BROWNING, T.L.)

ブルース (BRUCE, J.M.)

バックレー (BUCKLEY, H.L.)

ブラック (BULACH, J.J.)

バント (BUNDT, L.L.)

バトラー、B.J. (BUTLER, B.J.)

カルトン (CARTON, M.)

カズウェル (CASWELL, I.M.)

クープ (COOP, S.L.)

コンルール (CONREUR, G.)

コートニー (COURTNEY, G.R.)

クレイグ (CRAIG, J.R.)

クレイン (CRANE, G.A.)

クラウン (CROWN, K.A.)

ダーリン (DARLING, M.W.)

ドウ ウルフ (DE WOLF, C.)

デニー (DENNY, J.S.)

ドーラン (DORAN, S.)

ダイグナン (DUIGNAN, R.)

ドボルジャーク (DVORJAK, Y.)

エリオット (ELLIOTT, M.)

フォスター、J. (FOSTER, J.J.)

フレンドーフ (FUHLENDORF, A.M.)

ガルシアールイス (GARCIA-RUIZ, P.)

ガブリロワ (GAVRILOVA, M.)

ガーション (GERSHON, B.)

ガダード (GODDARD, J.A.)

グレイ (GRAY, M.A.)

ホイサーマン、P.

(HAEUSSERMANN, P.)

ハードグレイヴ (HARDGRAVE, B.J.)

ハーバー (HARPER, P.A.K.)

ヒントン、R.D. (HINTON, R.D.)

ハウル (HOWL, P.F.)

ジャンセン (JANSEN, W.A.)

カミムラ タンウォング

(KAMIMURA, T.H.)

カーリン (KARLIN, O.C.)

カズマー (KASMER, W.B.)

ケン フジオカ (KEN FUJIOKA)

ランバート (LAMBERT, N.)

ローガン (LOGAN, R.A.JR.)

マディーン (MADEEN, E.C.)

マレシャル (MARECHAL, B.)

マーティン (MARTIN, J.P.)

マクエバリ (McEVILLY, P.M.)

ミーハン (MEEHAN, K.)

ミニオン (MIGNON, E.T.)

ミゲス (MIGUEZ, G.V.)

ミルティアドス (MULTIADOUS, M.M.)

モハメッド (MOHAMED, G.A.)

ネルソン (NELSON, F.M.)

オチャンド (OCHANDO, F.)

オクハラ-カズウェル

(OKUHARA-CASWELL)

モミヤマ (ORDONEZ DE MOMIYAMA, M.)

パタン (PATIN, C.)

ペンゴスロ (PENGOSRO, E.K.)

ピーターソン (PETERSON, L.M.)

ポポフスキー (POPOVSKI, V.)

ポーシャック (POULSHOCK, J.W.)

プラスキー (PULASKI, J.C.)

ラフボ (RACHUBO, A.P.)

ラルフ (RALPH, B.J.)

レイナード (RANARD, A.B.)

リーバー (REBER, M.F.)

リー、S. (REE, S.A.)

ライリー (REILLY, J.E.)

ライマン (REIMANN, A.N.)

ルヌール (RENOUL, C.)

ロバートソン (ROBERTSON, P.E.)

ローゼンキヤー (ROSENKJAR, P.R.)

ローワン (ROWAN, P.A.R.)

ルシンスキー (RUCYNSKI, T.J.)

ラファエル (RUIZ, RAFAEL)

シェイド (SHADE, E.)

ソロモンス (SOLOMONS, R.A.)

タケダ (TAKEDA, N.K.)

タニグチ (TANIGUCHI, J.M.)

トムソン (THOMSON, B.J.)

トッテン (TOTTEN, P.J.)

タイナー (TYNER, C.H.)

ウチダ (UCHIDA, A.)

ヴァジラサーン (VAJIRASARN, A.)

バルギース (VARGHESE, M.)

ヴォート (VOGT, L.)

ウォルツァー (WALZER, R.)

ヨダ (YODER, R.S.)

ヤング (YOUNG, J.)

ジャンジェ (ZHANJE, T.W.)

青木 敦子 (アオキ アツコ)

青木 詔司 (アオキ ショウジ)

青木 久子 (アオキ ヒサコ)

青柳 いづみこ (アオヤギ イヅミコ)

青山 清英 (アオヤマ キヨヒデ)	石井 仁 (イシイ ヒトシ)	植芝 牧 (ウエシバ マキ)	大輪 公彦 (オオワ コウイチ)
青山 治世 (アオヤマ ハルシ)	石川 健治 (イシカワ ケンジ)	上田 修一 (ウエダ シュウイチ)	小笠原 耕司 (オガサワラ コウジ)
赤崎 祐子 (アカサキ ユウコ)	石川 泰 (イシカワ タイ)	植田 みどり (ウエダ ミドリ)	小笠原 弘幸 (オガサワラ ヒロユキ)
赤平 恵理 (アカヒラ エリ)	石黒 敏明 (イシクロ トシアキ)	上原 行義 (ウエハラ コウギ)	岡田 純一 (オカダ ジュンイチ)
秋場 勝彦 (アキバ カツヒコ)	石黒 弓美子 (イシクロ ユミコ)	上原 美知子 (ウエハラ ミチコ)	小方 伴子 (オガタ トモコ)
秋元 実治 (アキモト ミノジ)	石橋 和代 (イシハシ カズヨ)	植松 希久磨 (ウエマツ キクマ)	岡留 聡子 (オガドメ サトコ)
秋山 聰 (アキヤマ アキラ)	石橋 満 (イシハシ ミツル)	植松 公彦 (ウエマツ キミヒコ)	岡野 智彦 (オカノ トモヒコ)
秋山 映一 (アキヤマ エイチ)	石原 信一 (イシハラ シンイチ)	上村 佳世子 (ウエムラ カヨコ)	岡村 陽子 (オカムラ ヨウコ)
秋山 茂幸 (アキヤマ シゲユキ)	石原 比伊呂 (イシハラ ヒイロ)	上村 威 (ウエムラ タケシ)	岡本 さだこ (オカモト サダコ)
秋山 武清 (アキヤマ タケキヨ)	石本 英彦 (イシモト ヒデヒコ)	植村 恒一郎 (ウエムラ ツネイチロウ)	小川 誠子 (オガワ セイコ)
秋山 靖浩 (アキヤマ ヤスヒロ)	石森 大知 (イシモリ タイチ)	植村 朋弘 (ウエムラ トモヒロ)	小川 忠 (オガワ タダシ)
阿久津 純恵 (アツク スミエ)	伊集院 睦雄 (イジユウイン ムツオ)	魚谷 武志 (ウオタニ タケシ)	小川 ルビー (オガワ ルビー)
浅野 清彦 (アサノ キョヒコ)	石渡 彰二 (イシワタ ショウジ)	右近 修治 (ウチノ シュウジ)	沖 一雄 (オキ カズオ)
朝比奈 大作 (アサヒナ ダイサク)	石和田 昌利 (イシワダ マサトシ)	宇田川 久美子 (ウダガワ クミコ)	沖塩 有希子 (オキシオ ユキコ)
朝広 謙次郎 (アサヒロ ケンジロウ)	泉 忠司 (イズミ タダシ)	内桶 真二 (ウチオケ シンジ)	荻野 克美 (オギノ カツミ)
浅利 浩一 (アサリ コウイチ)	磯山 久美子 (イソヤマ クミコ)	内田 英二 (ウチダ エイジ)	沖山 充 (オキヤマ ミツル)
東 徹 (アズマ トオル)	板井 広明 (イタイ ヒロアキ)	内田 啓一 (ウチダ ケイチ)	荻原 幸子 (オギワラ サチコ)
東 英弥 (アズマ ヒデア)	板垣 良一 (イタガキ リョウイチ)	内田 滋 (ウチダ シゲル)	奥田 英信 (オクダ ヒデアノ)
麻生 英子 (アソウ エイコ)	市川 やよい (イチカワ ヤヨイ)	内田 有紀 (ウチダ ユウキ)	奥野 理恵子 (オクノ リエコ)
足立 崇 (アダチ タカシ)	市来 壽 治 (イチキヤキ オサム)	内田 利菜 (ウチダ リナ)	奥村 大志 (オクムラ タイシ)
新井 恵理 (アライ エリ)	市倉 信義 (イチクラ ノブヨシ)	内山 幸久 (ウチヤマ ユキヒサ)	小倉 ひろみ (オクラ ヒロミ)
荒井 健二郎 (アライ ケンジロウ)	井出 功一 (イデ コウイチ)	宇野 雅章 (ウノ マサアキ)	生越 まり子 (オゴシ マリコ)
荒井 幸康 (アライ ユキヤス)	伊藤 亜紗 (イトウ アサ)	浦部 尚志 (ウラベ タカシ)	織田 弥生 (オリダ ヤヨイ)
荒川 慎太郎 (アラカワ シンタロウ)	伊藤 健一郎 (イトウ ケンイチロウ)	占部 雅一 (ウラベ マサカズ)	鬼丸 洋 (オニマル ヒロシ)
荒木 暉 (アラキ ヒカル)	伊藤 仁美 (イトウ ナツミ)	江田 幸子 (エダ サチコ)	鬼山 敬邦 (オニヤマ タカフミ)
荒巻 朋子 (アラマキ トモコ)	伊藤 丈人 (イトウ タケヒト)	衛藤 英達 (エトウ ヒデアト)	小野 晃典 (オノ アキノリ)
新目 真紀 (アラム マキ)	伊藤 直 (イトウ タダシ)	海老沢 達郎 (エビサワ タツオ)	小野 新 (オノ アラタ)
新谷 淳一 (アヲヤ ジュンイチ)	伊藤 忠弘 (イトウ タダヒロ)	遠藤 恭一 (エンドウ キョウイチ)	小野 公一 (オノ コウイチ)
有川 雅裕 (アリカワ マサヒロ)	伊藤 徹哉 (イトウ テツヤ)	王 凌 (オウ リョウ)	小野 俊太郎 (オノ ジュンタロウ)
安家 達也 (アンケ タツヤ)	伊藤 匡美 (イトウ マサミ)	王 敏 (オウ ビン)	小野 壽美子 (オノ スミコ)
安齋 有紀 (アンザイ ユキ)	伊東 弥香 (イトウ ミカ)	大川 裕子 (オオカワ ユウコ)	小野 正敏 (オノ マサトシ)
安西 弥生 (アンザイ ヤヨイ)	井戸 美里 (イド ミサト)	大木 京子 (オオキ キョウコ)	小野 森都子 (オノ モトコ)
安藤 勉 (アンドウ ツトム)	伊奈 久喜 (イナ ヒサヨシ)	大窪 高志 (オオクボ タカシ)	尾上 正博 (オノウエ マサヒロ)
安藤 壽茂 (アンドウ ヒサシゲ)	稲垣 久和 (イナガキ ヒサカズ)	大久保 哲也 (オオクボ テツヤ)	小野田 撰子 (オノダ セツコ)
李 恵淑 (イ ヘスク)	稲垣 文男 (イナガキ フミオ)	太下 義之 (オオシタ ヨシユキ)	小野塚 久枝 (オノヅカ ヒサエ)
飯倉 洋一 (イクラ ヨウイチ)	稲富 三夫 (イナトミ ミツオ)	大島 有子 (オオシマ アリス)	小幡 一雄 (オバタ カズオ)
飯沢 耕太郎 (イザワ コウタロウ)	井野 葉子 (イノ ヨウコ)	太田 和子 (オオタ カズコ)	小幡 勝彦 (オバタ カツヒコ)
飯田 晴巳 (イイダ ハルミ)	井上 恵子 (イノウエ ケイコ)	太田 さつき (オオタ サツキ)	小畑 精和 (オバタ ヨシカズ)
飯田 道子 (イイダ ミチコ)	井上 順雄 (イノウエ ノブオ)	大竹 誠 (オオタケ マコト)	小原 進 (オハラ ススム)
飯田 義明 (イイダ ヨシアキ)	井上 正 (イノウエ マサシ)	大谷 康晴 (オオタニ ヤスハル)	小原 格 (オハラ ツトム)
飯野 明 (イイノ アキラ)	井上 美砂 (イノウエ ミサ)	大津 浩 (オオツ ヒロシ)	小俣 一平 (オマタ イッペイ)
生田 かおる (イクタ カオル)	井上 裕夫 (イノウエ ヤスオ)	大槻 直子 (オオツキ ナオコ)	小山 望 (オヤマ ノゾミ)
井口 磯夫 (イグチ イソオ)	井上 泰日子 (イノウエ ヤスヒコ)	大出 敦 (オオデ アツシ)	恩田 英治 (オンダ ヒデアル)
池内 守厚 (イケウチ モリアツ)	猪塚 元 (イノヅカ ハジメ)	大西 幸子 (オオニシ サチコ)	甲斐 基文 (カイ モトフミ)
池田 明子 (イケダ アキコ)	今井 章久 (イマイ アキヒサ)	大沼 博靖 (オオヌマ ヒロヤス)	甲斐 利恵子 (カイ リエコ)
池田 明史 (イケダ アキフミ)	今井 邦雄 (イマイ クニオ)	大野 伸 (オオノ シン)	香川 知晶 (カガワ チアキ)
池田 和子 (イケダ カズコ)	今井 福司 (イマイ フクジ)	大野 秀夫 (オオノ ヒデオ)	柿崎 孝夫 (カキザキ タカオ)
池田 早苗 (イケダ サナエ)	今泉 美由紀 (イマイズミ ミユキ)	大野 広之 (オオノ ヒロユキ)	柿元 資子 (カキモト モトコ)
池田 信夫 (イケダ ノブオ)	今川 正浩 (イマガワ マサヒロ)	大場 静枝 (オオバ シズエ)	賀来 道生 (カク ミチオ)
池田 まさみ (イケダ マサミ)	井村 俊義 (イムラ トシヨシ)	大橋 知子 (オオハシ トモコ)	河西 由美子 (カサイ ユミコ)
池田 満 (イケダ ミツル)	伊興田 正彦 (イヨダ マサヒコ)	大橋 直義 (オオハシ ナオヨシ)	笠羽 晴夫 (カサバ ハルオ)
池田 稔 (イケダ ミノル)	岩井 克文 (イワイ カツフミ)	大橋 憲広 (オオハシ ノリヒロ)	風間 賢二 (カザマ ケンジ)
石井 一平 (イシイ イッペイ)	岩下 誠 (イワシタ アキラ)	大原 一元 (オオハラ カズモト)	加島 勝 (カシマ マサル)
石井 啓子 (イシイ ケイコ)	岩田 淳子 (イワタ アツコ)	大房 潤一 (オオフサ ジュンイチ)	片上 英俊 (カタカミ ヒデトシ)
石井 恵子 (イシイ ケイコ)	岩原 武則 (イワハラ タケノリ)	大堀 壽夫 (オオホリ トシオ)	片桐 祐 (カタギリ ユウ)
石井 丈二 (イシイ タケジ)	岩丸 良明 (イワマル ヨシアキ)	大嶺 せい子 (オオミネ セイコ)	片野 修一郎 (カタノ シュウイチロウ)
石井 信明 (イシイ ノブアキ)	上杉 嘉見 (ウエスギ ヨシミ)	大山 恭子 (オオヤマ キョウコ)	片見 彰夫 (カタミ アキオ)

片山 等 (カタヤマ ヒトシ)	姜 公淑 (カン コンス)	軍司 敦子 (グンシ アツコ)	齋藤 かおる (サイトウ カオル)
勝田 千恵子 (カツダ チエコ)	神崎 繁 (カンザキ シゲル)	毛塚 敦 (ケヅカ アツシ)	齋藤 敬子 (サイトウ ケイコ)
勝西 良典 (カツニシ ヨシノリ)	菊池 韶彦 (キクチ アキヒコ)	小池 茂子 (コイケ シゲコ)	齋藤 祥恵 (サイトウ サチエ)
勝又 恵理子 (カツマタ エリコ)	菊池 進 (キクチ ススム)	小池 惇平 (コイケ ジュンペイ)	齋藤 直 (サイトウ ナオ)
勝山 裕之 (カツヤマ ヒロユキ)	菊池 哲也 (キクチ テツヤ)	小池 政行 (コイケ マサユキ)	齋藤 長行 (サイトウ ナガユキ)
加藤 章 (カトウ アキラ)	木崎 悠子 (キザキ ユウコ)	小泉 晋一 (コイズミ シンイチ)	齋藤 博 (サイトウ ヒロシ)
加藤 敦子 (カトウ アツコ)	岸 彩子 (キシ アヤコ)	小泉 徹 (コイズミ トオル)	齋藤 正武 (サイトウ マサタケ)
加藤 恵子 (カトウ ケイコ)	北垣 潔 (キタガキ キヨシ)	小磯 花絵 (コイソ ハナエ)	齋藤 希史 (サイトウ マレシ)
加藤 譲 (カトウ ジョウ)	北出 広子 (キタデ ヒロコ)	黄 漢青 (コウ カンセイ)	齋野 岳廊 (サイノ タケロウ)
加藤 尚子 (カトウ ナオコ)	北野 良枝 (キタノ ヨシエ)	郷 義孝 (ゴウ ヨシタカ)	佐伯 奈津子 (サエキ ナツコ)
加藤 弘子 (カトウ ヒロコ)	北村 麻紀子 (キタムラ マキコ)	河野 貴美子 (カノ キミコ)	酒井 和子 (サカイ カズコ)
加藤 宏 (カトウ ヒロシ)	北村 昌彦 (キタムラ マサヒコ)	河野 康成 (カノ ヤスナリ)	酒井 智宏 (サカイ トモヒロ)
加藤 麻衣子 (カトウ マイコ)	北山 雅昭 (キタヤマ マサアキ)	小枝 義人 (コエダ ヨシト)	酒井 潔 (サカイ キヨシ)
加藤 昌弘 (カトウ マサヒロ)	橋川 武郎 (キツカワ タケオ)	国分 峰樹 (クニヰ ミネキ)	酒井 幸子 (サカイ サチコ)
加藤 めぐみ (カトウ メグミ)	橋田 栄子 (キツタ エイコ)	越川 邦夫 (コシカワ クニオ)	酒井 良清 (サカイ ヨシキヨ)
香取 英男 (カトリ ヒデオ)	橋田 正造 (キツタ ショウゾウ)	小島 慶一 (コジマ ケイイチ)	榊原 英資 (サカキハラ エイスケ)
金井 光太郎 (カナイ コウタロウ)	木野井 美紗子 (キノイ ミサコ)	小島 章子 (コジマ ショウコ)	阪口 美津子 (サカグチ ミツコ)
金杉 憲治 (カナシギ ケンジ)	木原 朝子 (キハラ アサコ)	小嶋 久子 (コジマ ヒサコ)	坂野 慎二 (サカノ シンジ)
金沢 陽 (カナザワ ヨウ)	金 愛慶 (キム エキヨシ)	小嶋 聡子 (コジマ トモコ)	坂原 眞里 (サカハラ マリ)
金田 耕一 (カナダ コウイチ)	金 敬黙 (キム ケイムク)	兒島 峰 (コジマ ミネ)	坂部 正治 (サカベ マサハル)
金丸 芙美 (カナマル フミ)	金 恵信 (キム ヘシン)	小島 優子 (コジマ ユウコ)	坂元 忠明 (サカモト タダアキ)
金森 努 (カナモリ ツトム)	木村 武雄 (キムラ タケオ)	小嶋 洋介 (コジマ ヨウスケ)	坂本 秀人 (サカモト ヒデト)
金谷 美紗 (カナヤ ミサ)	木村 利夫 (キムラ トシオ)	小谷 真理子 (コタニ マリコ)	坂本 誠 (サカモト マコト)
金谷 良夫 (カナヤ ヨシオ)	木村 みどり (キムラ ミドリ)	児玉 公信 (コタマ キミノブ)	桜井 恵子 (サクライ ケイコ)
金子 一秀 (カネコ カズヒデ)	木元 豊 (キモト ユタカ)	児玉 正博 (コタマ マサヒロ)	櫻井 道子 (サクライ ミチコ)
金子 憲 (カネコ アキラ)	久野 康彦 (キウノ ヤスヒコ)	後藤 和子 (ゴトウ カズコ)	笹川 あゆみ (ササガワ アユミ)
金子 智太郎 (カネコ トモタロウ)	清野 嘉之 (キヨノ ヨシユキ)	後藤 直 (ゴトウ ナガシ)	佐々木 三郎 (ササキ サブロウ)
兼利 琢也 (カネトシ タクヤ)	吉良 文孝 (キラ フミタカ)	小林 愛明 (コバヤシ アイメイ)	佐々木 恵 (ササキ メグミ)
兼平 充明 (カネヒラ ミツアキ)	桐谷 佳裕 (キリタニ ヨシヒロ)	小林 亜起子 (コバヤシ アキコ)	笹倉 優 (ササクラ ユウ)
金山 秋男 (カネヤマ アキオ)	桐谷 栄希 (キリヤ エイキ)	小林 加奈子 (コバヤシ カナコ)	左治木 吾郎 (サジキゴロウ)
狩野 昌央 (カノウ マサヒロ)	金 琦 (キン キ)	小林 群司 (コバヤシ グンジ)	佐志田 晶夫 (サシダ アキオ)
狩野 雄 (カノウ ユウ)	日下 正一 (クサカ ショウイチ)	小林 賢司 (コバヤシ ケンジ)	佐竹 由帆 (サタケ ヨシホ)
鎌田 裕美 (カマタ ヒロミ)	楠 裕行 (クスノキ ヒロユキ)	小林 晴子 (コバヤシ ハルコ)	薩摩 秀登 (サツマ ヒデト)
神尾 真知子 (カミオ マチコ)	楠本 和哉 (クスモト カズヤ)	小林 弘和 (コバヤシ ヒロカズ)	佐藤 和孝 (サトウ カズタカ)
神鷹 徳治 (カミタカ トクハル)	楠本 重行 (クスモト シゲユキ)	小林 学 (コバヤシ マナブ)	佐藤 修司 (サトウ シュウジ)
亀井 奈保美 (カメイ ナオミ)	工藤 章 (クドウ アキラ)	小林 裕子 (コバヤシ ヤスコ)	佐藤 進 (サトウ ススム)
狩俣 恵美 (カリマタ エミ)	工藤 健一 (クドウ ケンイチ)	小林 保彦 (コバヤシ ヤスヒコ)	佐藤 拓司 (サトウ タクジ)
川井 勇雄 (カワイ イサオ)	工藤 早恵 (クドウ サエ)	小林 由紀 (コバヤシ ユキ)	佐藤 健生 (サトウ タケオ)
河合 久 (カワイ ヒサシ)	工藤 眞一 (クドウ シンイチ)	小林 和歌子 (コバヤシ ワカコ)	佐藤 千明 (サトウ チアキ)
河合 史恵 (カワイ フミエ)	工藤 文三 (クドウ フンゾウ)	小日向 英俊 (コヒナタ ヒデトシ)	佐藤 紀子 (サトウ ノリコ)
川合 ゆみ子 (カワイ ユミコ)	国宗 知子 (クニムネ トモコ)	駒田 亜紀子 (コマダ アキコ)	佐藤 憲久 (サトウ ノリヒサ)
川上 泰 (カワカミ ヤスシ)	久保 陽一 (クボ ヨウイチ)	小松 弥生 (コマツ ヤヨイ)	佐藤 宏 (サトウ ヒロシ)
川口 恵子 (カワグチ ケイコ)	久保田 忠利 (クボタ タダトシ)	小峰 和子 (コミネ カズコ)	佐藤 道生 (サトウ ミチオ)
川口 裕司 (カワグチ ユウジ)	久保寺 紀江 (クボテラ ノリエ)	小峰 隆夫 (コミネ タカオ)	佐藤 美由紀 (サトウ ミユキ)
川口 義晴 (カワグチ ヨシハル)	隈井 秀人 (クマイ ヒデト)	五味 潤 (ゴミツチ ノリツグ)	佐藤 由美 (サトウ ユミ)
川名 晋史 (カワナ シンジ)	熊沢 孝 (クマザワ タカシ)	小柳 潤 (コヤナギ ジュン)	佐藤 義夫 (サトウ ヨシオ)
川鍋 定男 (カワナベ サダオ)	久山 道彦 (クヤマ ミチヒコ)	小柳 春一郎 (コヤナギ シュンイチロウ)	佐藤 凉子 (サトウ リョウコ)
河野 克也 (カワノ カツヤ)	栗原 浩之 (クリハラ ヒロユキ)	古山 みゆき (コヤマ ミユキ)	佐野 栄一 (サノ エイチ)
河野 誠哉 (カワノ セイヤ)	栗山 保之 (クリヤマ ヤスユキ)	根田 隆平 (ネダ リュウヘイ)	佐野 智子 (サノ トモコ)
川端 芳子 (カワバタ ヨシコ)	黒川 学 (クロカワ マナブ)	近藤 存志 (コンドウ アリユキ)	佐野 洋一郎 (サノ ヨウイチロウ)
河原 清志 (カワハラ キヨシ)	黒川 美和 (クロカワ ミワ)	権藤 俊彦 (ゴンドウ トシヒコ)	佐橋 亮 (サハシ リョウ)
川邊 雄大 (カワベ ユウダイ)	黒澤 文貴 (クロサワ フミタカ)	近藤 瑞木 (コンドウ ミズキ)	澤井 和彦 (サワイ カズヒコ)
河村 弘祐 (カワムラ コウスケ)	黒嶋 敏 (クロシマ サトル)	近藤 倫弘 (コンドウ ミチヒロ)	澤村 明 (サワムラ アキラ)
川村 祥子 (カワムラ ショウコ)	黒田 俊太郎 (クロダ シュンタロウ)	近藤 ゆう子 (コンドウ ユウコ)	塩川 徹也 (シオカワ テツヤ)
川本 思心 (カワモト シシン)	桑田 光平 (クワダ コウヘイ)	紺野 卓 (コンノ タク)	塩谷 雅之 (シオタニ マサユキ)
河原 清 (カワラ キヨシ)	桑名 恵 (クワナ メグミ)	雑賀 恭一 (サイガ キョウイチ)	塩谷 敬 (シオノヤ ケイ)
河原崎 やす子 (カワラサキ ヤスコ)	桑原 啓一 (クワハラ ケイチ)	西前 明 (サイゼン アキラ)	志賀 義雄 (シガ ヨシオ)

繁田 進(シゲタ ススム)	鈴木 淳平(スズキ ジュンペイ)	多田 寿康(タダ トシヤス)	堤 一彦(ツツミ カズヒコ)
重田 晴生(シゲタ ハルオ)	鈴木 隆(スズキ タカシ)	多々良 源(タタラ ゲン)	堤 ちはる(ツツミ チハル)
重光 由加(シゲミツ ユカ)	鈴木 貴宇(スズキ タカネ)	立松 隆介(タテマツ リュウスケ)	堤 康德(ツツミ ヤスリ)
宍戸 真(シンド マコト)	鈴木 隆芳(スズキ タカヨシ)	立山 利治(タテヤマ トシハル)	敦賀 陽一郎(ツルガ ヨウイチロウ)
宍戸 渉(シンド ワタル)	鈴木 健(スズキ タケシ)	田所 承己(タドコロ ヨシキ)	津津留 毅(ツルサキ タケシ)
篠崎 昌子(シノザキ マサコ)	鈴木 匡(スズキ タダシ)	田中 昭(タナカ アキラ)	鶴見 典子(ツルミ ノリコ)
篠崎 英樹(シノザキ ヒデキ)	鈴木 千代(スズキ チヨ)	田中 亜美(タナカ アミ)	ティムソン 真澄(ティムソン マスミ)
柴 宜弘(シバ ノブヒロ)	鈴木 ふさ子(スズキ フサコ)	田中 恵美子(タナカ エミコ)	手塚 裕子(テヅカ ユウコ)
芝井 清久(シバイ キョウヒサ)	鈴木 美恵子(スズキ ミエコ)	田中 訓子(タナカ クニコ)	寺田 至(テラダ イタル)
芝崎 和美(シバサキ カズミ)	鈴木 道也(スズキ ミチヤ)	田中 城次郎(タナカ ジョウジロウ)	寺田 誠一(テラダ セイイチ)
柴崎 聰(シバサキ サトシ)	鈴木 勇一郎(スズキ ユウイチロウ)	田中 信司(タナカ シンジ)	寺戸 淳子(テラド ジュンコ)
柴田 徹(シバタ トオル)	須永 美紀(スナガ ミキ)	田中 孝文(タナカ タカフミ)	寺西 範恭(テラニシ ノリヤス)
柴田 教昭(シバタ ノリアキ)	須山 聡(スヤマ サトシ)	田中 敬文(タナカ タカフミ)	寺林 賢司(テラバヤシ ケンジ)
澁川 顕一(シバカワ ケンイチ)	勢力 尚雅(セイリキ ノブマサ)	田中 成行(タナカ ナリユキ)	東松 秀雄(トウマツ ヒデオ)
澁谷 陽子(シバヤ ヨウコ)	関 仁(セキ ヒトシ)	田中 憲彦(タナカ ノリヒコ)	道用 大介(ドウヨウ ダイスケ)
嶋 正(シマ タダシ)	関口 幸男(セキグチ ユキオ)	田中 秀隆(タナカ ヒデタカ)	遠山 明子(トオヤマ アキコ)
島崎 三津子(シマザキ ミツコ)	関戸 冬彦(セキド フユヒコ)	田中 正邦(タナカ マサクニ)	時弘 哲治(トキヒロ テツジ)
嶋田 淳恵(シマダ アツエ)	関根 正幸(セキネ マサユキ)	田中 裕司(タナカ ユウジ)	徳田 英明(トクダ エイメイ)
島田 和夫(シマダ カズオ)	妹尾 新太郎(セノ シンタロウ)	田中 洋平(タナカ ヨウヘイ)	徳田 皇毅(トクダ コウキ)
嶋村 元宏(シマムラ モトヒロ)	泉水 清志(センスイ キヨシ)	谷口 康浩(タニグチ ヤスヒロ)	徳永 健伸(トクナガ タケノブ)
清水 信光(シミズ ノブミツ)	仙波 圭子(センバ ケイコ)	谷澤 叙彦(タニザワ ノブヒコ)	得能 壽美(トクノウ トシミ)
清水 尚哉(シミズ ヒサヤ)	曾根 美恵(ソネ ミエ)	田原 啓祐(タハラ ケイスケ)	土佐 尚子(トサ ナオコ)
清水 弥生(シミズ ヤヨイ)	曾根田 純子(ソネダ ジュンコ)	太原 孝英(タハラ タカヒデ)	戸田 勉(トダ ユツム)
下澤 礼子(シモザワ レイコ)	園田 洋一(ソノダ ヨウイチ)	玉井 朗(タマイ アキラ)	戸田 真夏(トダ マナツ)
下田 淳(シモダ ジュン)	田井 健太郎(タイ ケンタロウ)	田村 惠一(タムラ ケイイチ)	戸田 裕美子(トダ ユミコ)
赤土 正貴(アカツチ マサタカ)	大門 芳行(ダイモン ヨシユキ)	田村 達久(タムラ タツヒサ)	飛田 綾子(トビタ アヤコ)
朱 全安(シュ センアン)	高井 晋(タカイ ススム)	丹波 美佐子(タンバ ミサコ)	逢郷 尚代(トモゴウ ヒサヨ)
朱 珉(シュ ミン)	高江洲 昌哉(タカエス マサヤ)	漆 紅(チー ホン)	富澤 達三(トミザワ タツゾウ)
周 剛(シュウ コウ)	高尾 享幸(タカオ タカユキ)	近本 謙介(チカモト ケンスケ)	富田 悠生(トミタ ユウキ)
荀 涛(ジュン トウ)	高木 友子(タカキ ユウコ)	千々岩 靖子(チチイワ ヤスコ)	友澤 宏隆(トモザワ ヒロタカ)
庄司 達也(ショウジ タツヤ)	高木 誠一郎(タカギ セイイチロウ)	千々松 和夫(チチマツ カズオ)	友野 清文(トモノ キョフミ)
庄子 豊(ショウジ ユタカ)	高木 葉子(タカギ ヨウコ)	茅野 嘉司郎(チノ カシロウ)	外山 真理(トヤマ マリ)
正田 良(ショウダ リョウ)	高木 葉子(タカギ ヨウコ)	千葉 一大(チバ イチダイ)	鳥越 泰彦(トリゴエ ヤスヒコ)
白井 勢津子(シライ セツコ)	高鳴 景子(タカシマ ケイコ)	千葉 悦子(チバ エツコ)	トレント 信子(トレント ノボコ)
白岩 拓哉(シライワ タクヤ)	高頭 麻子(タカトウ マコ)	千葉 淳一(チバ ジュンイチ)	内藤 雅一(ナイトウ マサカズ)
白土 茂雄(シラド シゲオ)	高橋 徹(タカハシ トオル)	千葉 宏史(チバ ヒロフミ)	内藤 正人(ナイトウ マサト)
白原 由起子(シラハラ ユキコ)	高橋 尚子(タカハシ ナオコ)	千葉 優子(チバ ユウコ)	内藤 元和(ナイトウ ユキカズ)
白藤 博行(シラフジ ヒロユキ)	高橋 ひさ子(タカハシ ヒサコ)	趙 聖九(チョウ ソンク)	奈尾 信英(ナオ ノブヒデ)
白勢 京子(シロセ キョウコ)	高橋 道子(タカハシ ミチコ)	趙 小鳳(チョウ ショウホウ)	永井 淳子(ナガイ ジュンコ)
秦 邦生(シン クニオ)	高橋 幸雄(タカハシ ユキオ)	張 明傑(チョウ メイケツ)	中井 均(ナカイ ヒトシ)
新宮 富美子(シングウ フミコ)	高畑 千秋(タカハタ チアキ)	千代島 雅(チヨジマ タダシ)	長井 秀友(ナガイ ヒデオ)
新宅 巖(シンタク イワオ)	高部 千春(タカベ チハル)	鄭 洲(チョン ジュ)	長江 眞弥(ナガエ ナオヤ)
新藤 哲雄(シンドウ テツオ)	高村 正志(タカムラ マサシ)	陳 祖蓓(チン ソバイ)	長尾 敦子(ナガオ アツコ)
真道 洋子(シンドウ ヨウコ)	高山 俊則(タカヤマ トシノリ)	塚田 朋子(ツカダ トモコ)	中尾 麻衣子(ナカオ マイコ)
新保 良明(シンボ ヨシアキ)	田川 悦子(タガワ エツコ)	塚田 雅也(ツカダ マサヤ)	中尾 正史(ナカオ マサシ)
陶久 明日香(スエヒサ アスカ)	瀧川 裕貴(タキガワ ヒロキ)	塚田 麻里子(ツカダ マリコ)	長岡 政憲(ナガオカ マサノリ)
菅野 昌彦(スガノ マサヒコ)	滝沢 昌彦(タキザワ マサヒコ)	塚原 拓馬(ツカハラ タクマ)	中兼 和津次(ナカガネ カツジ)
菅原 克也(スガワラ カツヤ)	田北 康成(タキタ ヤスナリ)	塚本 俊也(ツカモト トシヤ)	中川 明博(ナカガワ アキヒロ)
菅原 純(スガワラ ジュン)	田口 幹比古(タグチ ミキヒコ)	佃 陽子(ツグダ ヨウコ)	中川 千恵子(ナカガワ チエコ)
菅原 恒彦(スガワラ ツネヒコ)	宅間 文夫(タケマ フミオ)	辻 リン(ツジ リン)	中川 雅貴(ナカガワ マサキ)
杉田 多佳子(スギタ タカコ)	竹内 倫和(タケウチ トモカズ)	辻本 拓司(ツジモト タクジ)	中川 恭明(ナカガワ ヤスアキ)
杉野 早苗月(スギノ サツキ)	竹内 智子(タケウチ トモコ)	津田 千悦子(ツダ チエコ)	長島 一比古(ナガシマ カズヒコ)
杉本 卓(スギモト タク)	竹田 久美子(タケダ クミコ)	土田 久美子(ツチダ クミコ)	中島 隆(ナカジマ タカシ)
杉山 明(スギヤマ アキラ)	竹田 智志(タケダ サトシ)	土屋 明美(ツチヤ アケミ)	中島 秀男(ナカジマ ヒデオ)
杉山 裕(スギヤマ ヒロシ)	竹中 治堅(タケナカ ハルカタ)	土屋 菜穂子(ツチヤ ナオコ)	中島 洋(ナカジマ ヒロシ)
鈴木 海三(スズキ カイゾウ)	竹野 一雄(タケノ カズオ)	土屋 文子(ツチヤ フミコ)	中島 理暁(ナカジマ マサアキ)
鈴木 聡子(スズキ サトコ)	田代 一聡(タシロ カズトシ)	土屋 良二(ツチヤ リョウジ)	中嶋 幸子(ナカジマ ユキコ)
	田嶋 規雄(タジマ ノリオ)		

中曾根 敬子 (ナカソネ ケイコ)	祢津 啓 (ネツ アキラ)	伴 好彦 (バン ヨシヒコ)	藤原 雅子 (フジワラ マサコ)
仲田 大人 (ナカタ ヒロト)	野木 香里 (ノギ カオリ)	范 力 (ハン リキ)	藤原 義博 (フジワラ ヨシヒロ)
中田 裕康 (ナカタ ヒロヤス)	野口 和彦 (ノグチ カズヒコ)	半田 純子 (ハンダ ジュンコ)	布施 克彦 (フセ カツヒコ)
永谷 万里雄 (ナガタニ マリオ)	野田 研一 (ノダ ケンイチ)	樋口 泰裕 (ヒグチ ヤスヒロ)	二村 まどか (フタムラ マドカ)
永田 雅啓 (ナガタ マサヒロ)	野田 秀三 (ノダ シュウゾウ)	彦江 智弘 (ヒコエ トモヒロ)	船木 順一 (フナキ ジュンイチ)
中條 誠一 (ナカジョウ セイイチ)	野津 寛 (ノツ ヒロシ)	日高 薫 (ヒダカ カオリ)	船木 亨 (フナキ トオル)
中西 史 (ナカニシ フミ)	野津 浩 (ノツ ヒロシ)	日野 康一郎 (ヒノ コウイチロウ)	舟橋 美香 (フナハシ ミカ)
中野 京子 (ナカノ キョウコ)	野中 雅代 (ノナカ マサヨ)	日吉 和子 (ヒヨシ カズコ)	船水 直子 (フナミズ ナオコ)
中野 基光 (ナカノ モトミツ)	野村 昌代 (ノムラ マサヨ)	平井 聰丞 (ヒライ ソウスケ)	降旗 千恵 (フリハタ チエ)
長浜 三千代 (ナガハマ ミチヨ)	野村 祐之 (ノムラ ユウシ)	平井 孝志 (ヒライ タカシ)	古川 江里子 (フルカワ エリコ)
中原 暁彦 (ナカハラ アキヒコ)	野本 茂夫 (ノモト シゲオ)	平尾 清 (ヒラオ キヨシ)	古田 知章 (フルタ トモアキ)
中原 裕貴 (ナカハラ ユタカ)	乗富 秀富 (ノリトミ ヒデタカ)	平岡 敦 (ヒラオカ アツシ)	古田 洋 (フルタ ヒロシ)
長又 高夫 (ナガマタ タカオ)	萩原 綾 (ハギワラ アヤ)	平岡 久夫 (ヒラオカ ヒサオ)	古屋 秀樹 (フルヤ ヒデキ)
中村 馨 (ナカムラ コオル)	白 榮助 (ハク エイクン)	平木 真快 (ヒラキ シンカイ)	古屋 龍太 (フルヤ リュウタ)
中村 貴美子 (ナカムラ キミコ)	朴 倍暎 (ハク ベイヨン)	平野 晶子 (ヒラノ アキコ)	部家 直樹 (ヘヤ ナオキ)
中村 國則 (ナカムラ クニノリ)	橋本 到 (ハシモト イタル)	平野 信輔 (ヒラノ シンスケ)	保苺 尚 (ホカリ ヒサシ)
中村 直子 (ナカムラ ナオコ)	橋本 克己 (ハシモト カツミ)	平野 正樹 (ヒラノ マサキ)	保坂 佳男 (ホサカ ヨシオ)
中村 尚子 (ナカムラ ナオコ)	橋本 健一 (ハシモト ケンイチ)	平松 博 (ヒラマツ ヒロシ)	星崎 和子 (ホシザキ カズコ)
中村 祐子 (ナカムラ ユウコ)	橋本 早子 (ハシモト サヨ)	平山 修平 (ヒラヤマ シュウヘイ)	星崎 幸子 (ホシザキ サチコ)
中本 恭平 (ナカモト キョウヘイ)	橋本 貴子 (ハシモト タカコ)	平山 真理 (ヒラヤマ マリ)	星野 愛秀 (ホシノ アイシュウ)
中山 健 (ナカヤマ タケン)	長谷川 明子 (ハセガワ アキコ)	広瀬 洋子 (ヒロセ ヨウコ)	細谷 等 (ホソヤ ヒトシ)
中山 豊 (ナカヤマ ユタカ)	長谷川 淳一 (ハセガワ ジュンイチ)	広瀬 佳一 (ヒロセ ヨシカズ)	堀 宏治 (ホリ コウジ)
南雲 智 (ナグモ サトル)	長谷川 宜之 (ハセガワ ヨシユキ)	広田 紘一 (ヒロタ コウイチ)	堀 健志 (ホリ タケシ)
梨本 進 (ナシモト ススム)	栢山 茂樹 (ハセヤマ シゲキ)	廣田 尚子 (ヒロタ ナオコ)	堀 暖 (ホリ ダン)
夏目 麻子 (ナツメ アサコ)	畑中 千晶 (ハタナカ チアキ)	廣田 治子 (ヒロタ ハルコ)	堀 千和子 (ホリ チワコ)
夏目 省悟 (ナツメ ショウゴ)	波多野 知子 (ハタノ トモコ)	廣本 寿夫 (ヒロモト ヒサオ)	堀 広治 (ホリ ヒロハル)
夏目 康子 (ナツメ ヤスコ)	服部 カトリーヌ	深井 智朗 (フカイ トモアキ)	堀 芙三夫 (ホリ フミオ)
鯨 博行 (ナマズ ヒロユキ)	(ハットリ カトリーヌ)	深井 吉男 (フカイ ヨシオ)	堀 有喜衣 (ホリ ユキエ)
植橋 祥一 (ナラハシ ショウイチ)	花岡 民子 (ハナオカ タミコ)	深江 敬志 (フカエ ケイジ)	堀尾 あづみ (ホリオ アヅミ)
成家 亘宏 (ナリヤ ノブヒロ)	羽田 雄一 (ハネダ ユウイチ)	福士 由紀 (フクシ ユキ)	堀尾 耕一 (ホリオ コウイチ)
成瀬 俊一 (ナルセ ジュンイチ)	浜田 一字 (ハマダ カズイ)	福島 君子 (フクシマ キミコ)	堀川 洋子 (ホリカワ ヨウコ)
難波 和子 (ナンバ カズコ)	濱田 瑞美 (ハマダ タマリ)	福島 尚文 (フクシマ ナオフミ)	本所 靖博 (ホンジョ ヤスヒロ)
新居 美津子 (ニイ ミツコ)	濱田 庸子 (ハマダ ヨウコ)	福嶋 揚 (フクシマ ヨウ)	本清 耕造 (ホンセイ コウゾウ)
新野 直哉 (ニイノ ナオヤ)	濱村 良久 (ハマムラ ヨシヒサ)	福嶋 義博 (フクシマ ヨシヒロ)	本田 明美 (ホンダ アケミ)
新村 香 (ニイムラ カオリ)	早川 亜里 (ハヤカワ アリ)	福田 耕介 (フクダ コウスケ)	本田 龍央 (ホンダ タツオ)
西 和彦 (ニシ カズヒコ)	早川 淳 (ハヤカワ ジュン)	福田 保 (フクダ タモツ)	本田 英郎 (ホンダ ヒデオ)
西井 正造 (ニシイ ショウゾウ)	早川 勉 (ハヤカワ ツトム)	福富 満久 (フクトミ ミツヒサ)	本田 秀仁 (ホンダ ヒデヒト)
西海 孝夫 (ニシウミ タカオ)	早川 洋子 (ハヤカワ ヨウコ)	藤尾 美佐 (フジオ ミサ)	本間 俊一 (ホンマ トシカズ)
西岡 祥文 (ニシオカ ヨシフミ)	早坂 五郎 (ハヤサカゴロウ)	藤掛 洋子 (フジカケ ヨウコ)	本間 晴樹 (ホンマ ハルキ)
西川 恵 (ニシカワ メグミ)	早崎 鐘基 (ハヤサキ ショウキ)	藤倉 達郎 (フジクラ タツロウ)	本間 裕章 (ホンマ ヒロアキ)
西島 央 (ニシジマ ヒロシ)	林 克彦 (ハヤシ カツヒコ)	藤沢 千代勝 (フジサワ チョウカツ)	本間 裕子 (ホンマ ヒロコ)
西田 依麻 (ニシダ エマ)	林 精子 (ハヤシ セイコ)	藤田 孝弥 (フジタ タカヤ)	洪 琬伸 (ホン エンシン)
西土 彰一郎 (ニシド ショウイチロウ)	林 力 (ハヤシ チカラ)	藤田 泰正 (フジタ ヤスマサ)	前川 孝雄 (マエカワ タカオ)
仁科 貞文 (ニシナ サダフミ)	林 英樹 (ハヤシ ヒデキ)	藤田 幸広 (フジタ ユキヒロ)	前沢 明枝 (マエザワ アキエ)
西原 稔 (ニシハラ ミノル)	林 茂人 (ハヤシ マキト)	藤林 道夫 (フジバヤシ ミチオ)	前島 和也 (マエジマ カズヤ)
西村 まりこ (ニシムラ マリコ)	林 正樹 (ハヤシ マサキ)	藤原 正仁 (フジハラ マサヒト)	前田 多美子 (マエダ タミコ)
西村 美香 (ニシムラ ミカ)	林 康子 (ハヤシ ヤスコ)	藤牧 新 (フジマキ アラタ)	前野 澄子 (マエノ スミコ)
西村 洋一 (ニシムラ ヨウイチ)	林 瑠美子 (ハヤシ ルミコ)	藤牧 喜久子 (フジマキ キクコ)	馬 燕 (マ エン)
西山 勝昭 (ニシヤマ カツアキ)	林田 愛 (ハヤシダ アイ)	藤卷 光浩 (フジマキ ミツヒロ)	益井 明子 (メイイ アキコ)
西山 千恵子 (ニシヤマ チエコ)	早野 薫 (ハヤノ カオル)	藤村 待子 (フジムラ マチコ)	益井 岳樹 (メイイ タカキ)
新田 司 (ニッタ ツカサ)	羽山 博 (ハヤマ ヒロシ)	藤本 敬三 (フジモト ケイゾウ)	升本 潔 (マシモト キヨシ)
二宮 修治 (ニノミヤ シュウジ)	原 潔 (ハラ キヨシ)	藤本 満 (フジモト ミツル)	俣野 房子 (マノ フサコ)
丹羽 さかの (ニワ サガノ)	原 卓史 (ハラ タカシ)	藤本 頼人 (フジモト ヨリヒト)	町田 隆吉 (マチダ タカヨシ)
庭野 延子 (ニワ ノブコ)	原 佑二 (ハラ ユウジ)	藤山 美典 (フジヤマ ヨシノリ)	町田 俊之 (マチダ トシユキ)
額谷 修二 (ヌカタニ シュウジ)	原田 敦史 (ハラダ アツシ)	藤原 淳賀 (フジワラ アツヨシ)	町田 行男 (マチダ ユキオ)
根岸 徹郎 (ネギシ テツロウ)	原田 理恵 (ハラダ リエ)	藤原 一弘 (フジワラ カズヒロ)	松井 賢治 (マツイ ケンジ)
根岸 知生 (ネギシ トモオ)	春名 宏昭 (ハルナ ヒロアキ)	富士原 紀絵 (フジワラ キエ)	松井 洋 (マツイ ヒロシ)

松井 浩 (マツイ ヒロシ)	宮越 智子 (ミヤコシ トモコ)	安富 義泰 (ヤストミ ヨシヤス)	吉岡 秀輝 (ヨシオカ ヒデキ)
松尾 知明 (マツオ トモアキ)	宮崎 克己 (ミヤザキ カツミ)	安原 伸一朗 (ヤスハラ シンイチロウ)	吉川 真 (ヨシカワ マコト)
松岡 チカ子 (マツオカ チカコ)	宮崎 文典 (ミヤザキ フミノリ)	谷田 征子 (ヤツダ マサコ)	芳川 ゆかり (ヨシカワ ユカリ)
松崎 英士 (マツザキ エイジ)	宮崎 美智子 (ミヤザキ ミチコ)	箭内 道彦 (ヤナイ ミチヒコ)	吉川 好昭 (ヨシカワ ヨシアキ)
松崎 かおり (マツザキ カオリ)	宮沢 厚雄 (ミヤザワ アツオ)	柳 宏 (ヤナギ ヒロシ)	吉田 典代 (ヨシダ ノリヨ)
松崎 くみ子 (マツザキ クミコ)	宮下 聡子 (ミヤシタ サトコ)	柳澤 波香 (ヤナギザワ ナミカ)	吉田 パトリシア (ヨシダ パトリシア)
松崎 毅 (マツザキ タケシ)	宮部 頼子 (ミヤベ ヨリコ)	柳原 恵津子 (ヤナギハラ エツコ)	吉田 寛 (ヨシダ ヒロシ)
松澤 孝紀 (マツザワ タカトシ)	宮丸 裕二 (ミヤマル ユウジ)	矢野 陽子 (ヤノ ヨウコ)	吉富 透 (ヨシトミ トウル)
松下 純一 (マツシタ ジュンイチ)	宮本 和武 (ミヤモト カズム)	矢延 洋泰 (ヤノベ ヒロヤス)	吉本 素子 (ヨシモト モトコ)
松下 正弘 (マツシタ マサヒロ)	宮本 直利 (ミヤモト ナオシ)	山内 豊 (ヤマウチ ユタカ)	米倉 律 (ヨネクラ リツ)
松下 みどり (マツシタ ミドリ)	宮森 孝史 (ミヤモリ タカシ)	山岡 透 (ヤマオカ トオル)	米田 博美 (ヨネダ ヒロミ)
松田 英子 (マツダ エイコ)	宮脇 和 (ミヤワキ カノウ)	山岡 洋一 (ヤマオカ ヨウイチ)	米山 明日香 (ヨネヤマ アスカ)
松田 英 (マツダ スグル)	明日 誠一 (ミョウガ セイイチ)	山影 進 (ヤマカゲ ススム)	羅 奇祥 (ラ キシヨウ)
松田 奈利子 (マツダ ナリコ)	三輪 イルマ (ミワ イルマ)	山上 真貴子 (ヤマガミ マキコ)	李 鴻谷 (リ コウコク)
松野 彩 (マツノ アヤ)	三輪 久恵 (ミワ ヒサエ)	八巻 直一 (ヤマキ ナオカズ)	李 鍾強 (リ ソウキョウ)
松村 茂樹 (マツムラ シゲキ)	向島 正喜 (ムコウジマ マサキ)	山岸 健一 (ヤマギシ ケンイチ)	李 哲権 (リ テツケン)
松村 芳明 (マツムラ ヨシアキ)	宗実 陽子 (ムネサネ ヨウコ)	山北 宣久 (ヤマキタ ノブヒサ)	流郷 吐夢 (リュウゴウ トム)
松本 麻子 (マツモト アサコ)	村井 英紀 (ムライ ヒデノリ)	山口 浩平 (ヤマグチ コウヘイ)	若園 智明 (ワカゾノ チアキ)
松本 恵美子 (マツモト エミコ)	村岡 正敏 (ムラオカ マサトシ)	山口 しのぶ (ヤマグチ シノブ)	涌井 陽子 (ウクイ ヨウコ)
松本 旬子 (マツモト ジュンコ)	村上 桂一 (ムラカミ ケイイチ)	山口 昌也 (ヤマグチ マサヤ)	和治元 義博 (ワジモト ヨシヒロ)
松本 光朗 (マツモト ミツオ)	村椿 真理 (ムラツバキ マコト)	山口 まどか (ヤマグチ マドカ)	渡邊 章 (ワタナベ アキラ)
松本 渉 (マツモト ワタル)	村中 崇信 (ムラナカ タカノブ)	山口 理沙 (ヤマグチ リサ)	渡辺 聡 (ワタナベ アキラ)
真殿 達 (マドノ サトル)	村中 亮子 (ムラナカ リョウコ)	山崎 朗 (ヤマザキ アキラ)	渡辺 敦子 (ワタナベ アツコ)
眞部 清孝 (マナベ キヨタカ)	村松 廣二 (ムラマツ コウジ)	山崎 和美 (ヤマザキ カズミ)	渡辺 紫乃 (ワタナベ シノ)
眞鍋 淳哉 (マナベ ジュンヤ)	村山 祐季子 (ムラヤマ ユキコ)	山崎 俊明 (ヤマザキ トシアキ)	渡辺 隆司 (ワタナベ タカシ)
眞鍋 正紀 (マナベ マサノリ)	妻鹿 裕子 (メガ ユウコ)	山下 清美 (ヤマシタ キヨミ)	渡邊 貴彦 (ワタナベ タカヒコ)
馬淵 彰 (マブチ アキラ)	目黒 正武 (メグロ マサタケ)	山田 晶雄 (ヤマダ アキオ)	渡辺 岳夫 (ワタナベ タケオ)
馬渡 鎮夫 (マワタリ ジンオ)	持田 顕一 (モチダ ケンイチ)	山田 歩 (ヤマダ アユミ)	渡部 富栄 (ワタナベ トミエ)
三浦 逸雄 (ミウラ イツオ)	望月 正光 (モチツキ マサミツ)	山田 高敬 (ヤマダ タカヒロ)	渡邊 直樹 (ワタナベ ナオキ)
三浦 太郎 (ミウラ タロウ)	元山 斉 (モトヤマ ヒトシ)	山田 忠彰 (ヤマダ タダアキ)	渡邊 英則 (ワタナベ ヒデノリ)
三浦 正広 (ミウラ マサヒロ)	森 一郎 (モリ イチロウ)	山田 晴通 (ヤマダ ハルミチ)	渡辺 浩 (ワタナベ ヒロシ)
三上 威彦 (ミカミ タケヒコ)	森 啓次郎 (モリ ケイジロウ)	山田 博志 (ヤマダ ヒロシ)	渡辺 博之 (ワタナベ ヒロユキ)
三神 弘子 (ミカミ ヒロコ)	森 幸穂 (モリ サチホ)	山田 寛子 (ヤマダ ヒロコ)	渡邊 雅之 (ワタナベ マサユキ)
美甘 哲秀 (ミカモ テツヒデ)	森 徹 (モリ トオル)	山田 好一 (ヤマダ ヨシカズ)	渡邊 義浩 (ワタナベ ヨシヒロ)
三木 泰弘 (ミキ ヤスヒロ)	森 長秀 (モリ ナガヒデ)	大和 洋子 (ヤマト ヨウコ)	渡部 良子 (ワタベ リョウコ)
水嶋 裕子 (ミズシマ ヒロコ)	森 晴代 (モリ ハルヨ)	山中 宏治 (ヤマナカ コウジ)	
水島 陽子 (ミズシマ ヨウコ)	森 秀夫 (モリ ヒデオ)	山根 信二 (ヤマネ シンジ)	
水谷 尚子 (ミズタニ ナオコ)	森 秀善 (モリ ヒデオシ)	山内 康英 (ヤマノウチ ヤスヒデ)	
水野 利紀 (ミズノ トシキ)	森 正樹 (モリ マサキ)	山邊 進 (ヤマベ ススム)	
水野 浩幸 (ミズノ ヒロユキ)	森 雅文 (モリ マサフミ)	山邊 美登子 (ヤマベ ミトコ)	
水本 義彦 (ミズモト ヨシヒコ)	森崎 初男 (モリサキ ハツオ)	山本 昭代 (ヤマモト アキヨ)	
見世 千賀子 (ミセ チカコ)	森田 茂之 (モリタ シゲユキ)	山本 直人 (ヤマモト ナオト)	
溝口 甲順 (ミゾグチ カブスン)	森田 千草 (モリタ チグサ)	山本 宣明 (ヤマモト ノブアキ)	
三田村 智 (ミタムラ サトシ)	森田 英利 (モリタ ヒデトシ)	山本 泰生 (ヤマモト ヤスオ)	
道下 徳成 (ミチシタ ナルシゲ)	森本 真一 (モリモト シンイチ)	山本 裕一 (ヤマモト ユウイチ)	
三井 はるみ (ミツイ ハルミ)	森本 平 (モリモト タイラ)	山本 幸生 (ヤマモト ユキオ)	
三井 清 (ミツイ キヨシ)	森山 久留美 (モリヤマ クルミ)	山本 吉宣 (ヤマモト ヨシノブ)	
光延 京子 (ミツノブ キョウコ)	両角 亜希子 (モロズミ アキコ)	湯川 次義 (ユカワ ツギヨシ)	
三橋 郁雄 (ミツハシ イクオ)	八重田 美衣 (ヤエダ ミエ)	横江 公美 (ヨコエ クミ)	
南山 宏之 (ミナヤマ ヒロユキ)	矢ヶ崎 隆二郎 (ヤガサキ リュウジロウ)	横川 耕二 (ヨコカワ コウジ)	
三原 裕子 (ミハラ ユウコ)	八木 直人 (ヤギ ナオト)	横田 逸郎 (ヨコタ イツロウ)	
宮尾 依子 (ミヤオ ヨリコ)	八木岡 茂一 (ヤギオカ モイチ)	横田 順子 (ヨコタ ジュンコ)	
宮川 真一 (ミヤガワ シンイチ)	薬 会 (ヤク カイ)	横山 俊一 (ヨコヤマ ジュンイチ)	
宮城 妙子 (ミヤギ タエコ)	谷口 幸一 (ヤグチ コウイチ)	横山 詔一 (ヨコヤマ ショウイチ)	
三宅 京子 (ミヤケ キョウコ)	矢頭 攸介 (ヤズ ユウスケ)	横山 晴彦 (ヨコヤマ ハルヒコ)	
三宅 正純 (ミヤケ マサスミ)	安田 孝子 (ヤスタ タカコ)	吉岡 愛子 (ヨシオカ アイコ)	
三宅 麻理 (ミヤケ マリ)	安田 努 (ヤスタ ツトム)	吉岡 貴雄 (ヨシオカ タカオ)	

学務担当窓口について

キャンパス	学務担当窓口	事務取扱時間	
相模原キャンパス	学務グループ (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金)	(土)
		9:00～11:30	9:00～11:30
		12:30～15:05 16:05～17:00	
青山キャンパス	学務部 教務課 (8号館1階)	(月～金)	(土)
		9:00～15:00 16:00～20:00	9:00～11:30 14:00～20:00
	学務部 教職課程課 (8号館1階)	(月・水・木)	(土)
		9:00～11:30 12:30～16:00	9:00～11:30
		(火・金)	
		9:00～11:30 12:30～16:00 17:00～20:00	

*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・学芸員・社会教育主事)取得に関すること
- 証明書の交付

種類	取扱窓口	手数料(1通につき)
在学証明書	証明書自動発行機 注1) 所属キャンパスの学務担当窓口	和文 200円 英文 400円
成績証明書		
卒業見込証明書		
本学が定めた様式以外の証明書 注2)	所属キャンパスの学務担当窓口	
学力に関する証明書	青山キャンパス教職課程課 相模原キャンパス教職課程担当窓口	和文 400円
免許状取得見込証明書		和文 200円
各種資格取得見込証明書		
健康診断証明書	証明書自動発行機 注1) 英文・指定用紙は保健管理センター	和文 200円 英文 400円

注1) 在学生の証明書発行は、原則として自動発行機をお使いください。

注2) 即日発行できない証明書があるので事前に取扱窓口で確認してください。

*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名